

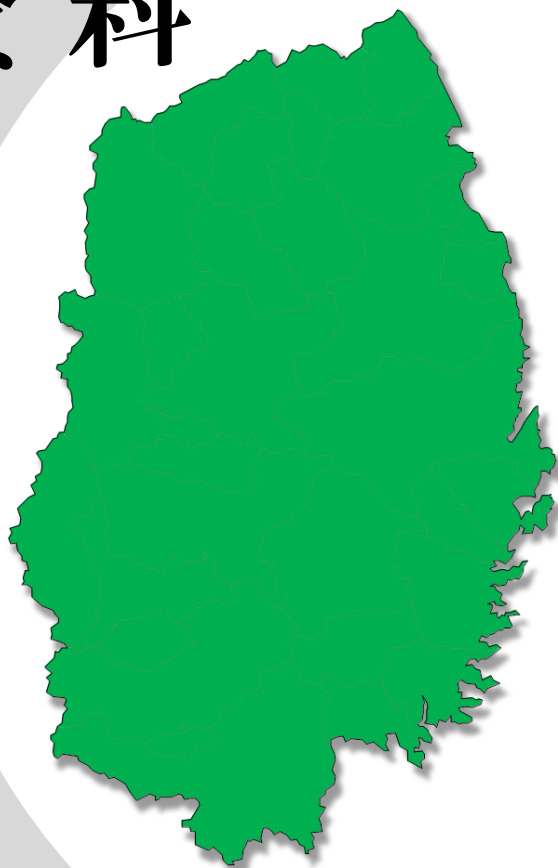
岩手県東日本大震災津波復興計画の取組状況等に関する報告書

いわて復興レポート

2014

- 第1期(平成23年度～平成25年度)の取組 -

参考資料



平成26年7月
岩手県

参考資料目次

第1章 全体の状況	2
第2章 分野別の状況		
1 安全の確保	17
I 防災のまちづくり	21
II 交通ネットワーク	30
2 暮らしの再建	34
I 生活・雇用	39
II 保健・医療・福祉	48
III 教育・文化	54
IV 地域コミュニティ	60
V 市町村行政機能	63
3 なりわいの再生	66
I 水産業・農林業	74
II 商工業	83
III 観光	90
第3章 各種指標の状況		
1 人口の状況	96
2 経済の状況	97
3 被害の状況	98
4 国内外からの支援の状況	99
【参考】		
復興実施計画(第1期)の 事業概要及び実績	101



第1章

全体の状況

全体の状況

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

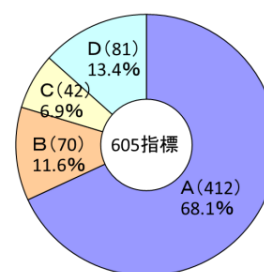
全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 79.7%（482指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 20.3%（123指標）

実質的遅れ 7.8%（47指標）

【対第1期末目標】



3つの原則

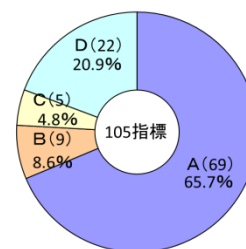
原則1 安全の確保

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 74.3%（78指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 25.7%（27指標）

実質的遅れ 21.9%（23指標）

【対第1期末目標】



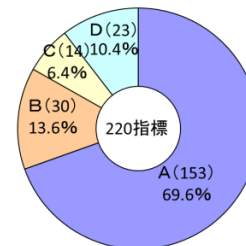
原則2 暮らしの再建

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 83.2%（183指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 16.8%（37指標）

実質的遅れ 5.0%（11指標）

【対第1期末目標】



原則3 なりわいの再生

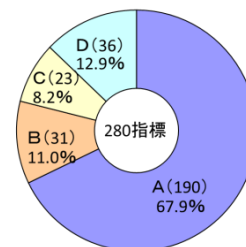
【対第1期末目標】

第1期末目標に対する進捗率

・「A」及び「B」(80%以上) 78.9% (221指標)

・「C」及び「D」(80%未満) 21.1% (59指標)

実質的遅れ 4.6% (13指標)



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

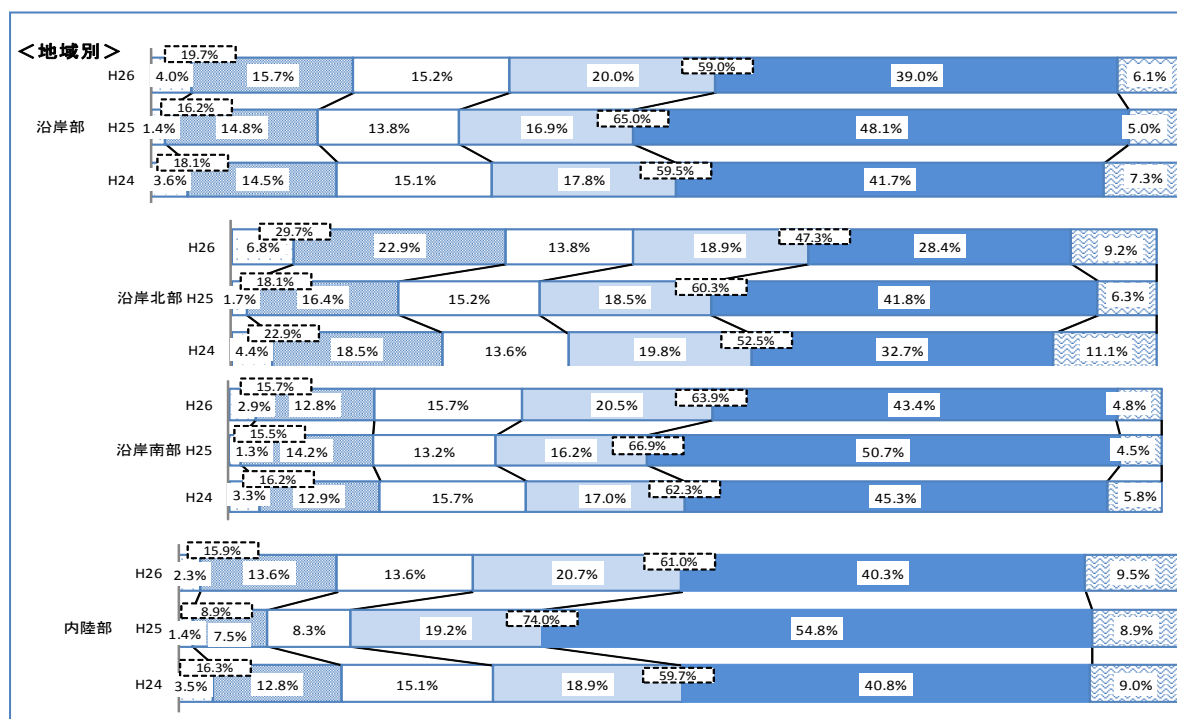
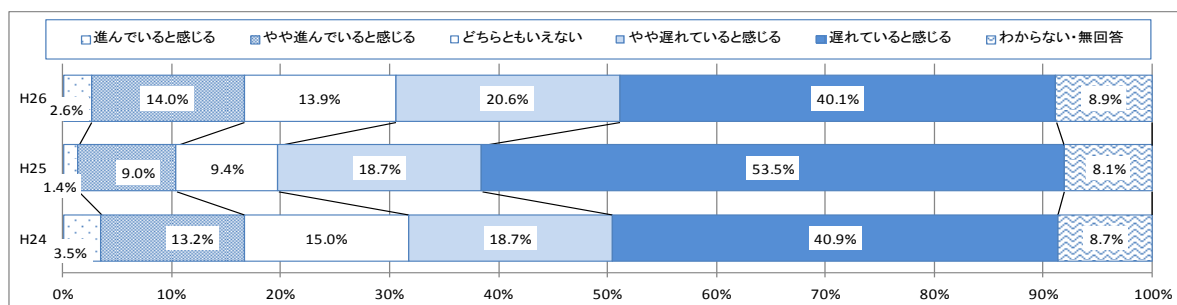
● 全般的な復旧・復興の実感について

(1) 岩手県全体の復旧・復興の実感

○岩手県全体の復旧・復興の実感について、県全域では「進んでいると感じる」「やや進んでいると感じる」の合計(16.6%)は、前回(平成 25 年)調査の合計(10.4%)から 6.2 ポイント増加し、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の合計(60.7%)は、前回調査の合計(72.2%)から 11.5 ポイント減少している。

○地域別に見ると、「進んでいると感じる」「やや進んでいると感じる」の合計は、前回調査に比べ、沿岸部で 3.5 ポイント、内陸部で 7.0 ポイント増加し、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の合計は、沿岸部で 6.0 ポイント、内陸部で 13.0 ポイント減少している。また、「岩手県全体の復旧・復興の実感」は、前回調査同様、沿岸部の回答が内陸部の回答を上回る結果となっている。

【設問】 岩手県全体をみて、震災からの復旧・復興が進んでいると感じますか。

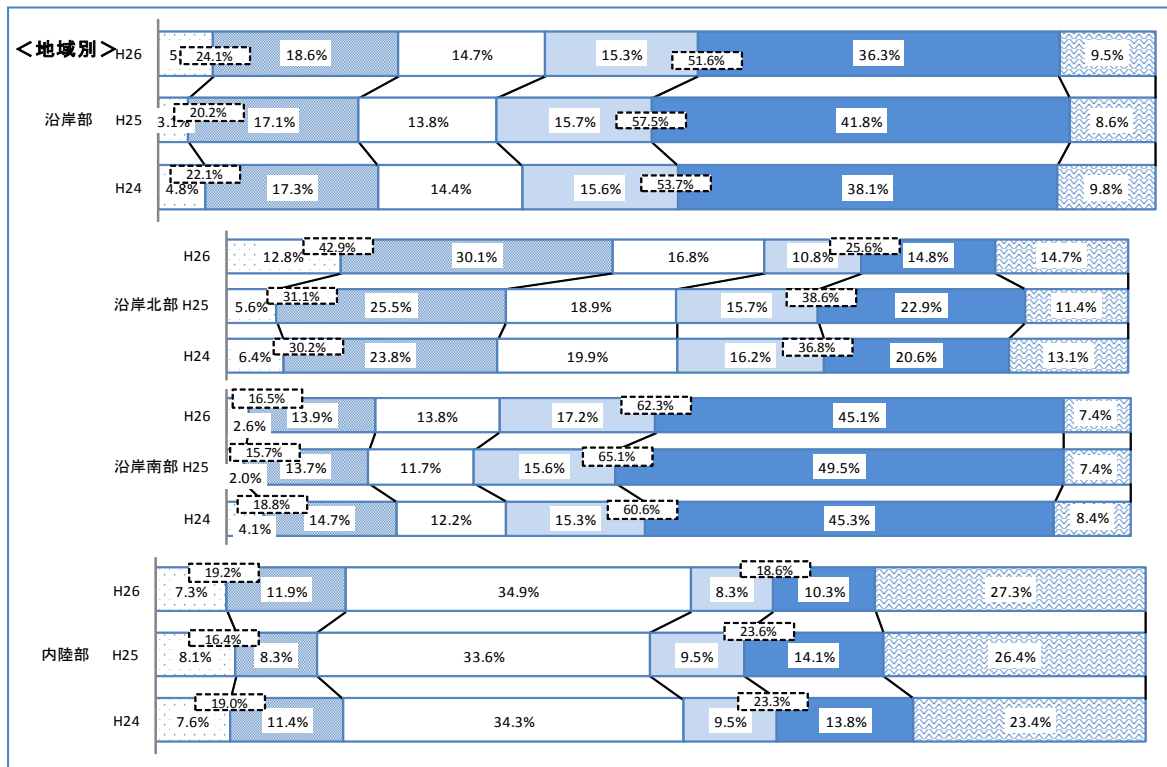
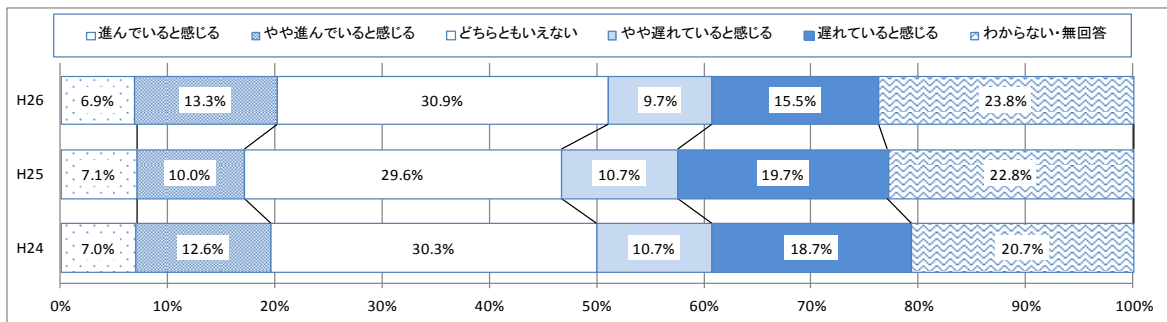


(2) お住まいの市町村の復旧・復興の実感

○お住まいの市町村の復旧・復興の実感について、県全域では「進んでいると感じる」「やや進んでいると感じる」の合計(20.2%)は、前回(平成25年)調査の合計(17.1%)から3.1ポイント増加し、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の合計(25.2%)は、前回調査の合計(30.4%)から5.2ポイント減少している。

○地域別に見ると、「進んでいると感じる」「やや進んでいると感じる」の合計は、前回調査に比べ、沿岸部で3.9ポイント、内陸部で2.8ポイント増加し、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の合計は、沿岸部では5.9ポイント、内陸部では5.0ポイント減少している。

【設問】あなたがお住まいの市町村をみて、震災からの復旧・復興が進んでいると感じますか。
 なお、震災時にお住まいだった市町村から転居されている方は、震災時にお住まいだった市町村の状況について、お答えください。



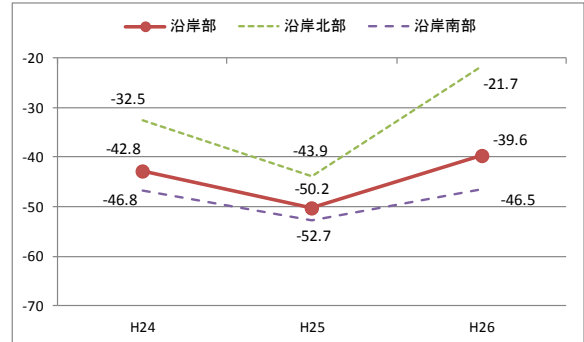
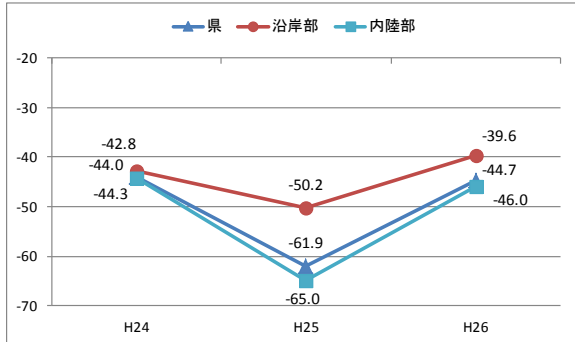
＜動向判断指数（D I）の推移＞

＜動向判断指数（D I）＞

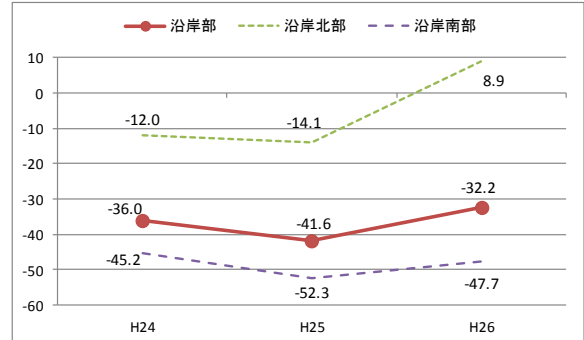
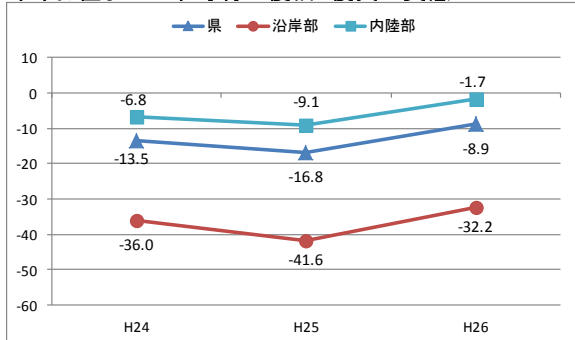
5段階の選択肢毎の回答数がそれぞれA、B、C、D、Eのとき、次式により単純集計して全回答に対する構成比率を求める。

$$\text{動向判断指数 (D I)} = \{(A \times 2 + B) - (D + E \times 2)\} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

(1) 岩手県全体の復旧・復興の実感



(2) お住まいの市町村の復旧・復興の実感



● 施策別の復旧・復興の重要度・進捗への実感などについて

○施策別の復旧・復興の重要度及び進捗への実感などについては、「進捗の実感」に比べて「重要度」が全般的に高い水準にあり、復興促進ニーズ度(「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じたもの)は、前々回(平成24年)調査、前回(平成25年)調査、今回と、年々減少してきてはいるものの、依然として一定の水準となっている。

【設問】 復興計画の3つの原則に基づいた復興を実現するための具体的な取組について、「あなたから見た重要度」と「あなたの復旧・復興の実感」についてお伺いします。

項目別の重要度、進捗への実感、復興促進ニーズ度(県全域)

3つの原則	番号	項目	重要度	進捗への 実感	復興促進ニーズ度		
					(H25)	(H24)	
「安全」の確保	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり	4.61	2.39	2.23	2.57	2.54
	1-2	防潮堤や防波堤などの整備	4.47	2.29	2.18	2.82	2.86
	1-3	放射能への安全対策	4.62	2.07	2.55	2.70	2.79
	1-4	震災の記憶を未来に語り継ぐための取組	4.48	2.97	1.50	1.78	1.88
	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備	4.65	2.48	2.17	2.43	2.54
	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧	4.48	2.70	1.78	2.48	2.73
「暮らし」の再建	2-1	災害時における高齢者や障がい者を支援する体制づくり	4.61	2.36	2.26	2.47	2.51
	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給	4.73	2.04	2.68	3.06	2.97
	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組	4.74	2.25	2.49	2.82	2.96
	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保	4.73	2.30	2.44	2.81	2.99
	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復	4.76	2.57	2.19	2.58	2.56
	2-6	被災地の健康づくりやこころのケアの推進	4.56	2.74	1.81	2.11	2.08
	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備	4.75	2.56	2.19	2.58	2.57
	2-8	被災した伝統芸能団体の再興	3.90	2.81	1.08	1.35	1.45
	2-9	被災した公民館、図書館の復旧・整備	4.13	2.61	1.53	1.84	1.84
	2-10	被災したスポーツ・レクリエーション施設の復旧・整備	3.92	2.50	1.42	1.67	1.62
	2-11	被災地域のコミュニティ活動(自治会、町内会など)の活性化	4.26	2.84	1.42	1.67	1.76
	2-12	被災した市町村の行政機能の回復	4.65	2.89	1.76	2.12	2.17
「なりわい」の再生	3-1	地域の特性を生かした農林水産業の振興	4.43	2.53	1.90	2.10	2.33
	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備	4.68	2.78	1.90	2.32	2.66
	3-3	被災した漁港の復旧・整備	4.71	2.62	2.08	2.55	2.80
	3-4	水産加工品の製造再開や県内外での販売の回復	4.59	2.78	1.80	2.22	2.54
	3-5	被災した農地などの復旧・整備	4.56	2.36	2.20	2.57	2.77
	3-6	被災した木材加工施設などの復旧・整備	4.37	2.52	1.85	2.17	2.46
	3-7	被災した商工業者の事業の再開	4.50	2.47	2.03	2.34	2.53
	3-8	被災した商店街の再開、新たな商店街の整備	4.51	2.30	2.21	2.45	2.49
	3-9	ものづくり産業(製造業)の集積、新産業の創出	4.38	2.46	1.92	2.22	2.36
	3-10	観光客の回復・増加	4.23	2.79	1.44	1.97	2.01
	3-11	被災した観光施設の復旧	4.38	2.49	1.90	2.27	2.38
平均			4.50	2.53	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明〕

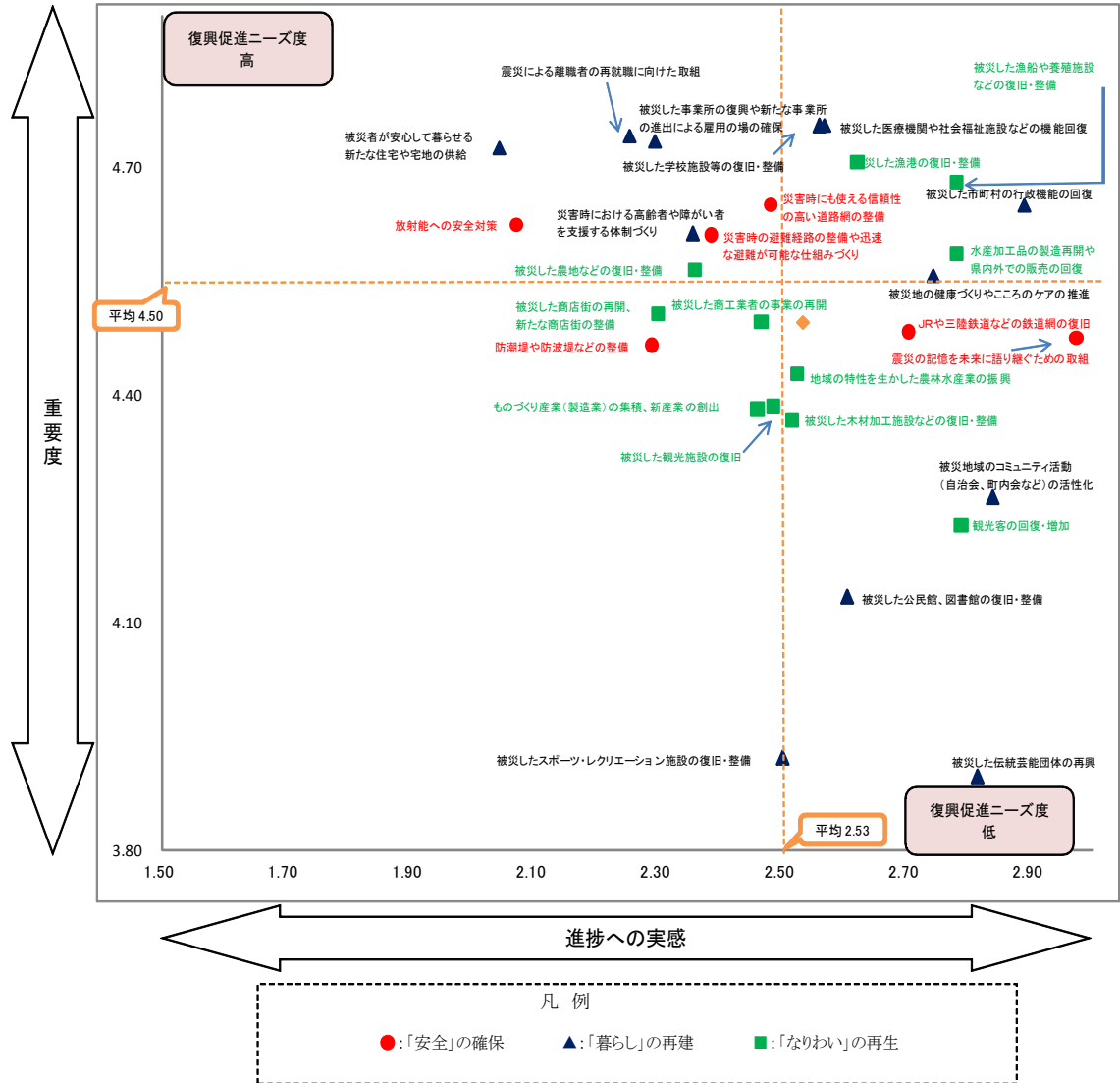
重要度： 「重要である」を5点、「やや重要である」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「重要ではない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

進捗への実感： 「進んでいると感じる」を5点、「やや進んでいると感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや遅れていると感じる」を2点、「遅れていると感じる」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

復興促進ニーズ度： 「重要度」-「進捗への実感」
(重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。)

全体の状況(復興に関する意識調査)

(参考) 項目別の「重要度」と「進捗への実感」との関係
【県全域】



【復興促進ニーズ度の高い順】(復興促進ニーズ度=「重要度」-「進捗への実感」)

順位	(H28) 区分	番号	項目	ニーズ度	順位	(H28) 区分	番号	項目	ニーズ度	順位	(H28) 区分	番号	項目	ニーズ度
1	(1) 暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給	2.68	11	(3) 安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備	2.18	21	(18) 暮らし	3-4	水産加工品の製造再開や県内外での販売の回復	1.80
2	(5) 安全	1-3	放射能への安全対策	2.55	12	(14) 安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備	2.17	22	(11) 安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧	1.78
3	(2) 暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組	2.49	13	(10) 暮らし	3-3	被災した漁港の復旧・整備	2.08	23	(21) 暮らし	2-12	被災した市町村の行政機能の回復	1.76
4	(4) 暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の確保	2.44	14	(15) 暮らし	3-7	被災した商工業者の事業の再開	2.03	24	(25) 暮らし	2-9	被災した公民館、図書館の復旧・整備	1.53
5	(12) 暮らし	2-1	災害時における高齢者や障がい者を支える体制づくり	2.26	15	(19) 暮らし	3-9	ものづくり産業(製造業)の集積、新産業の創出	1.92	25	(26) 安全	1-4	震災の記憶を未来に語り継ぐための取組	1.50
6	(8) 安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり	2.23	16	(23) 暮らし	3-1	地域の特性を生かした農林水産業の振興	1.90	26	(24) 暮らし	3-10	観光客の回復・増加	1.44
7	(13) 暮らし	3-8	被災した商店街の再開、新たな商店街の整備	2.21	17	(16) 暮らし	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備	1.90	27	(27) 暮らし	2-11	被災地域のコミュニティ活動(自治会、町内会など)の活性化	1.42
8	(9) 暮らし	3-5	被災した農地などの復旧・整備	2.20	18	(17) 暮らし	3-11	被災した観光施設の復旧	1.90	28	(28) 暮らし	2-10	被災したスポーツ・レクリエーション施設の復旧・整備	1.42
9	(7) 暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備	2.19	19	(20) 暮らし	3-6	被災した木材加工施設などの復旧・整備	1.85	29	(29) 暮らし	2-8	被災した伝統芸能団体の再興	1.08
10	(6) 暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復	2.19	20	(22) 暮らし	2-6	被災地の健康づくりやこころのケアの推進	1.81					

(参考) 復興促進ニーズ度の順位変動 (H25⇒H26)

☆ 下表「主な変動」欄には、前年(平成25年)調査時から5つ以上、順位が上昇した(または下降した)項目に、矢印を表示している

順位	H25 順位	主な 変動	区分	復興促進ニーズ度 (重要度－進捗の実感)	重要度	進捗への 実感	
1	1		暮らし	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給	2.68	4.73	2.04
2	5		安全	放射能への安全対策	2.55	4.62	2.07
3	2		暮らし	震災による離職者の再就職に向けた取組	2.49	4.74	2.25
4	4		暮らし	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保	2.44	4.73	2.30
5	12	↑	暮らし	災害時における高齢者や障がい者を支援する体制づくり	2.26	4.61	2.36
6	8		安全	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり	2.23	4.61	2.39
7	13	↑	なりわい	被災した商店街の再開、新たな商店街の整備	2.21	4.51	2.30
8	9		なりわい	被災した農地などの復旧・整備	2.20	4.56	2.36
9	7		暮らし	被災した学校施設等の復旧・整備	2.19	4.75	2.56
10	6		暮らし	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復	2.19	4.76	2.57
11	3	↓	安全	防潮堤や防波堤などの整備	2.18	4.47	2.29
12	14		安全	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備	2.17	4.65	2.48
13	10		なりわい	被災した漁港の復旧・整備	2.08	4.71	2.62
14	15		なりわい	被災した商工業者の事業の再開	2.03	4.50	2.47
15	19		なりわい	ものづくり産業(製造業)の集積、新産業の創出	1.92	4.38	2.46
16	23	↑	なりわい	地域の特性を生かした農林水産業の振興	1.90	4.43	2.53
17	16		なりわい	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備	1.90	4.68	2.78
18	17		なりわい	被災した観光施設の復旧	1.90	4.38	2.49
19	20		なりわい	被災した木材加工施設などの復旧・整備	1.85	4.37	2.52
20	22		暮らし	被災地の健康づくりやこころのケアの推進	1.81	4.56	2.74
21	18		なりわい	水産加工品の製造再開や県内外での販売の回復	1.80	4.59	2.78
22	11	↓	安全	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧	1.78	4.48	2.70
23	21		暮らし	被災した市町村の行政機能の回復	1.76	4.65	2.89
24	25		暮らし	被災した公民館、図書館の復旧・整備	1.53	4.13	2.61
25	26		安全	震災の記憶を未来に語り継ぐための取組	1.50	4.48	2.97
26	24		なりわい	観光客の回復・増加	1.44	4.23	2.79
27	27		暮らし	被災地域のコミュニティ活動(自治会、町内会など)の活性化	1.42	4.26	2.84
28	28		暮らし	被災したスポーツ・レクリエーション施設の復旧・整備	1.42	3.92	2.50
29	29		暮らし	被災した伝統芸能団体の再興	1.08	3.90	2.81

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った29項目の中で数値が高い順位。

全体の状況(復興に関する意識調査)

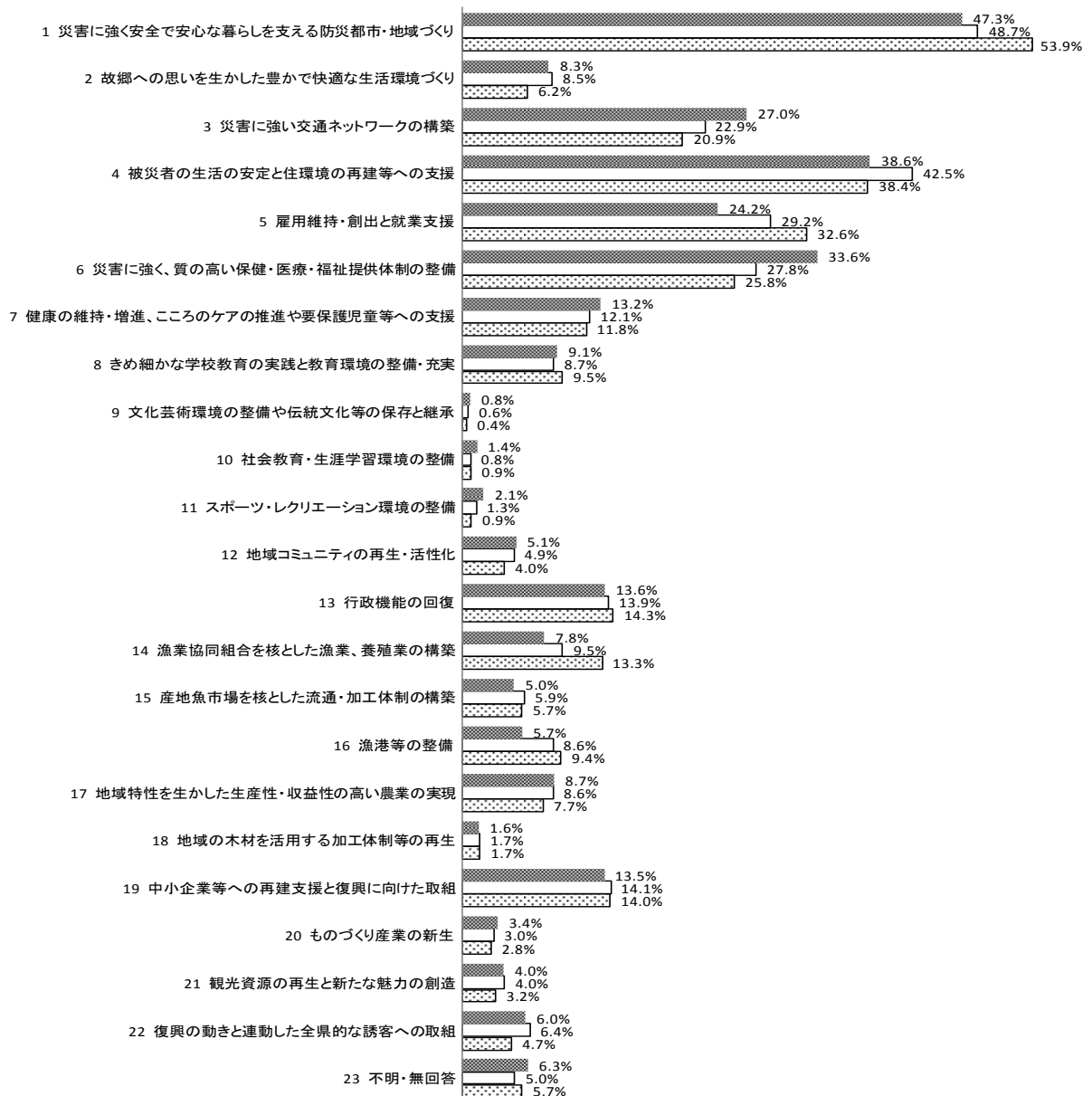
● 復旧・復興に向けた優先施策について

○復旧・復興に向けた優先施策について、県全域では、「1 災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり」の割合(47.3%)が最も高く、次いで「4 被災者の生活の安定と住環境の再検討への支援」(38.6%)、「6 災害に強く、質の高い保健・医療・福祉提供体制の整備」(33.6%)などが高くなっている。

○地域別に見ると、上記とほぼ同様の傾向であるが、沿岸部では「6 災害に強く、質の高い保健・医療・福祉提供体制の整備」が2番目に高い結果となっている。

○前回(平成25年)調査と比較すると、上位5施策の項目は同じであるが、「6 災害に強く、質の高い保健・医療・福祉提供体制の整備」「3 災害に強い交通ネットワークの構築」が割合・順位ともに高くなっている。

【設問】 あなたは復旧・復興を進めるために優先的に進めて欲しい施策について、次の項目(22の取組項目)の1から22のなかから3つ選び、番号に○をつけてください。



平成 26 年【第 1 回】 いわて復興ウォッチャー調査 [平成 26 年 3 月 28 日]

<動向判断指数 (D I) の推移>

<動向判断指数 (D I) >

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(D I)について時系列にその推移を表わしたものである。

動向判断指数(D I)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらとも言えない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する

$$\text{動向判断指数 (D I)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度・直近3ヶ月間の進捗状況

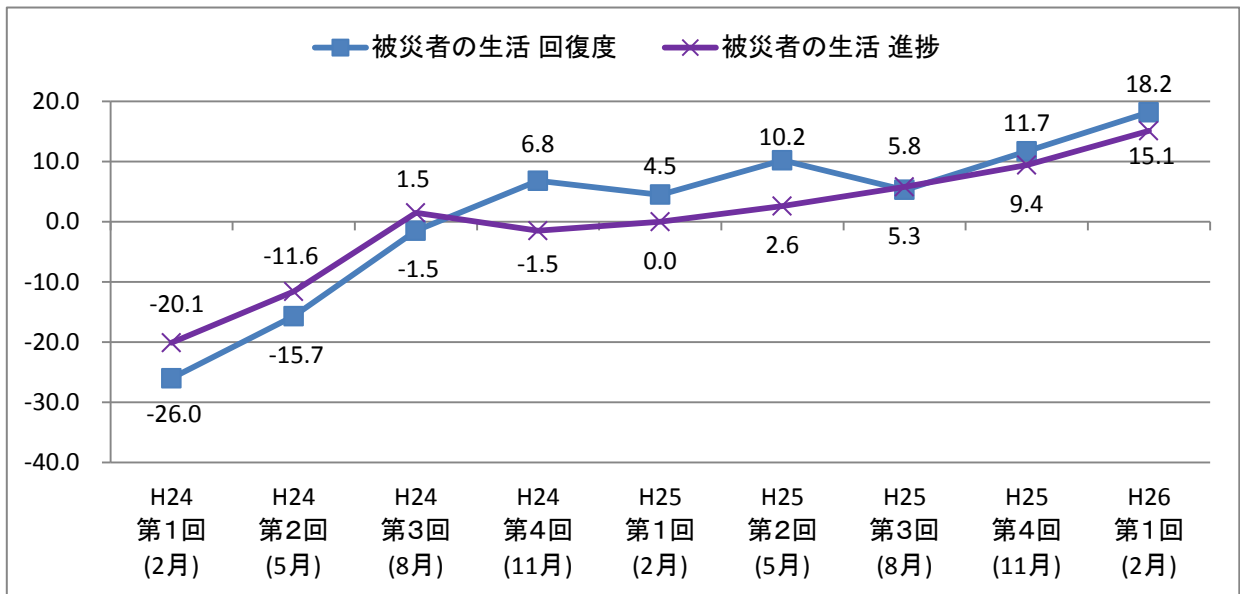
【設問】

- 1 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

回復した/やや回復した/どちらとも言えない/あまり回復していない/回復していない

- 2 あなたの周囲をご覧になって、最近(3ヶ月間程度)の被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？

進んでいる/やや進んでいる/どちらとも言えない/あまり進んでいない/進んでいない



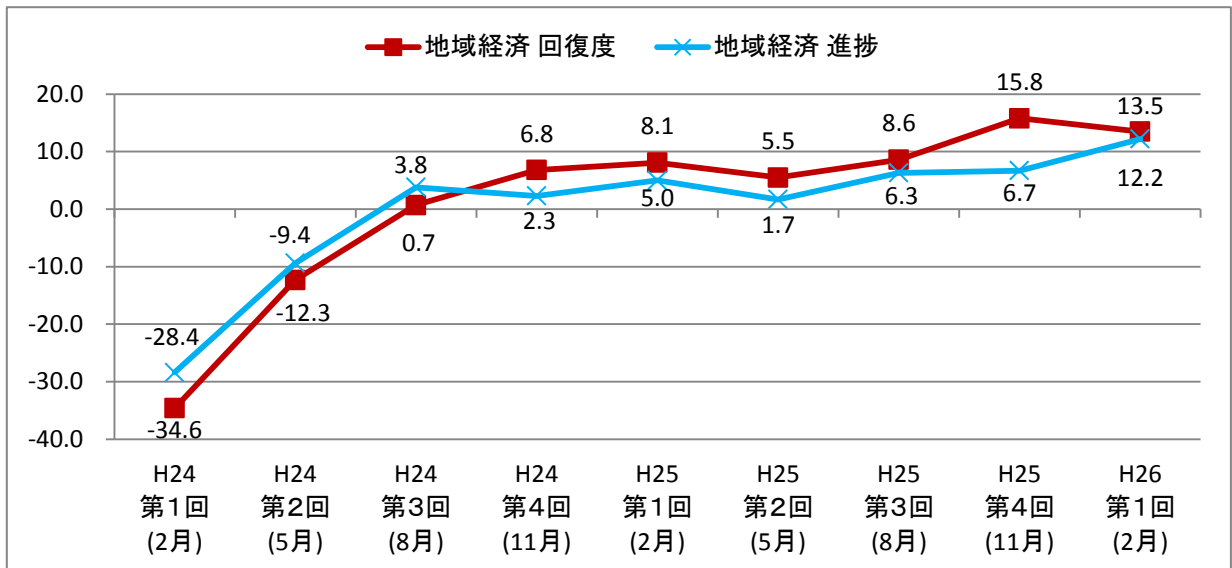
回復度：上下動はあるものの、全体としては前進してきている。

進捗：H24年第4回で一旦下降したが、以降堅調に推移している。

【地域経済】回復度・直近3ヶ月間の進捗状況

【設問】

- 1 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？
回復した/やや回復した/とちらとも言えない/あまり回復していない/回復していない
- 2 あなたの周囲をご覧になって、最近（3ヶ月間程度）の地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？
進んだ/やや進んだ/とちらとも言えない/あまり進んでいない/進んでいない



回復度：堅調な推移を見せていたが、H26年第1回では若干の後退という結果となった。

進捗：上下動はあるものの、全体としては着実な前進を見せている。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度・直近3ヶ月間の進捗状況

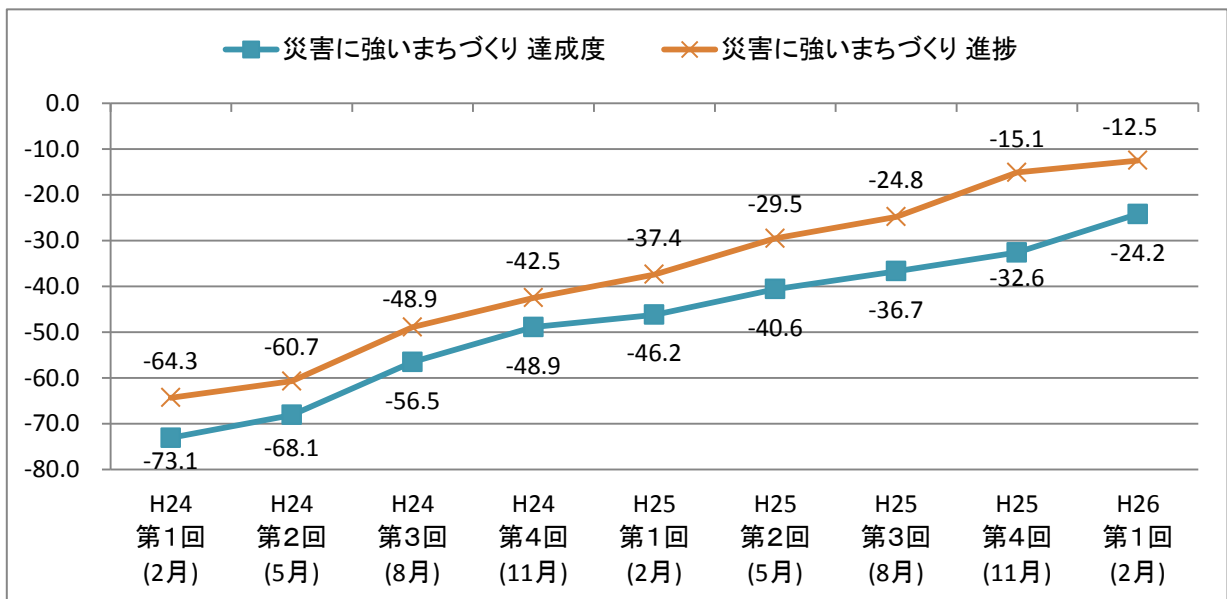
【設問】

1 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

達成した/やや達成した/どちらとも言えない/あまり達成していない/達成していない

2 あなたの周囲をご覧になって、最近(3ヶ月間程度)の災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？

進んでいる/やや進んでいる/どちらとも言えない/あまり進んでいない/進んでいない

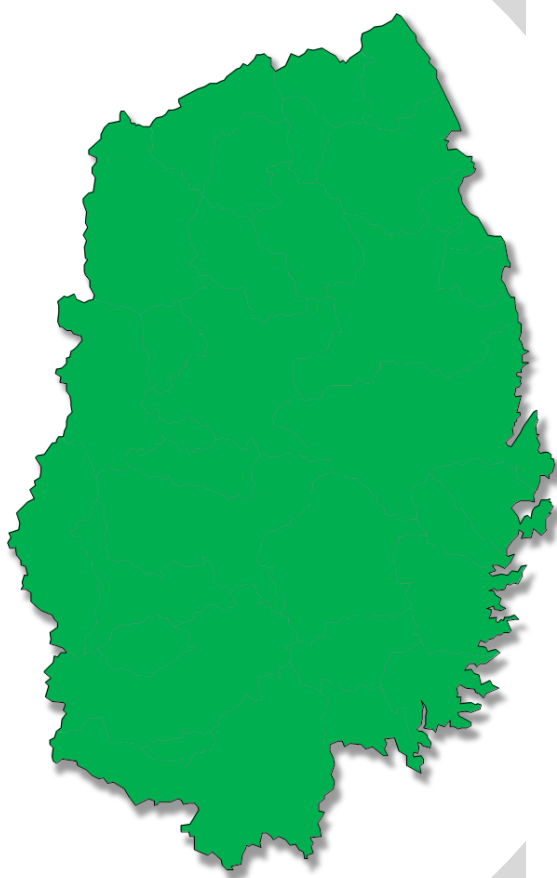


達成度：指数そのものは低いものの、調査開始以降着実な前進を見せている。

進 捗：指数そのものは低いものの、調査開始以降着実な前進を見せている。

また、一貫して「達成度」を上回った値で推移している。





第2章

分野別の状況

1 安全の確保

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

平成25年度復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

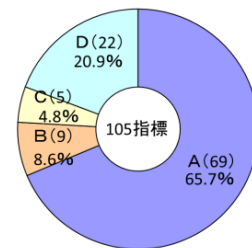
区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 74.3%（78指標）
 - ・「C」及び「D」（80%未満） 25.7%（27指標）
- 実質的遅れ 21.9%（23指標）**

【対第1期末目標】



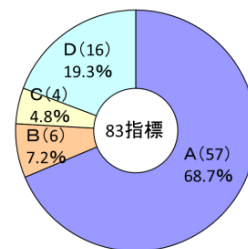
分野

分野Ⅰ 防災のまちづくり

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.9%（63指標）
 - ・「C」及び「D」（80%未満） 24.1%（20指標）
- 実質的遅れ 20.5%（17指標）**

【対第1期末目標】

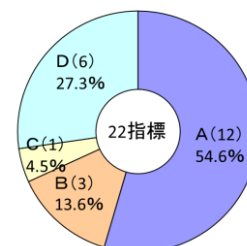


分野Ⅱ 交通ネットワーク

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 68.2%（15指標）
 - ・「C」及び「D」（80%未満） 31.8%（7指標）
- 実質的遅れ 27.3%（6指標）**

【対第1期末目標】



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年【第 1 回】 いわて復興ウォッチャー調査〔平成 26 年 3 月 28 日〕

○安全なまちづくりについては、「達成した」「やや達成した」の合計が 19.6%と前回（13.7%）を 5.9 ポイント上回り、「達成していない」「あまり達成していない」の合計は 45.3%と前回（48.4%）を 3.1 ポイント下回った。

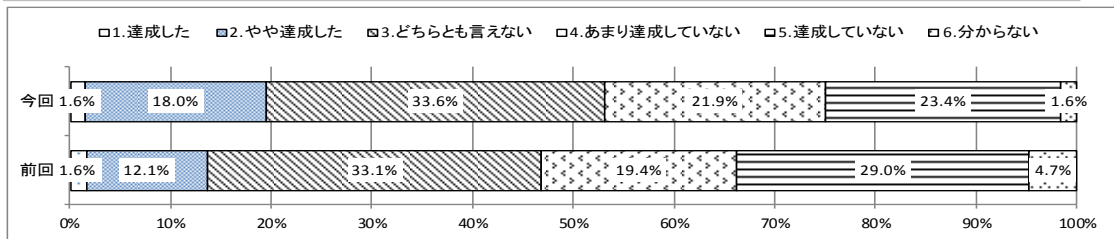
○地域別では、沿岸北部は「やや達成した」が 37.5%（前回は 26.8%）と最も高く、沿岸南部は「どちらとも言えない」が 34.1%（前回は 32.5%）と最も高くなっている。

○直近 3 ヶ月の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が 30.2%と前回（29.0%）を 1.2 ポイント上回り、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は 39.6%と前回（42.2%）を 2.6 ポイント下回った。

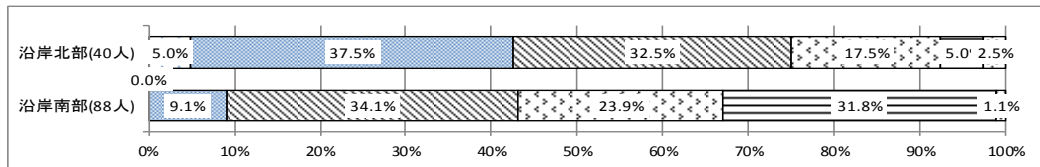
防潮堤等の復興工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、交通渋滞への懸念や安全なまちづくりに住民の声が反映されていないことなどへの不満を訴える声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度（震災以降における全体の達成状況）

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

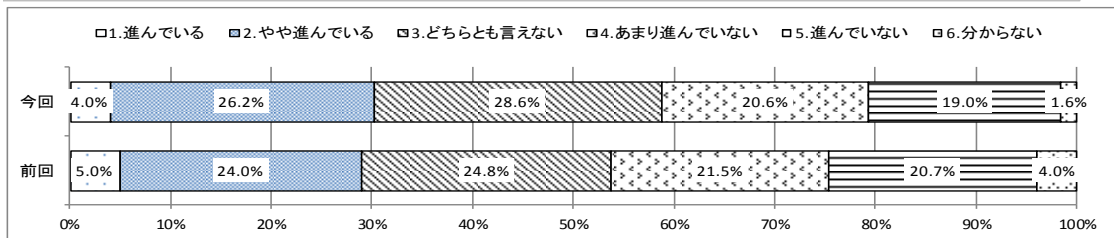


地域別

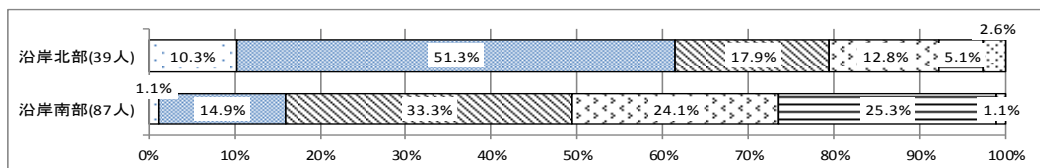


② 直近3ヶ月間（概ね12月から2月）の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の（3ヶ月程度）災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ○ 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆景観等の問題はあるが、防潮堤の工事も進み、安全な町づくり形成に向けて、力強い足音が感じられる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆避難所の施設は完成したが、そこへ行く橋、道路整備が遅れているので、何かあった場合に孤立する!!(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆防潮堤の整備は目に見える形で進んでいる。また、震災を経験した住民個々人が、安全に対する意識が高いので、話し合いの場でも積極的に討論されたりしている。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆港の復旧工事はかなり進んでいる。これからは防潮堤と水門の工事だ。こちらは早く進んで欲しい。復興道路建設も進んでいて、地域の皆さんも喜んでる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆漁港周辺は海岸道路嵩上げ工事が進み、水産加工施設の建設も見られ、魚市場も充実してきた。周辺の環境復旧・復興工事が施工進行中ではあるが、命の安心安全や財産を守るための防災施設が、遅々として進まない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆ガレキ処理も終わり、表面的には進んでいる様に見えるが、防潮堤整備の為に用地取得は足踏状態。中心市街地はJR鉄道を境に防災集団移転地域と区画整理に分別されており、JR山田線の復興・復旧に左右される。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆市内どこを見ても、ダンプ、トラック、その他重機が行き交っている。交通事情の整備など考えてほしいと思う。交通渋滞など、さけられるようにしてもらいたい。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性) ◆防潮堤を作れば安全か?と感じる。十年後、二十年後の事を考えた町づくりを考えてほしい。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆冬季間に長年交通渋滞となり、通勤・通学・物流等の多くに障害を与えていた国道45号の最後の難所と言われた峠が、この3月にトンネル開通となることは、命を繋ぐ安全なまちづくりにはとても大切な意味を持つ。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)
「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆地震が頻発しているので、又津波が来るのではないかと。何より大切なのはいち早く避難することであるが、R45沿いには海岸線にも関わらず避難誘導の標識がなく、夜間などは特に不安である。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆防潮堤は、県が示している高さで決定しているが、地権者の相続や国道の移動、地盤改良、もり土の確保等のため予定より遅れていると聞きますが、早急に着工できると達成感を得られると思います。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆避難時に必要な道路は舗装が必要だと感じる所が多数あるが、ずっとそのまま。反面、避難路ではなく、路面がそれほど悪くない、人通りもほとんどないような道路を全面的に再舗装しているのには疑問を感じる。避難道路を優先的に総点検してほしいと思う。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆住民全体の防災訓練を行っていないので、一度避難訓練的なものを実施するべきだと思う。工事車両が日中、街中を走り回っているが、また大きな地震が起こったときに渋滞を起こしてしまうのではないかと不安になる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)
「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆防潮堤高の計画には住民の合意形成がほとんどされず、住民説明会の参加者はごく一部の町民で、堤防高について2つの案を示し、どちらにしますかというやり方に問題ありと感じている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆高田町は高田松原と、50年前に作った防潮堤が時間を稼いだと思ってます。防潮堤は必要です。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆国や自治体、工事業者の方ががんばりはわかりますが、遅々として進んでいないように思います。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆防災無線がはっきり聞こえない地域が多数ある。避難場所を案内する市内各地の看板も、ダンプが多数走っているため道路が泥だらけで、土ぼこりで見えなくなっている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者



1 防災のまちづくり

1 安全の確保

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

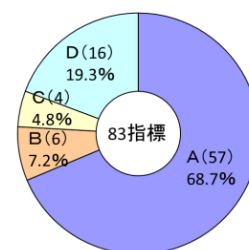
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.9%（63指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 24.1%（20指標）

実質的遅れ 20.5%（17指標）

【対第1期末目標】



取組項目

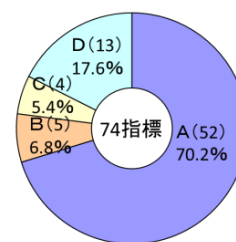
取組項目① 災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 77.0%（57指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 23.0%（17指標）

実質的遅れ 18.9%（14指標）

【対第1期末目標】



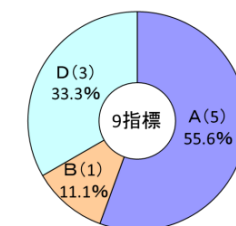
取組項目② 故郷への思いを活かした豊かで快適な生活環境づくり

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 66.7%（6指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 33.3%（3指標）

実質的遅れ 33.3%（3指標）

【対第1期末目標】



1 安全の確保－I 防災のまちづくり

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 災害廃棄物緊急処理支援事業

○災害廃棄物（がれき）処理量

市町村名	がれき推計量 (千t) 注1	仮置場への搬入量 (千t) 注2	撤去率 (%) ※がれき推計量に対する搬入量の割合	処理量 (千t) 注3	処理率 (%) ※がれき推計量に対する処理量の割合
洋野町（ひろのちょう）	20	20	102.4	20	102.4
久慈市（くじし）	82	90	109.7	90	109.7
野田村（のだむら）	131	167	127.7	167	127.7
普代村（ふだいむら）	14	14	100.3	14	100.3
田野畑村（たのはたむら）	56	55	98.4	55	98.4
岩泉町（いわいずみちょう）	47	65	137.1	65	137.1
宮古市（みやこし）	610	802	131.5	802	131.5
山田町（やまだまち）	444	492	108.6	492	108.6
大槌町（おおつちちょう）	594	659	111.1	659	111.1
釜石市（かまいしし）	780	945	121.2	945	121.2
大船渡市（おおふなとし）	810	853	105.3	853	105.3
陸前高田市（りくぜんたかたし）	1,665	1,683	101.1	1,683	101.1
計	5,253	5,837	111.1	5,837	111.1

注1 がれき推計量：岩手県災害廃棄物処理詳細計画（平成25年5月第二次改訂）で見込んだがれきの量。（H26.3.31現在）

注2 搬入量：市町村を通じて把握がなされた、仮置場へ搬入されたがれきの量。

注3 処理量：有価売却、原燃料利用、焼却やセメント焼成、埋立処分等により処理されたがれきの量。なお、災害廃棄物については、平成26年3月末をもって処理を終了したが、破碎・選別施設の解体・撤去や仮置き場の返還等事後的な業務は平成26年4月以降も継続している。

※ 端数処理により合計と一致しない場合がある。

2 原発放射線影響対策事業

(1) 生活空間の放射線量

(H26.3.31現在)

	平成25年度計画値	平成25年度実績値
県内主要地点の庁舎及び公園等測定件数	660件	660件

(2) 牧草地の除染

(H26.3.31現在)

	目標値※	実績値（累計）	進捗率
牧草地の除染着手面積	13,350ha	10,037ha	75.2%

※ 目標値は、H23～26に実施予定の国の暫定許容値（100Bq/kg）を超過する牧草地16,071haと原乳対策として除染（50Bq/kg超過100Bq/kg以下）する牧草地260haの合計から耕起不能箇所及び耕起困難箇所の2,981haを除いた面積。

(3) 県有施設等の除染

一関市、奥州市及び平泉町では、汚染状況重点調査地域指定を受け、除染実施計画を策定しています。汚染状況重点調査地域内にある県立学校では、16 校中 4 校が面的な除染対象となっており、平成 24 年 9 月 28 日付で国から補助金の交付決定が得られ、除染に着手し、平成 25 年 5 月までに 4 校全てが完了しました。

なお、「放射線量低減に向けた取組方針」（平成 23 年 9 月岩手県）に基づき、空間線量率が局所的に毎時 1 マイクロシーベルトを超えた場合には、除染等の低減措置を行います。

(H26.3.31 現在)

(4) 県産食品の放射性物質濃度検査状況

(H26.3.31 現在)

	平成 25 年度検査実績値	うち、基準値超過件数
県産食品の放射性物質濃度検査件数	26,815 件	17 件

3 まちづくり（面的整備）事業の進捗状況

(1) 市町村におけるまちづくり事業の取組み

沿岸 12 市町村では、復興計画等（基本計画、復興実施計画）に基づき、復興交付金の配分を受けながら、被災した各地域において都市再生区画整理事業などのまちづくり（面的整備）の計画策定や事業の実施に取り組んでいます。

県では、今後も、各市町村におけるまちづくり事業推進のための支援を継続していきます。

(2) 岩手県内市町村におけるまちづくりに関連する面的整備事業の状況

復興交付金事業によるまちづくり（面的整備）事業の概要や、当該事業を進めている地区は、次頁のとおりです。

(H25.3.31 現在)

○復興まちづくり（面的整備）事業の概要

・都市再生区画整理事業

被災した市街地の復興を図るため、原位置での嵩上げ等による復興を基本としている地区や、移転の受け皿となる地区において、市街地としての公共施設や宅地を計画的かつ一体的に整備する事業です。

・防災集団移転促進事業

災害が発生した地域または災害危険区域のうち、住民の居住に適当でないと認められる区域内にある住居を安全な住宅団地等に集団的移転を行う事業です。

・津波復興拠点整備事業

被災した地域の復興を先導する拠点とするため、住宅、公益施設、業務施設等の機能を集約させ、津波に対し安全な市街地を整備する事業です。

・漁業集落防災機能強化事業

被災地域の円滑かつ迅速な復興を図るため、被災地域の漁業集落において安全・安心な居住環境を確保するための地盤嵩上げ、生活基盤や防災安全施設の整備等を行う事業です。

1 安全の確保－Ⅰ 防災のまちづくり

○市町村別・事業別事業実施地区

(H26.3.31現在)

事業名 市町村名	都市再生 区画整理事業	防災集団移転 促進事業	津波復興拠点 整備事業	漁業集落防災 機能強化事業
洋野町	—	—	—	八木
久慈市	—	—	—	久慈湊・大崎、元木沢、 玉の脇、久喜
野田村	城内 ^{※注1}	城内、米田・南浜	—	下安家、中沢
普代村	—	—	—	堀内・沢
田野畑村	—	—	—	羅賀、島越
岩泉町	—	—	—	小本
宮古市	田老、野原、 鎌ヶ崎・光岸地	田老、崎山、高浜・金浜、 法の脇、赤前	中心市街地、 津軽石	撰待、堀内、浦の沢・追 切、 音部・荒巻、重茂里、 干 鶏、女遊戸、白浜、石浜
山田町	山田、 山田(低地部)、 織笠、大沢	山田、織笠、船越・田の浜、小谷鳥	山田	大浦、大沢
大槌町	町方、安渡、 赤浜、吉里吉里	浪板1、吉里吉里1、吉里吉里2、 吉里吉里3、赤浜1、赤浜2、赤浜6、 安渡1、安渡2、安渡3、安渡4、安渡5、 寺野、大ヶ口・沢山・夏本・証内・屋敷 前、町方、小枕、花輪田	町方、安渡	吉里吉里、浪板、赤浜、 安渡
釜石市	片岸、鶴住居、 燗石松原、平田	室浜、根浜、箱崎、箱崎白浜、桑ノ 浜、両石、尾崎白浜、花露辺、本郷、 唐丹、荒川	鶴住居、東部	花露辺、室浜、仮宿、 桑ノ浜、大石、新浜町、 佐須、根浜、箱崎、両石、 箱崎白浜、尾崎白浜、本 郷、唐丹
大船渡市	大船渡駅周辺	大船渡、峰岸、平林、上山、鶴巻、 神坂、細浦、小細浦、梅神、門之浜、 泊里、佐野、中赤崎、永浜、清水、 蛸ノ浦、田浜、港・岩崎、泊、浦浜南、 浦浜沖・西、浦浜東・甫嶺、崎浜	大船渡	越喜来(浦浜)
陸前高田市	今泉、高田	月山、上長部、双六、粟谷、福伏、下矢 作、館、下沢、高田、今泉、堂の前、脇 の沢、両替、三日市、柳沢、茂里花、 新田、只出、長洞、大野、広田大野、田 谷、六ヶ浦、泊、中沢、久保	高田北(高田 西・高田東)、 高田南(仮称)	—
合計	7市町村 19地区	7市町村 88団地 ^{※注2}	6市町 10地区	11市町村 41地区
工事着手地区 数	17地区	56団地	5地区	20地区
工事完成地区 数	1地区	18団地	—	11地区
全部完成	—	13団地	—	9地区
一部完成	1地区	5団地	—	2地区

※ 工事着手地区は○○○(斜め文字)、一部完成地区は◇◇◇(下線)、全部完成地区は△△△(箱囲み)。

※ 工事着手地区数には、一部着手地区、全部完成・一部完成地区を含む。

※注1 区画整理事業での完成の取扱いは、使用収益開始によるものとし、一部で使用収益開始した城内地区を一部完成地区として取扱うもの。

※注2 防災集団移転促進事業は、52地区(88団地)で大臣同意を得て計画がほぼ固まったことから、よりきめ細かな進捗状況をお知らせするため、今後は団地数で表示することとしたもの。

4 海岸保全施設整備事業

海岸地域の安全性を向上させるため、海岸保全施設の復旧・整備を推進しています。

○海岸保全施設の復旧・整備状況

事業主体	復旧・整備計画箇所数	着手箇所数	完了箇所数
県	105 箇所	94 箇所	21 箇所
市町村	29 箇所	11 箇所	1 箇所
合計	134 箇所	105 箇所	22 箇所

(H26.3.31 現在)

5 防災拠点等再生可能エネルギー導入事業

非常時等においても一定のエネルギーを賄えるシステムの構築に向けて、市町村等の防災拠点や避難所に指定される公共施設・学校、病院等に対し、再生可能エネルギー設備の導入を推進しています。

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
市町村への補助施設数	238 施設	150 施設	63.0%

(H26.3.31 現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

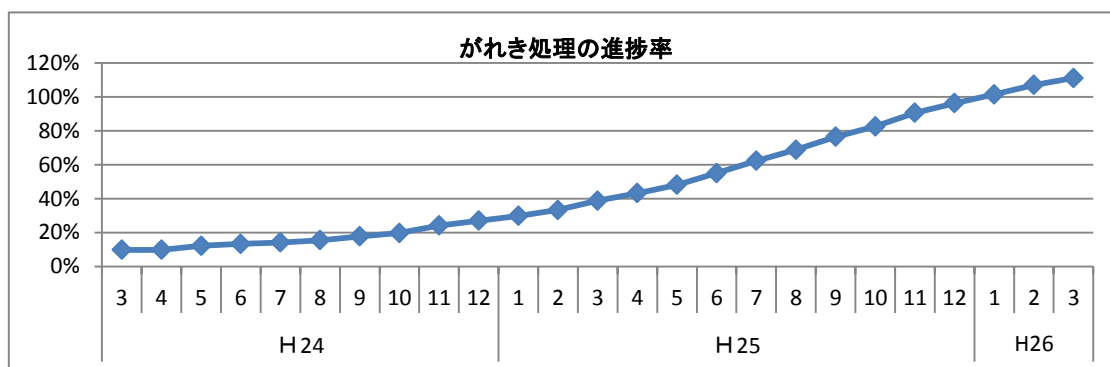
【がれき】

●がれき処理の進捗率（沿岸）〔平成26年3月31日：111.1%（進捗率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.3末)	単位
9.8%	43.2%	111.1%	進捗率	51.4	227.2	583.7	万トン

平成26年3月31日までのがれき処理量は583.7万トンであり、災害廃棄物推計量（525.3万トン）に対するがれき処理の進捗率は111.1%となっている。

なお、災害廃棄物については、平成26年3月末をもって処理を終了したが、破碎・選別処理施設の解体・撤去や仮置き場の返還等の事後的な業務は平成26年4月以降も継続している。



【まちづくり】

●まちづくり（面整備）の進捗率（沿岸）〔平成26年3月31日：3%（進捗率）〕

指標				データ（累計）			
— (H25.7末)	— (H25.12末)	第10回 (H26.3末)	項目	— (H25.7末)	— (H25.12末)	第10回 (H26.3末)	単位
0%	1%	3%	進捗率	5	96	251	区画

平成26年3月31日現在の復興まちづくり（面整備）事業における宅地の完成区画数は251区画であり、宅地供給予定区画数8,291区画に対する進捗率は3%となっている。

【防災】

●津波防災施設の整備率（沿岸）〔平成26年3月31日：26.7%（整備率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
25.1%	25.4%	26.7%	整備率	17.9	18.1	19.0	km

平成26年3月31日現在の「新しい津波防災の考え方」に基づいた津波防災施設の整備済総延長は19.0kmであり、要整備区間総延長71.3kmに対する整備率は26.7%となっている。

【交通】

●交通事故件数（沿岸）[-] [平成 26 年 1～3 月： -23.1%（前年同期間比）]

指標				データ			
第 2 回 (H24. 1-3)	第 6 回 (H25. 1-3)	第 10 回 (H26. 1-3)	項目	第 2 回 (H24. 1-3)	第 6 回 (H25. 1-3)	第 10 回 (H26. 1-3)	単位
+16.5%	-14.2%	-23.1%	前年同期間比	141	121	93	件

平成 26 年第 1 四半期（平成 26 年 1 月～3 月）における沿岸部の交通事故件数は 93 件であり、前年同期間比で 23.1%減となった。

【放射能】

●地表付近の放射線量（盛岡）[-] [平成 26 年 4 月 2 日： -0.01 μSv/h（前年同月差）]

指標				データ			
第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	項目	第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	単位
—	+0.00	-0.01	前年同月差*	0.05	0.05	0.04	μSv/h

*復興インデックスでは「前回差」（第10回の指標は、第10回データから第9回データを減じた値）を表示している。

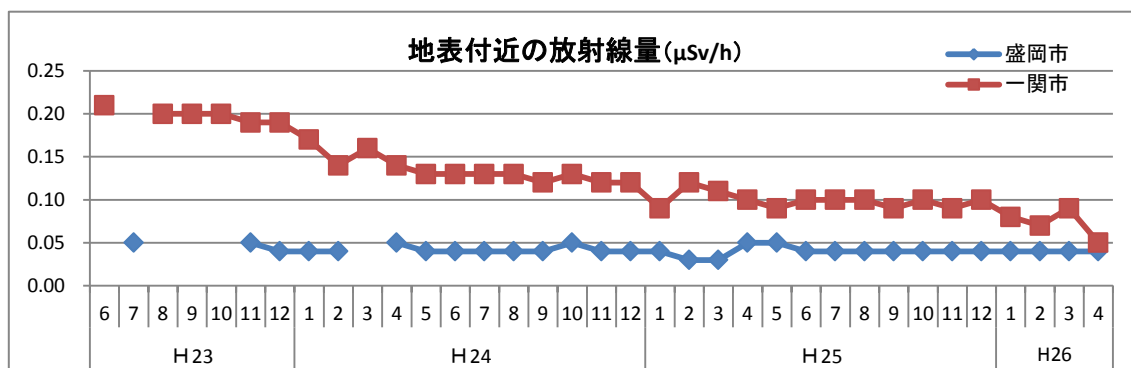
盛岡（盛岡市役所、地上 50cm）における放射線量は、直近 2 年間は概ね 0.04～0.05 μSv/h（マイクロシーベルト/時間）で推移しており、平成 26 年 4 月 2 日測定結果は、前年同月から 0.01 μSv/h 減の 0.04 μSv/h であった。

●地表付近の放射線量（一関）[-] [平成 26 年 4 月 7 日： -0.05 μSv/h（前年同月差）]

指標				データ			
第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	項目	第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	単位
—	-0.04	-0.05	前年同月差*	0.14	0.10	0.05	μSv/h

*復興インデックスでは「前回差」（第10回の指標は、第10回データから第9回データを減じた値）を表示している。

一関（一関市役所、地上 50cm）における放射線量は時間の経過と共に徐々に低減してきており、平成 26 年 4 月 7 日測定結果は、前年同月から 0.05 μSv/h 減の 0.05 μSv/h であった。



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.61、進捗への実感は 2.39 となっている。復興促進ニーズ度は減少して 2.23 だが、順位は 6 位と上昇を続けている。また、地域別に見ると、内陸部で 11 位、沿岸部で 3 位と順位の大きな乖離（内陸部<沿岸部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.61	4.68	4.70	2.39	2.11	2.16	2.23 (6)	2.57 (8)	2.54 (13)
沿岸部	4.63	4.67	4.72	2.33	2.09	2.07	2.31 (3)	2.58 (3)	2.65 (8)
沿岸北部	4.63	4.57	4.69	2.85	2.43	2.39	1.78 (9)	2.14 (7)	2.29 (10)
沿岸南部	4.63	4.70	4.73	2.13	1.96	1.95	2.50 (2)	2.75 (3)	2.78 (8)
内陸部	4.61	4.68	4.70	2.40	2.11	2.18	2.20 (11)	2.57 (10)	2.51 (16)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇防潮堤や防波堤などの整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.47、進捗への実感は 2.29 とやや低い。復興促進ニーズ度は 2.18、順位は 11 位と下降している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.47	4.62	4.65	2.29	1.79	1.79	2.18 (11)	2.82 (3)	2.86 (4)
沿岸部	4.47	4.68	4.69	2.41	1.99	1.78	2.06 (10)	2.69 (2)	2.91 (2)
沿岸北部	4.64	4.75	4.74	2.99	2.34	2.13	1.65 (13)	2.41 (5)	2.60 (4)
沿岸南部	4.40	4.65	4.67	2.19	1.84	1.64	2.21 (6)	2.81 (2)	3.03 (3)
内陸部	4.46	4.60	4.65	2.26	1.74	1.79	2.21 (10)	2.86 (4)	2.85 (4)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇放射能への安全対策

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.62、進捗への実感は 2.07 となっている。復興促進ニーズ度は減少して 2.55 だが、順位は 2 位と上昇を続けている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.62	4.63	4.68	2.07	1.94	1.89	2.55 (2)	2.70 (5)	2.79 (6)
沿岸部	4.56	4.56	4.58	2.12	2.00	1.97	2.44 (2)	2.56 (4)	2.61 (9)
沿岸北部	4.61	4.60	4.68	2.23	2.01	2.01	2.38 (1)	2.59 (1)	2.68 (2)
沿岸南部	4.53	4.54	4.54	2.07	2.00	1.96	2.47 (3)	2.54 (5)	2.58 (13)
内陸部	4.64	4.65	4.70	2.06	1.92	1.87	2.58 (3)	2.73 (5)	2.83 (5)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇震災の記憶を未来に語り継ぐための取組

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.48、進捗への実感は 2.97、復興促進ニーズ度は 1.50 で、順位は昨年と同程度の 25 位で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.48	4.58	4.66	2.97	2.80	2.78	1.50 (25)	1.78 (26)	1.88 (25)
沿岸部	4.48	4.57	4.70	2.85	2.71	2.65	1.64 (19)	1.86 (22)	2.05 (23)
沿岸北部	4.47	4.53	4.69	3.13	2.79	2.79	1.35 (21)	1.74 (21)	1.89 (23)
沿岸南部	4.49	4.59	4.70	2.74	2.68	2.59	1.75 (19)	1.91 (22)	2.11 (23)
内陸部	4.47	4.58	4.65	3.01	2.83	2.81	1.47 (26)	1.76 (26)	1.84 (26)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。

II 交通ネットワーク 1 安全の確保

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

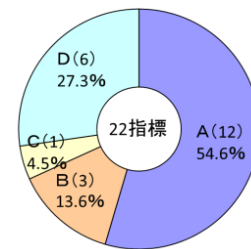
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 68.2%（15指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 31.8%（7指標）

実質的遅れ 27.3%（6指標）

【対第1期末目標】



復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 復興道路整備事業

路線名	計画延長 (km)	供用中		供用中+事業中	
		延長 (km)	率 (%)	延長 (km)	率 (%)
三陸沿岸道路	213	61	29 %	213	100 %
東北横断自動車道釜石秋田線	80	54	68 %	80	100 %
宮古盛岡横断道路	100	8	8 %	66	66 %
合計	393	123	31 %	359	91 %

(H26.3.31 現在)

2 復興支援道路整備事業（改築）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に 対する進捗率
復興支援道路の整備完了箇所数	8箇所	9箇所	112.5 %

(H26.3.31 現在)

3 復興関連道路整備事業（改築）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に 対する進捗率
復興関連道路の整備完了箇所数	6箇所	4箇所	66.7 %

(H26.3.31 現在)

4 三陸鉄道災害復旧事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
三陸鉄道の復旧延長	82.1 km	82.1 km	100.0%

(H26.3.31 現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【交通】

●復興道路の供用率（県）〔平成26年4月30日：31%（供用率）〕

指標				データ（累計）			
— (H24.4末)	— (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	— (H24.4末)	— (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
20%	28%	31%	供用率	79	110	123	km

平成26年4月30日現在の復興道路整備事業における供用延長は123kmであり、計画延長393kmに対する供用率は31%となっている。

※復興道路＝三陸沿岸地域の縦貫軸と、内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等として、以下の路線を位置付けている。

- ・三陸沿岸道路（三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道）
- ・東北横断自動車道釜石秋田線
- ・宮古盛岡横断道路（国道106号）

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.65、進捗への実感は 2.48 となっている。復興促進ニーズ度は 2.17 で、順位は昨年と同程度の 12 位で推移しているが、これを地域別に見ると、内陸部で 13 位、沿岸部で 5 位と順位の大きな乖離（内陸部<沿岸部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.65	4.67	4.71	2.48	2.24	2.17	2.17 (12)	2.43 (14)	2.54 (12)
沿岸部	4.75	4.78	4.80	2.50	2.22	2.00	2.25 (5)	2.55 (5)	2.80 (6)
沿岸北部	4.66	4.69	4.68	2.83	2.56	2.26	1.83 (7)	2.14 (8)	2.42 (6)
沿岸南部	4.79	4.81	4.85	2.39	2.09	1.91	2.40 (4)	2.72 (4)	2.94 (6)
内陸部	4.62	4.64	4.69	2.48	2.24	2.22	2.15 (13)	2.39 (16)	2.47 (18)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.48 となっている。進捗への実感は 2.70 と昨年より 0.68 ポイント上昇している。復興促進ニーズ度は 1.78 と昨年度より 0.70 ポイント下降、順位も 22 位まで下降しているが、これを地域別に見ると、沿岸北部で 27 位、沿岸南部で 13 位と順位の大きな乖離（沿岸北部<沿岸南部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.48	4.50	4.55	2.70	2.02	1.83	1.78 (22)	2.48 (11)	2.73 (8)
沿岸部	4.33	4.44	4.52	2.66	2.20	1.81	1.67 (18)	2.24 (11)	2.71 (7)
沿岸北部	4.57	4.61	4.62	3.60	2.98	2.71	0.97 (27)	1.63 (24)	1.91 (22)
沿岸南部	4.24	4.37	4.48	2.29	1.86	1.44	1.95 (13)	2.51 (6)	3.05 (2)
内陸部	4.52	4.52	4.56	2.72	1.97	1.83	1.80 (23)	2.55 (11)	2.73 (8)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。



2 暮らしの再建

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

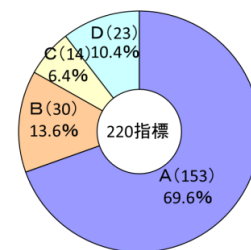
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 83.2%（183指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 16.8%（37指標）

実質的遅れ 5.0%（11指標）

【対第1期末目標】



分野

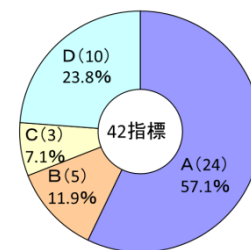
分野Ⅰ 生活・雇用

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 69.0%（29指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 31.0%（13指標）

実質的遅れ 7.1%（3指標）

【対第1期末目標】



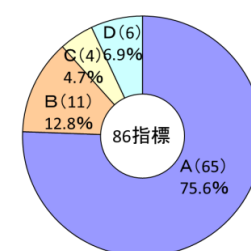
分野Ⅱ 保健・医療・福祉

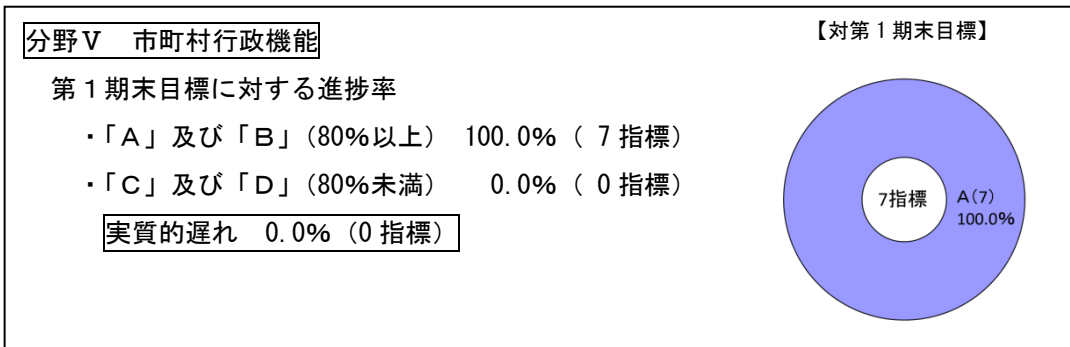
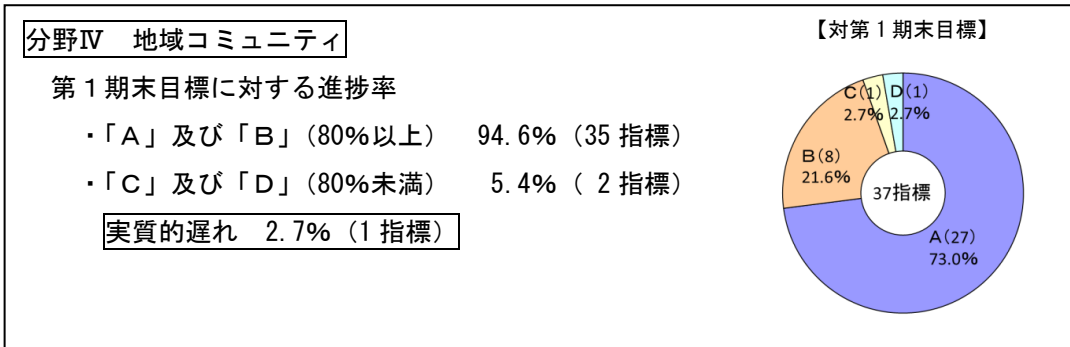
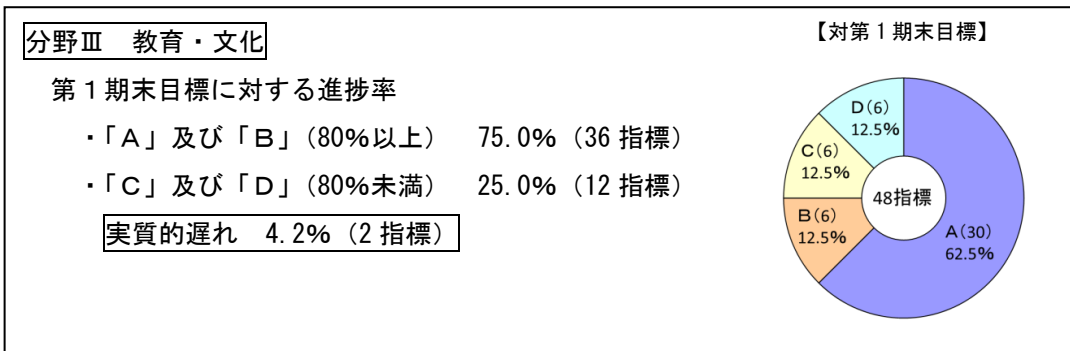
第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 88.4%（76指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 11.6%（10指標）

実質的遅れ 5.8%（5指標）

【対第1期末目標】





県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年【第 1 回】 いわて復興ウォッチャー調査〔平成 26 年 3 月 28 日〕

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が 4.7 %と前回（4.8%）を若干下回ったが、「回復した」「やや回復した」の合計は 55.9%と、前回の合計（48.0%）を 7.9 ポイント上回った。

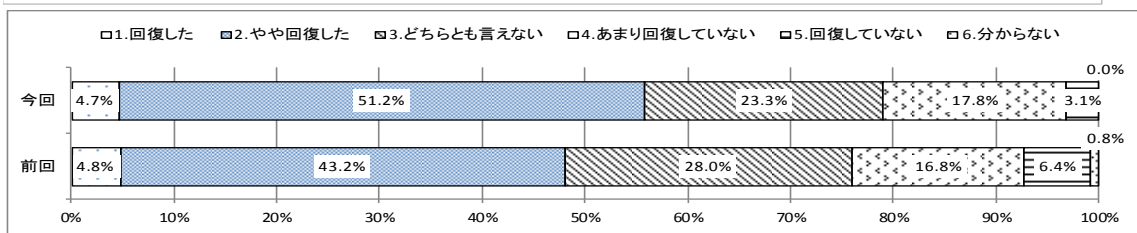
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった（沿岸北部 68.3%、沿岸南部 43.2%）。沿岸北部では「回復した」「やや回復した」の合計が 78.1%と前回（54.7%）を 23.4 ポイント上回り、沿岸南部の「回復した」「やや回復した」の合計は、45.5%と前回（44.6%）を 0.9 ポイント上回った。

○直近 3 ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」の割合が 41.4%と最も高く、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が 49.2%と前回（44.4%）を 4.8 ポイント上回った。

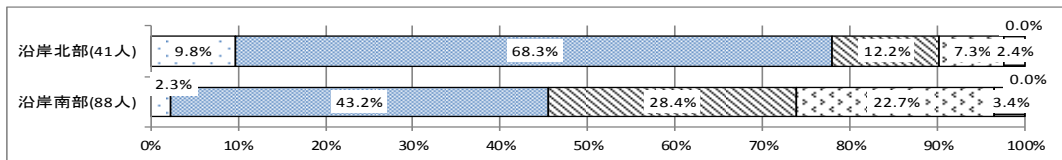
新築住宅や公営住宅への転居が増えた、といった前向きな声がある一方、精神的な疲弊などを訴える回答もあった。

① 被災者の生活の回復度（震災以降における全体の回復状況）

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

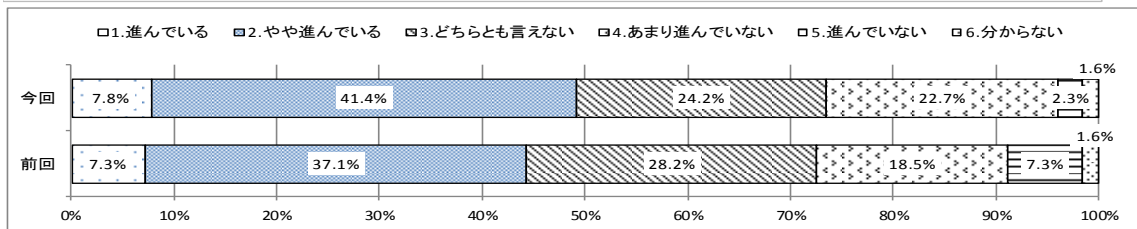


地域別

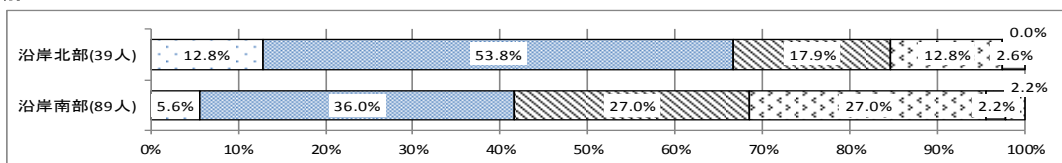


② 直近3ヶ月間（概ね12月から2月）の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の（3ヶ月間程度）被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ○内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆私が見て知る範囲では、回復したものと判断される。被災されて家屋を失った方々は、新設の町営住宅へ入居し、すべて元通りとはいかないものの、平静な暮らし振りが伺える。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆金融機関に勤務しているが、住宅新築に伴うローン申し込みは確実に増加しており、被災者の再建は確実に進んでいる。土地の確保さえできれば、住環境の整備はさらに進展する。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆災害公営住宅も3ヵ所が完成し、入居済みである。自宅の建築も進んできているのが目につく様になった。土地の価格も震災前に戻りつつあると思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆災害公営住宅も完成し仮設住宅からの引っ越しも多くなり始める。高台団地の整備も進み、自主再建の人達も住宅再建に向けて活動しはじめた。ただ、仮設住宅に残された人達はさびしさが増すばかりの様子。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆最近になってやっと仮設住宅からの転居者が増えてきた。公営住宅や土地を手放すことへの抵抗感が薄らいだことが理由だろう。日常生活を送るための物品等にも困ることはない。しかし、文化面の回復には程遠い。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性) ◆人口の流出はあるのかもしれないが、インフラ整備は終わり、仕事による雇用の進展のみとなった気がする。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性) ◆高台の整地作業も目に見えるようになってきました。待ち望んでいる人たちが希望が持てるようになってきたと思います。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性) ◆仮設住宅はいぜんとして解消されないが、その中でも仕事が安定し、一つのコミュニティーが形成されるなど回復したと感ぜられる面もある。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性) ◆復興住宅への入居が始まり、落ち着いた環境での生活がスタートした方々がいるため。空き部屋の活用(入居促進や入居対象)対策は必要と感じています。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆住環境という面で、当地域は昔から戸建住宅に住むという生活を続けており、他の地域に比べ集合住宅やアパート等に対し抵抗が強く、災害公営住宅(集合住宅)の建設も難儀したという話も聞いている。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆住宅を自力で新築する人もいますが、今後の国などの動きを待ってから動こうとする「様子見」をしている感じを受けます。震災直後のように物事を次々とやっていこうというのではなく、少し停滞しているように思います。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆自宅再建をされ生活された方も増えてきた。一方、うつ病を発症される方や施設に入所となる方もいる。老人世帯にしわ寄せがきている。介護保険料の自己負担がなく助かるとのお話があった。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性) ◆多くの求人があるが、あまり応募者はないようだ。雇用のミスマッチがあるようで、飲食関係、土木関係、介護関係と、いつも求人の一覧の業種は同じような業種。少し年齢の高い方がすぐに就ける職も少ない。(30歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆震災から3年が過ぎ高齢化が進み、生活に活気が感じられなくなってきたように思える(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆高台移転の工事が全く進められていない。最低でも仮設住宅には2年は住んでくれと行政に言われているようだ。最近では、他の地区へ家を建てて人が出ています。津波で残った家だけが孤立して不安。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆やはり仮設住いには不便だけでなく精神的にも疲弊している方が少なくない。将来の希望がもてないから生活面で張り合いを感じていない方も少なくない。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性) ◆毎日の生活に追われ、先の事もゆっくり考えられず、ただ毎日の生活をこなしていくという状況が続き、心に空しさを感じる。震災後、約3年経ち、周りの人達の態度にも3年前よりも距離を感じることが増えてきた。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者

産業・経済・雇用関連：漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者



I 生活・雇用

2 暮らしの再建

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

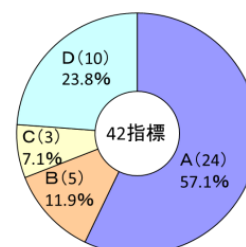
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 69.0%（29指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 31.0%（13指標）

実質的遅れ 7.1%（3指標）

【対第1期末目標】



取組項目

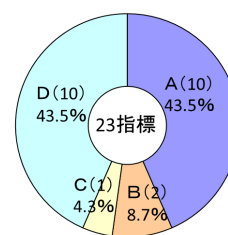
取組項目① 被災者の生活の安定と住環境の再建等への支援

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 52.2%（12指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 47.8%（11指標）

実質的遅れ 13.0%（3指標）

【対第1期末目標】



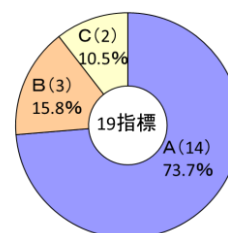
取組項目② 雇用維持・創出と就業支援

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 89.5%（17指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 10.5%（2指標）

実質的遅れ 0.0%（0指標）

【対第1期末目標】



2 暮らしの再建－I 生活・雇用

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 災害復興公営住宅等整備事業

○災害復興公営住宅整備状況（県事業分）

市町村	団地（地区）	戸数	現在の状況	着工（予定）	完成（予定）
野田村	門前小路第1	8戸	完成	H24年11月15日	H25年3月25日
	門前小路第2	18戸	完成	H25年4月9日	H26年1月15日
宮古市	本町	34戸	工事中	H26年3月26日	H27年7月頃
	八木沢	50戸	工事中	H26年3月26日	H27年3月頃
	西町	23戸	工事中	H26年3月27日	H27年3月頃
	上鼻	30戸	設計完了	H26年7月頃	H27年度第2四半期
	津軽石	35戸	設計完了	H26年7月頃	H27年度第2四半期
	上村	24戸	設計中	H26年10月頃	H27年度第2四半期
	佐原	50戸	設計完了（買取方式）	H26年4月頃	H26年度第4四半期
	磯鶏	30戸	設計中（買取方式）	H26年6月頃	H26年度第3四半期
	宮町	20戸	設計中（買取方式）	H26年7月頃	H26年度第3四半期
	鴨崎町	20戸	設計中（買取方式）	H26年12月頃	H27年度第2四半期
	実田	17戸	設計中（買取方式）	H26年10月頃	H27年度第1四半期
	西町（その2）	30戸	設計中（買取方式）	H26年6月頃	H27年度第1四半期
山田町	豊間根	72戸	工事中	H25年7月16日	H26年6月頃
	大沢	35戸	設計中	H26年7月頃	H27年度第2四半期
	北浜	90戸	設計中	H26年7月頃	H27年度第3四半期
	妻の神	70戸	設計中	H26年7月頃	H27年度第2四半期
大槌町	吉里吉里	34戸	完成	H24年10月24日	H25年8月19日
	屋敷前	151戸	工事中	H25年7月16日	H27年3月頃
釜石市	平田	126戸	完成	H24年9月13日	H26年1月24日
	野田	32戸	完成	H24年9月13日	H25年10月17日
	日向	30戸	設計完了	H26年7月頃	H26年度第4四半期
大船渡市	下欠	33戸	工事中	H25年10月26日	H26年9月頃
	上平	65戸	工事中	H25年12月10日	H27年5月頃
	長谷堂	53戸	工事中	H25年12月10日	H27年3月頃
	平林	56戸	設計中	H26年7月頃	H27年度第2四半期
	綾里	30戸	工事中	H26年2月28日	H26年12月頃
	関谷	50戸	設計完了	H26年7月頃	H27年度第2四半期
	沢田	20戸	設計中	H26年10月頃	H27年度第2四半期
	みどり町	147戸	設計完了	H26年7月頃	H27年度第2四半期
陸前高田市	中田	167戸	工事中	H25年10月26日	H27年6月頃
		30戸	工事中	H26年3月6日	H27年7月頃
	柳沢前	28戸	工事中	H25年10月26日	H26年11月頃
	栃ヶ沢	301戸	設計完了	H26年7月頃	H27年度第3四半期
	西下	40戸	工事中	H26年3月26日	H26年12月頃
計		2,049戸（うち、完成218戸）			

（H26.3.31現在）

2 被災者住宅再建支援事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
補助金の支給世帯数	3,836世帯	3,175世帯	82.8%

（H26.3.31現在）

3 緊急雇用創出事業（事業復興型雇用創出事業を除く）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
新規雇用者数	17,609人	24,351人	138.3%

（H26.3.31現在）

4 事業復興型雇用創出事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
雇用者数	15,000人	13,827人	92.2%

（H26.3.31現在）

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

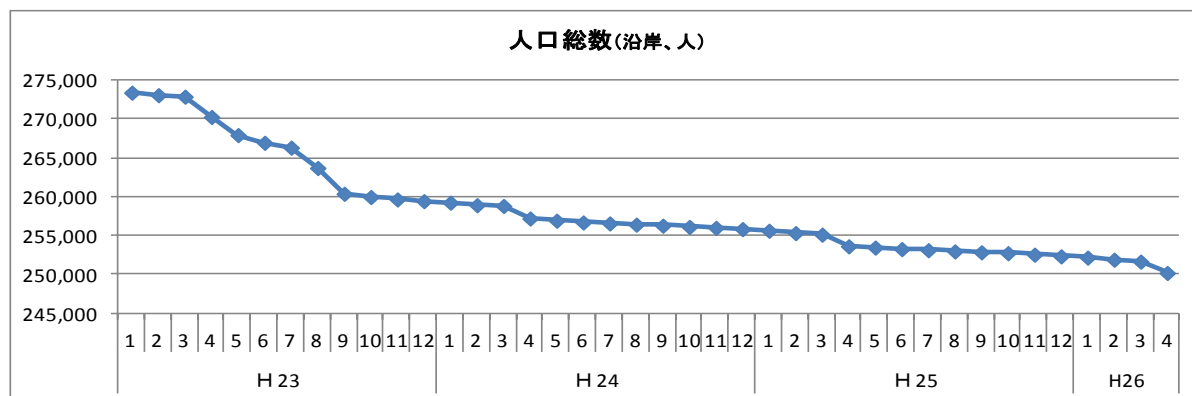
いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【人口】

●人口総数（沿岸）〔平成26年4月1日： **-8.3%**（平成23年3月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.4.1)	第6回 (H25.4.1)	第10回 (H26.4.1)	項目	第2回 (H24.4.1)	第6回 (H25.4.1)	第10回 (H26.4.1)	単位
-5.7%	-7.1%	-8.3%	平成23年3月比	257,249	253,664	250,227	人

平成26年4月1日現在の沿岸部の人口は250,227人であり、震災前(平成23年3月1日現在)と比較すると、22,710人(8.3%)の減少となった。



(参考)市町村ごとの人口総数(沿岸、各月1日現在、人)

	平成23年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	震災以後の 増減数 (37ヶ月)	震災以後の 増減率 (37ヶ月) 注1.	直近1年間の 増減数 (12ヶ月)	直近1年間の 増減率 (12ヶ月) 注2.	震災前の 増減率 注3.	(参考) うち 社会増減
	3月	4月	4月	4月	4月						
洋野町	17,775	17,683	17,395	17,148	16,742	-1,033	-5.8%	-406	-2.4%	-1.6%	-593
久慈市	36,789	36,684	36,202	35,922	35,544	-1,245	-3.4%	-378	-1.1%	-1.2%	-642
野田村	4,606	4,537	4,413	4,354	4,267	-339	-7.4%	-87	-2.0%	-1.4%	-188
普代村	3,065	3,044	2,994	2,967	2,933	-132	-4.3%	-34	-1.1%	-1.6%	-34
田野畑村	3,838	3,802	3,701	3,633	3,557	-281	-7.3%	-76	-2.1%	-1.9%	-129
岩泉町	10,708	10,636	10,416	10,198	9,902	-806	-7.5%	-296	-2.9%	-2.1%	-293
宮古市	59,229	58,746	57,484	56,565	55,943	-3,286	-5.5%	-622	-1.1%	-1.5%	-1,394
山田町	18,506	18,033	16,578	16,218	15,962	-2,544	-13.7%	-256	-1.6%	-1.4%	-1,258
大槌町	15,222	15,222	12,392	12,020	11,765	-3,457	-22.7%	-255	-2.1%	-1.4%	-1,833
釜石市	39,399	38,708	36,951	36,431	35,858	-3,541	-9.0%	-573	-1.6%	-1.8%	-1,328
大船渡市	40,579	40,006	38,874	38,638	38,373	-2,206	-5.4%	-265	-0.7%	-1.1%	-820
陸前高田市	23,221	23,221	19,849	19,570	19,381	-3,840	-16.5%	-189	-1.0%	-1.2%	-1,481
沿岸部	272,937	270,322	257,249	253,664	250,227	-22,710	-8.3%	-3,437	-1.4%	-1.5%	-9,993
内陸部	1,053,706	1,051,714	1,047,640	1,042,421	1,036,490	-17,216	-1.6%	-5,931	-0.6%	-0.7%	-1,904
県全体	1,326,643	1,322,036	1,304,889	1,296,085	1,286,717	-39,926	-3.0%	-9,368	-0.7%	-0.8%	-11,897

注1. 震災以後の増減率＝平成23年3月から平成26年3月まで(震災以降の37ヶ月)の増減率

注2. 直近1年間の増減率＝平成25年4月～平成26年3月まで(12ヶ月)の増減率

注3. 震災前の増減率＝平成19年度(平成19年4月～平成20年3月)、平成20年度(平成20年4月～平成21年3月)及び

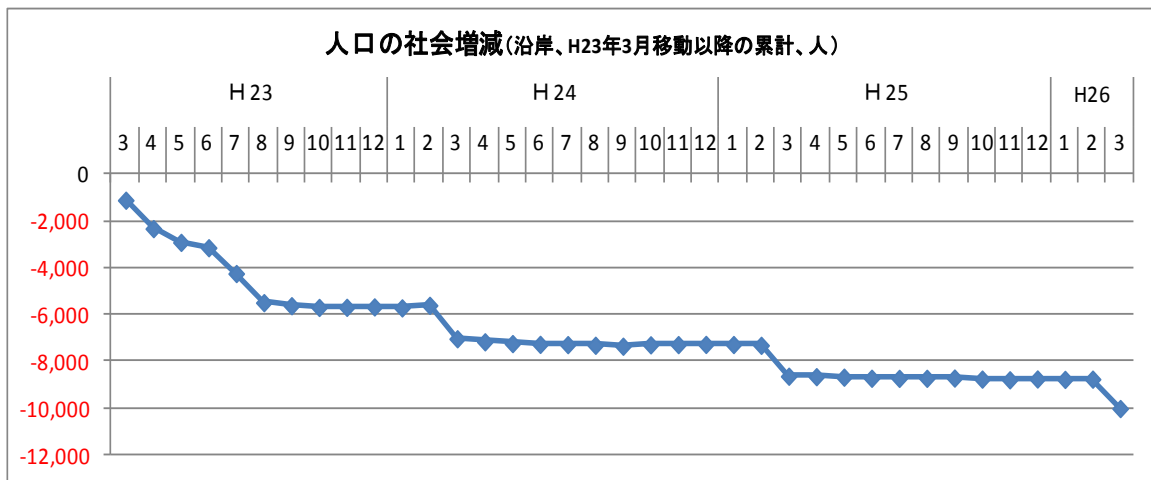
平成21年度(平成21年4月～平成22年3月)の3ヶ年それぞれの増減率の平均

●人口の社会増減(累計)(沿岸)[平成23年3月～平成26年3月: -1,384人(前年同月差)]

指標				データ(累計)**			
第2回 (～H24.3)	第6回 (～H25.3)	第10回 (～H26.3)	項目	第2回 (～H24.3)	第6回 (～H25.3)	第10回 (～H26.3)	単位
-5,929	-1,603	-1,384	前年同月差*	-7,006	-8,609	-9,993	人

*復興インデックスでは「前同差」(第10回の指標は、第10回データから第9回データを減じた値)を表示している。
**「データ(累計)」は、平成23年3月からの累計値としている。

沿岸部の平成23年3月から平成26年3月までの人口の社会増減は9,993人(累計)の減少であり、直近1年間では1,384人の減少となった。

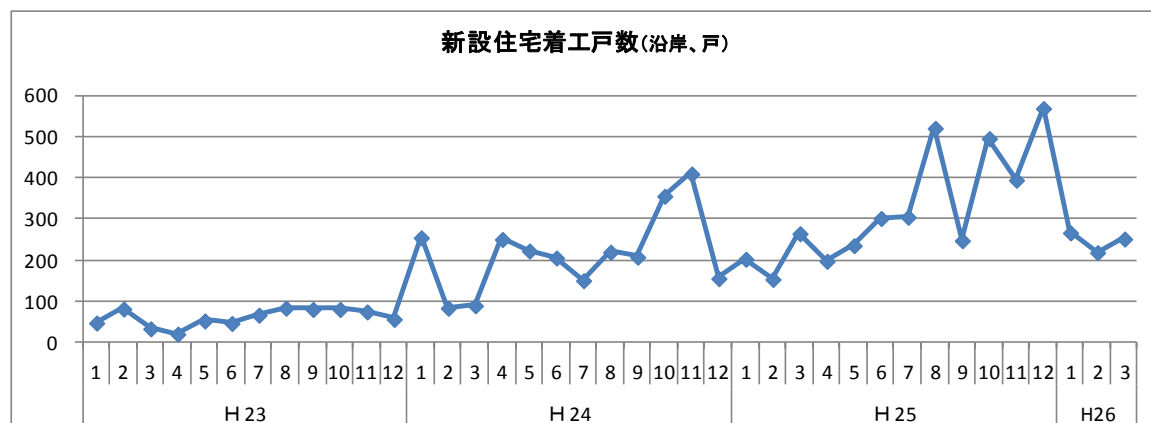


【生活】

●新設住宅着工戸数(沿岸)[平成26年1月～3月: +18.6%(前年同期間比)]

指標				データ			
第2回 (H24.1-3)	第6回 (H25.1-3)	第10回 (H26.1-3)	項目	第2回 (H24.1-3)	第6回 (H25.1-3)	第10回 (H26.1-3)	単位
+158.7%	+44.7%	+18.6%	前年同期間比	432	625	741	戸

平成26年第1四半期(平成26年1月～3月)における沿岸部の新設住宅着工戸数は741戸であり、前年同期比で18.6%増となった。



2 暮らしの再建—I 生活・雇用

●災害公営住宅の進捗率（沿岸）〔平成26年3月31日：10%（進捗率）〕

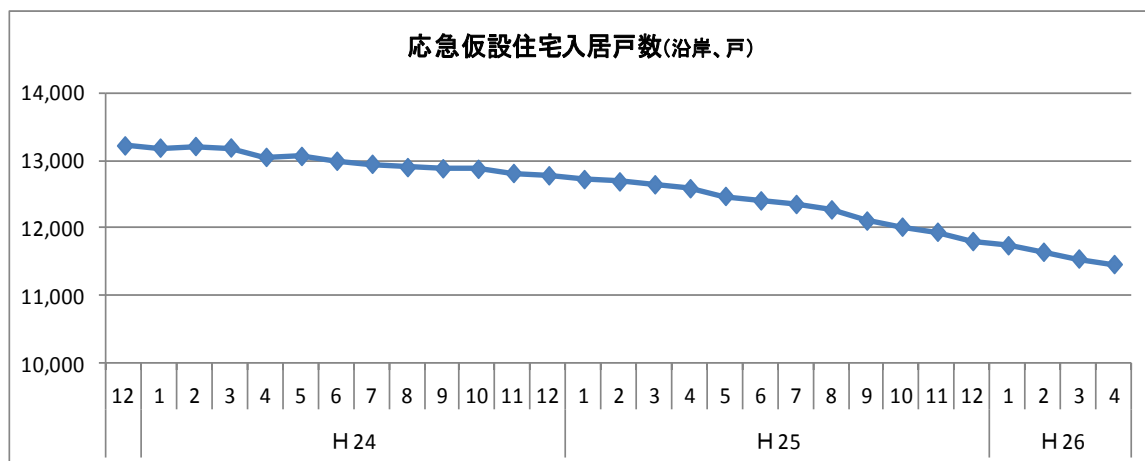
指標				データ（累計）			
— (H25.7末)	— (H25.12末)	第10回 (H26.3末)	項目	— (H25.7末)	— (H25.12末)	第10回 (H26.3末)	単位
2%	5%	10%	進捗率	133	323	574	戸

平成26年3月31日現在の災害公営住宅整備事業における完成戸数は574戸（県整備218戸、市町村整備356戸）となっており、建設予定戸数5,969戸（県整備2,862戸、市町村整備3,107戸）に対する進捗率は10%（県整備8%、市町村整備11%）となっている。

●応急仮設住宅入居戸数（沿岸）〔-〕〔平成26年4月30日：-13.3%（平成23年12月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
-1.3%	-4.8%	-13.3%	平成23年12月比	13,048	12,585	11,464	戸

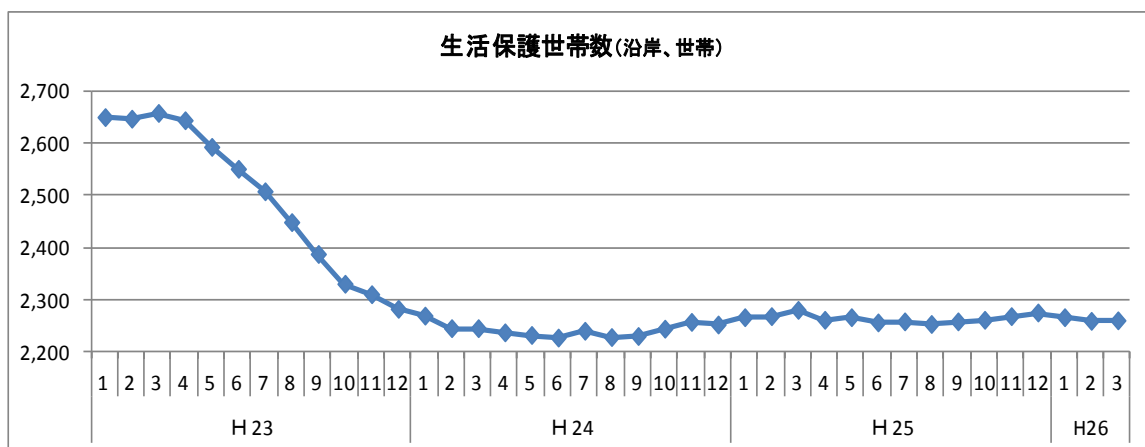
平成26年4月30日現在の沿岸部（遠野市、住田町を含む）の応急仮設住宅入居戸数は11,464戸であり、ピーク時（平成23年12月、13,218戸）対比で13.3%減となった。



●生活保護世帯数（沿岸）[-] [平成26年3月31日： **-14.9%**（平成23年3月比）]

指標				データ			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
-15.5%	-14.2%	-14.9%	平成23年3月比	2,245	2,280	2,260	世帯

平成26年3月31日現在の沿岸部の生活保護世帯数は2,260世帯であり、震災直後（平成23年3月）と比較すると14.9%減となった。生活保護世帯数は、震災後の平成23年4月以降11ヶ月連続で減少し、平成24年3月以降はほぼ横ばいで推移している。



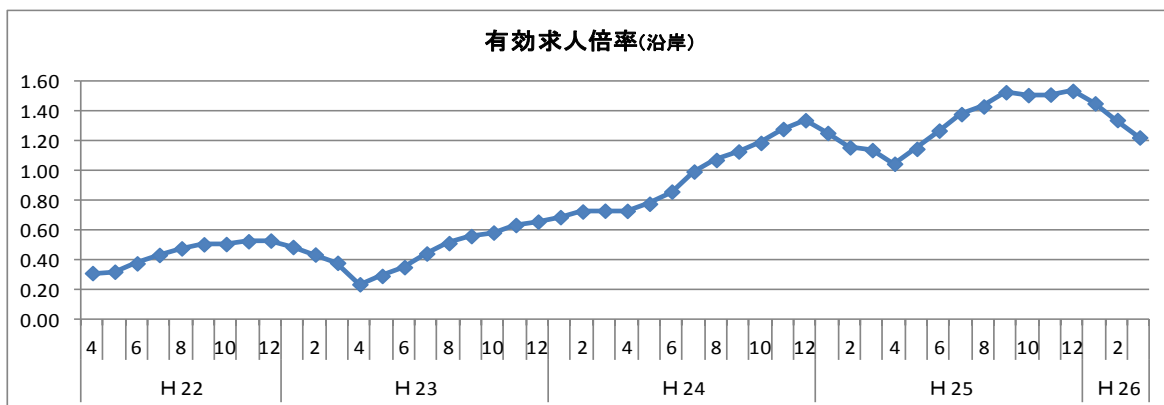
【雇 用】

●有効求人倍率（原数値）（沿岸）[平成26年3月： **+0.08**（前年同月差）]

指標				データ			
第2回 (H24.3)	第6回 (H25.3)	第10回 (H26.3)	項目	第2回 (H24.3)	第6回 (H25.3)	第10回 (H26.3)	単位
+0.35	+0.41	+0.08	前年同月差*	0.73	1.14	1.22	—

*復興インデックスでは「前回差」（第10回の指標は、第10回データから第9回データを減じた値）を表示している。

平成26年3月における沿岸部（釜石、宮古、大船渡、久慈地域）の有効求人倍率（原数値）は前年同月に比較して0.08ポイント増の1.22となった。平成25年12月以降低下しているが、平成24年7月以降20ヶ月連続で1倍台を維持している。



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.73 と依然として高い水準にある一方、進捗への実感は 2.04 とかなり低く、復興促進ニーズ度は 2.68 で、順位は昨年に引き続き 1 位となっている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.73	4.79	4.80	2.04	1.73	1.83	2.68 (1)	3.06 (1)	2.97 (2)
沿岸部	4.70	4.76	4.77	2.17	1.77	1.78	2.53 (1)	3.00 (1)	2.99 (1)
沿岸北部	4.70	4.73	4.67	2.66	2.14	2.16	2.03 (5)	2.59 (2)	2.50 (5)
沿岸南部	4.70	4.77	4.81	1.99	1.61	1.64	2.71 (1)	3.16 (1)	3.17 (1)
内陸部	4.73	4.80	4.81	2.01	1.73	1.84	2.72 (1)	3.08 (1)	2.97 (3)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇震災による離職者の再就職に向けた取組

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.74 と高い水準にあり、進捗への実感は 2.25 と低い。復興促進ニーズ度は 2.49 となっており、順位は昨年の 2 位から 3 位となっている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.74	4.78	4.81	2.25	1.96	1.84	2.49 (3)	2.82 (2)	2.96 (3)
沿岸部	4.64	4.69	4.78	2.53	2.26	1.96	2.11 (7)	2.43 (7)	2.82 (4)
沿岸北部	4.69	4.74	4.77	2.62	2.22	2.09	2.07 (4)	2.52 (4)	2.68 (3)
沿岸南部	4.63	4.67	4.78	2.50	2.28	1.91	2.13 (10)	2.39 (10)	2.88 (7)
内陸部	4.77	4.80	4.81	2.19	1.88	1.81	2.58 (2)	2.92 (2)	3.00 (2)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.73 と依然として高く、進捗への実感は 2.30 と低い。復興促進ニーズ度は 2.44 で、順位は昨年同様 4 位となっている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.73	4.77	4.81	2.30	1.96	1.82	2.44 (4)	2.81 (4)	2.99 (1)
沿岸部	4.67	4.72	4.81	2.51	2.21	1.92	2.16 (6)	2.51 (6)	2.89 (3)
沿岸北部	4.71	4.76	4.80	2.59	2.20	2.08	2.12 (2)	2.56 (3)	2.72 (1)
沿岸南部	4.65	4.70	4.81	2.48	2.21	1.85	2.17 (9)	2.49 (7)	2.96 (5)
内陸部	4.75	4.79	4.81	2.24	1.90	1.80	2.51 (4)	2.89 (3)	3.02 (1)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った29項目の中で数値が高い順位。

II 保健・医療・福祉

2 暮らしの再建

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

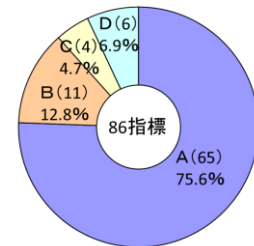
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 88.4%（76指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 11.6%（10指標）

実質的遅れ 5.8%（5指標）

【対第1期末目標】



取組項目

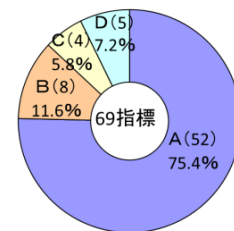
取組項目① 災害に強く、質の高い保健・医療・福祉提供体制の整備

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 87.0%（60指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 13.0%（9指標）

実質的遅れ 5.8%（4指標）

【対第1期末目標】



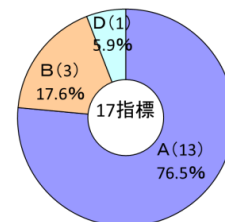
取組項目② 健康の維持・増進、こころのケアの推進や要保護児童等への支援

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 94.1%（16指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 5.9%（1指標）

実質的遅れ 5.9%（1指標）

【対第1期末目標】



復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 被災地医療確保対策事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
災害復旧医療施設数	103施設	103施設	100.0%

(H26.3.31現在)

2 被災地医療施設復興支援事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
移転・新築医療施設数	34施設	22施設	64.7%

(H26.3.31現在)

3 被災地薬局等機能確保事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
薬局設置支援数	40施設	32施設	80.0%

(H26.3.31現在)

4 被災地高齢者健康生活支援事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
介護予防教室開催回数	102回	185回	181.4%

(H26.3.31現在)

5 被災地高齢者ふれあい交流促進事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
ふれあい運動教室開催回数	290回	290回	100.0%

(H26.3.31現在)

6 被災者健康相談等支援事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
健康相談等参加者数	26,403人	21,852人	82.8%
口腔ケア指導等参加者数	8,022人	6,827人	85.1%

(H26.3.31現在)

2 暮らしの再建－II 保健・医療・福祉

7 こころのケアセンター等設置運営事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
こころのケアケース検討数	728ケース	1,073ケース	147.4%

(H26.3.31現在)

8 要保護児童等支援事業

	平成25年度に掲げる 目標値	平成25年度実績値	平成25年度目標に対する 進捗率
巡回児童相談数	144回	205回	142.4%

(H26.3.31現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【保健医療福祉】

●介護施設等定員数（沿岸）〔平成26年4月1日：108.6%（平成23年3月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.4.1)	第6回 (H25.4.1)	第10回 (H26.4.1)	項目	第2回 (H24.4.1)	第6回 (H25.4.1)	第10回 (H26.4.1)	単位
98.0%	105.9%	108.6%	平成23年3月比	3,693	3,990	4,092	人

平成26年4月1日現在の沿岸部（住田町含む）の介護施設等定員数（新設分を含む）は4,092人であり、震災前（平成23年3月）と比較すると108.6%となっている。

●医療提供施設数（医療機関・沿岸）〔平成26年4月30日：90.4%（平成23年3月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
91.3%	91.3%	90.4%	平成23年3月比	219	219	217	施設

平成26年4月30日現在の沿岸部の医療機関（自院又は仮設施設で診療を行っている病院、診療所及び歯科診療所の合計）は217箇所であり、震災前（平成23年3月）の240箇所の90.4%となっている。

●医療提供施設数（薬局・沿岸）〔平成26年4月30日：92.0%（平成23年3月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
79.0%	91.0%	92.0%	平成23年3月比	79	91	92	施設

平成26年4月30日現在の薬局（自薬局又は仮設施設で営業している薬局の合計）は92箇所であり、震災前（平成23年3月）の100箇所の92.0%となっている。

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇災害時における高齢者や障がい者を支援する体制づくり

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.61、進捗への実感は 2.36 となっている。復興促進ニーズ度は 2.26 と下降したが、順位は 5 位にまで上昇している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.61	4.64	4.68	2.36	2.17	2.16	2.26 (5)	2.47 (12)	2.51 (16)
沿岸部	4.64	4.61	4.69	2.33	2.21	2.19	2.30 (4)	2.40 (8)	2.50 (12)
沿岸北部	4.63	4.59	4.66	2.53	2.34	2.31	2.11 (3)	2.25 (6)	2.36 (8)
沿岸南部	4.64	4.62	4.70	2.26	2.16	2.14	2.37 (5)	2.46 (8)	2.56 (15)
内陸部	4.61	4.65	4.67	2.36	2.17	2.16	2.24 (7)	2.49 (13)	2.52 (15)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.76 と高い水準にある。進捗への実感は 2.57 となっており、復興促進ニーズ度は 2.19 に下降、順位も昨年の 6 位から 10 位に下降している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.76	4.81	4.83	2.57	2.23	2.27	2.19 (10)	2.58 (6)	2.56 (11)
沿岸部	4.74	4.76	4.83	2.87	2.69	2.66	1.87 (13)	2.08 (18)	2.16 (22)
沿岸北部	4.76	4.77	4.80	3.05	2.77	2.68	1.71 (11)	2.00 (16)	2.12 (18)
沿岸南部	4.73	4.76	4.84	2.81	2.66	2.66	1.91 (14)	2.11 (15)	2.18 (22)
内陸部	4.76	4.82	4.83	2.49	2.11	2.17	2.27 (6)	2.72 (6)	2.67 (10)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災地の健康づくりやこころのケアの推進

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.56、進捗への実感は 2.74 となっており、復興促進ニーズ度は 1.81 と下降したものの、順位は昨年と同程度の 20 位で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.56	4.58	4.59	2.74	2.47	2.51	1.81 (20)	2.11 (22)	2.08 (23)
沿岸部	4.48	4.45	4.50	2.96	2.84	2.82	1.52 (22)	1.61 (27)	1.68 (26)
沿岸北部	4.50	4.56	4.56	3.16	2.86	2.79	1.34 (22)	1.70 (23)	1.77 (24)
沿岸南部	4.47	4.40	4.47	2.89	2.83	2.83	1.58 (24)	1.57 (27)	1.65 (28)
内陸部	4.58	4.62	4.62	2.69	2.38	2.43	1.89 (19)	2.24 (20)	2.18 (23)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。

Ⅲ 教育・文化

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

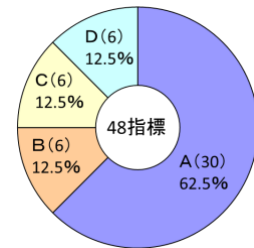
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.0%（36指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 25.0%（12指標）

実質的遅れ 4.2%（2指標）

【対第1期末目標】



取組項目

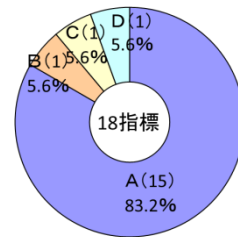
取組項目① きめ細かな学校教育の実践と教育環境の整備・充実

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 88.8%（16指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 11.2%（2指標）

実質的遅れ 5.6%（1指標）

【対第1期末目標】

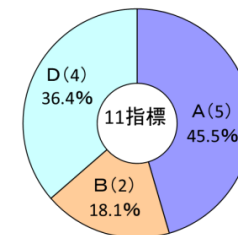


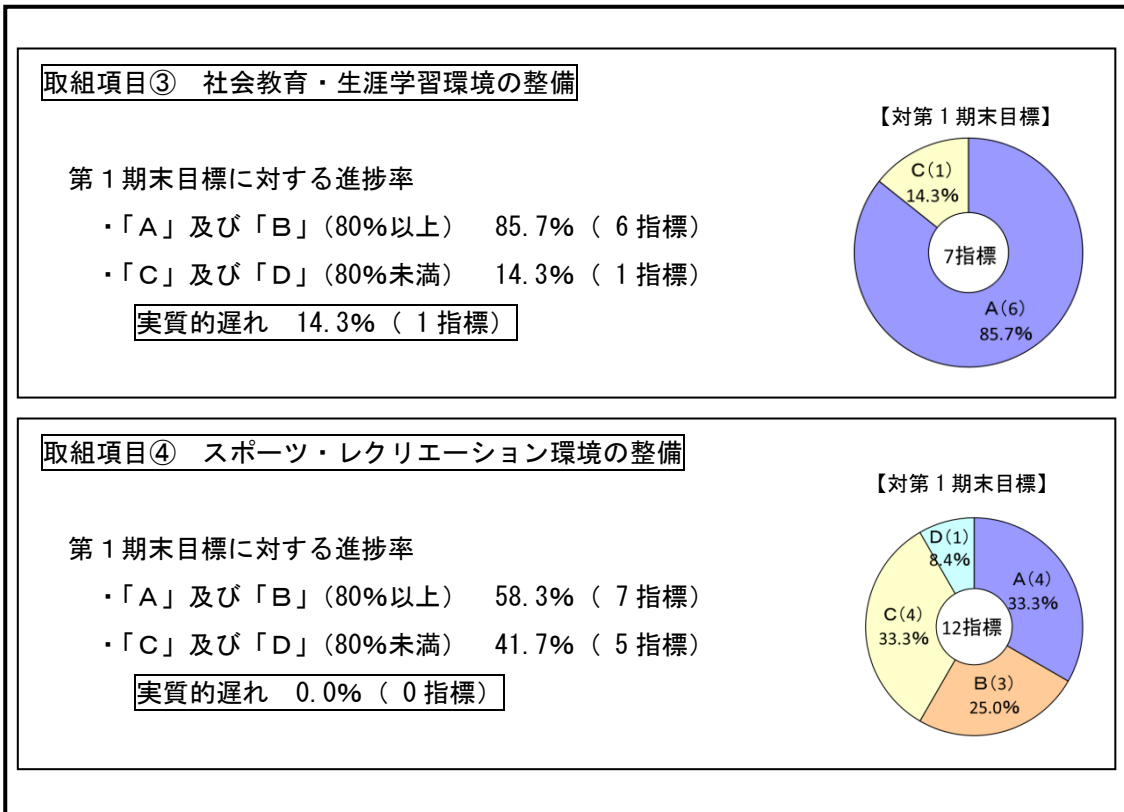
取組項目② 文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 63.6%（7指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 36.4%（4指標）

実質的遅れ 0.0%（0指標）





復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 学校施設災害復旧事業（私立学校含む）

	被災校	進捗状況			復旧率
		復旧済校	復旧が完了していない学校	自校校舎以外で学校再開をしている学校 (うち仮設校舎再開学校)	
県立学校	73校※1	72校	1校	1校	98.6%
うち沿岸部	19校	18校	1校	1校	94.7%
市町村立学校	328校	310校	18校	19(12)校	94.5%
うち沿岸部	67校	49校	18校	19(12)校	73.1%
私立学校	37校※2	36校	1校	1(1)校	97.3%
うち沿岸部	8校	7校	1校	1(1)校	87.5%

※1 県立学校の被災校数：第1期目標に掲げる72校に県立高田高校を加えた校数

※2 私立学校の被災校数：第1期目標に掲げる36校にみどり幼稚園（大槌町）を加えた校数

(H26.3.31現在)

2 暮らしの再建－Ⅲ 教育・文化

2 被災地学校等への教職員配置事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
小学校への教職員加配	357人	360人	100.8%
中学校への教職員加配	232人	235人	101.3%
県立学校への教職員加配	100人	104人	104.0%

(H26. 3. 31 現在)

3 文化芸術活動再開支援事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
県又は（公財）岩手県文化振興事業団の支援事業により活動再開に至った郷土芸能団体数	50団体	51団体	102.0%

(H26. 3. 31 現在)

4 学びを通じた被災地コミュニティ再生支援事業（放課後における児童生徒の居場所づくり事業）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
沿岸市町村における実施地区	80教室	86教室	107.5%

(H26. 3. 31 現在)

5 アスレティックトレーナー派遣事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する進 捗率
アスレティックトレーナー 派遣数	36回	52回	144.4%

(H26. 3. 31 現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【教育】

●学校施設復旧率（県立学校・沿岸）〔平成26年4月30日：94.7%（復旧率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
68.4%	89.5%	94.7%	復旧率	13	17	18	校

平成26年4月30日現在の沿岸部の県立学校復旧工事は被災19校中18校で完了、復旧率は94.7%となっている。

●学校施設復旧率（市町村立学校・沿岸）〔平成26年4月30日：73.1%（復旧率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
32.8%	62.7%	73.1%	復旧率	22	42	49	校

平成26年4月30日現在の沿岸部の市町村立学校復旧工事は被災67校中49校で完了、復旧率は73.1%となっている。

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇被災した学校施設等の復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.75 と高いが、進捗への実感は 2.56 となっており、復興促進ニーズ度は 2.19 に下降、順位も 7 位から 9 位となっている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.75	4.77	4.80	2.56	2.20	2.24	2.19 (9)	2.58 (7)	2.57 (10)
沿岸部	4.74	4.74	4.82	2.65	2.48	2.34	2.09 (9)	2.26 (10)	2.48 (14)
沿岸北部	4.76	4.77	4.77	3.00	2.69	2.63	1.76 (10)	2.08 (10)	2.14 (17)
沿岸南部	4.73	4.72	4.84	2.54	2.40	2.24	2.20 (7)	2.32 (11)	2.60 (11)
内陸部	4.76	4.78	4.80	2.54	2.12	2.21	2.22 (9)	2.66 (7)	2.59 (12)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した伝統芸能団体の再興

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 3.90 と低い水準にあり、進捗への実感は 2.81 と高くなっている。復興促進ニーズ度も 1.08 に下降、順位は昨年同様 29 位と最も低いままで推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	3.90	3.95	3.95	2.81	2.60	2.50	1.08 (29)	1.35 (29)	1.45 (29)
沿岸部	3.87	3.88	3.91	3.00	2.76	2.60	0.87 (29)	1.12 (29)	1.31 (29)
沿岸北部	3.89	3.94	3.90	3.12	2.84	2.68	0.78 (29)	1.10 (29)	1.22 (29)
沿岸南部	3.86	3.86	3.91	2.96	2.73	2.58	0.90 (29)	1.13 (29)	1.33 (29)
内陸部	3.90	3.97	3.96	2.76	2.56	2.47	1.14 (29)	1.41 (29)	1.49 (29)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した公民館、図書館の復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.13、進捗への実感は 2.61 となっている。復興促進ニーズ度は 1.53 に下降、順位は昨年と同程度の 24 位で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.13	4.17	4.12	2.61	2.33	2.28	1.53 (24)	1.84 (25)	1.84 (26)
沿岸部	4.12	4.15	4.14	2.73	2.50	2.36	1.38 (27)	1.65 (25)	1.78 (25)
沿岸北部	4.21	4.28	4.14	3.19	2.76	2.62	1.02 (26)	1.52 (26)	1.53 (26)
沿岸南部	4.08	4.09	4.14	2.58	2.40	2.27	1.50 (26)	1.69 (26)	1.86 (25)
内陸部	4.14	4.18	4.12	2.57	2.28	2.25	1.57 (24)	1.90 (25)	1.86 (25)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災したスポーツ・レクリエーション施設の復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 3.92 と低い水準にあり、進捗への実感は 2.50 となっている。復興促進ニーズ度は 1.42 に下降、順位は昨年同様 28 位と低いままで推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	3.92	3.90	3.84	2.50	2.23	2.22	1.42 (28)	1.67 (28)	1.62 (28)
沿岸部	3.95	3.91	3.88	2.51	2.30	2.21	1.44 (26)	1.61 (26)	1.68 (27)
沿岸北部	3.95	3.94	3.86	3.04	2.66	2.53	0.92 (28)	1.28 (28)	1.32 (28)
沿岸南部	3.95	3.89	3.90	2.34	2.16	2.10	1.60 (23)	1.73 (25)	1.80 (26)
内陸部	3.91	3.90	3.83	2.50	2.22	2.22	1.42 (28)	1.68 (28)	1.61 (28)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。

Ⅳ 地域コミュニティ

2 暮らしの再建

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 94.6%（35指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 5.4%（2指標）

実質的遅れ 2.7%（1指標）

【対第1期末目標】

区分	指標数	進捗率
A	27	73.0%
B	8	21.6%
C	1	2.7%
D	1	2.7%
合計	37	100%

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

生活福祉資金貸付推進事業

	第1期に掲げる 目標値※1	実績値※2	第1期目標に対する 進捗率
生活支援相談員の配置人数	延べ604人	延べ579人	95.9%

(H26.3.31 現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

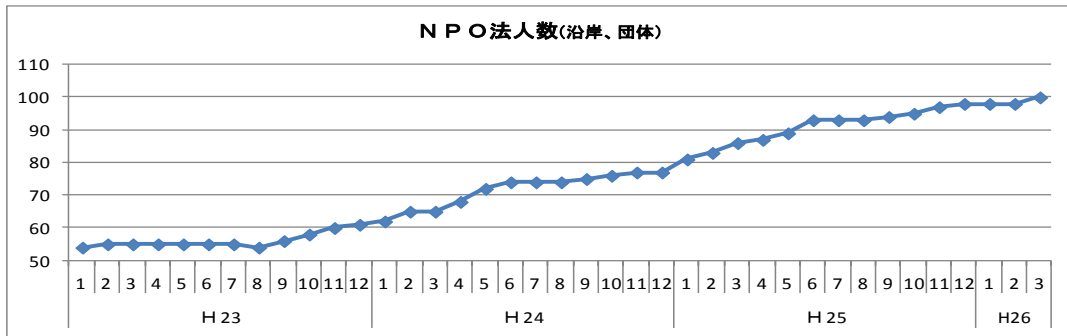
いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【地域活動】

●NPO法人数（沿岸）〔平成26年3月31日：+81.8（平成23年3月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
+18.2%	+56.4%	+81.8%	平成23年3月比	65	86	100	団体

平成26年3月31日現在の沿岸部のNPO法人数は100団体であった。NPO法人数は一般的に増加傾向を維持しており、平成23年3月と比較すると81.8%増となっている。

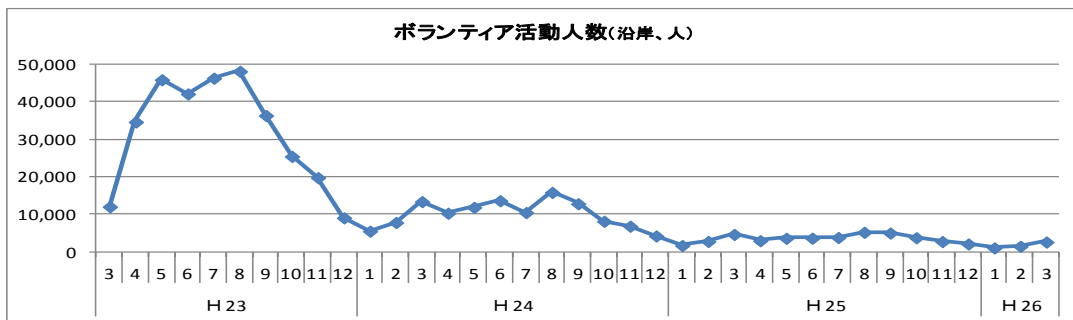


●ボランティア活動人数（沿岸）〔平成26年1～3月：-42.9%（前年同期間比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.1-3)	第6回 (H25.1-3)	第10回 (H26.1-3)	項目	第2回 (H24.1-3)	第6回 (H25.1-3)	第10回 (H26.1-3)	単位
—	-65.6%	-42.9%	前年同期間比	26,911	9,247	5,278	人

平成26年第1四半期（平成26年1月～3月）のボランティア活動人数（岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターに登録して活動した人数）は5,278人であり、前年同期間比で42.9%減となった。

※発災直後は、多くの人手を要する泥やがれきの撤去、避難所における炊き出し等が活動の中心だったが、その後は心のケアやコミュニティづくり支援、さらには復興に向けたまちづくり支援などニーズの変化も見られ、地元NPO等を中心に息の長い取組を展開している。



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇被災地域のコミュニティ活動（自治会、町内会など）の活性化

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.26 となっている。進捗への実感は 2.84 と高い水準にあり、復興促進ニーズ度は 1.42 に下降、順位は昨年同様 27 位と低いままで推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.26	4.31	4.35	2.84	2.64	2.59	1.42 (27)	1.67 (27)	1.76 (27)
沿岸部	4.11	4.17	4.26	2.91	2.81	2.68	1.20 (28)	1.36 (28)	1.58 (28)
沿岸北部	4.25	4.25	4.28	3.19	2.96	2.87	1.07 (24)	1.29 (27)	1.41 (27)
沿岸南部	4.06	4.14	4.25	2.82	2.75	2.60	1.24 (28)	1.39 (28)	1.65 (27)
内陸部	4.30	4.35	4.37	2.82	2.59	2.56	1.48 (25)	1.75 (27)	1.81 (27)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{復興促進ニーズ度} = \text{重要度} - \text{進捗への実感}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。

V 市町村行政機能

2 暮らしの再建

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

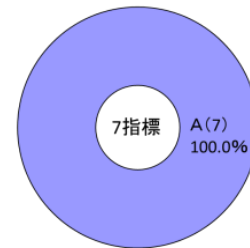
分野全体

【対第1期末目標】

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 100.0%（7指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 0.0%（0指標）

実質的遅れ 0.0%（0指標）



復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

被災市町村行政機能支援事業

○平成26年度派遣者数

久慈市	野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市	計
1	19	24	8	94	667人
山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	
53	155	119	84	110	

(H26. 4. 16 現在)

【参考】平成25年度派遣者数

久慈市	野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市	計
1	19	13	2	43	453人
山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	
33	101	79	75	87	

(H25. 4. 30 現在)

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇被災した市町村の行政機能の回復

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.65、進捗への実感は 2.89 となっており、復興促進ニーズ度は 1.76 に下降、順位は 23 位と昨年と同程度で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度					
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.65	4.68	4.72	2.89	2.57	2.56	1.76 (23)	2.12 (21)	2.17 (22)			
沿岸部	4.58	4.62	4.73	3.11	2.91	2.80	1.46 (25)	1.71 (24)	1.93 (24)			
沿岸北部	4.64	4.68	4.71	3.32	3.10	2.99	1.32 (23)	1.57 (25)	1.71 (25)			
沿岸南部	4.55	4.60	4.73	3.04	2.84	2.73	1.51 (25)	1.76 (24)	2.01 (24)			
内陸部	4.67	4.70	4.72	2.83	2.47	2.49	1.84 (22)	2.23 (21)	2.24 (22)			
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42			

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。



3 なりわいの再生

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

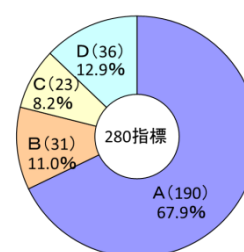
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 78.9%（221指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 21.1%（59指標）

実質的遅れ 4.6%（13指標）

【対第1期末目標】



分野

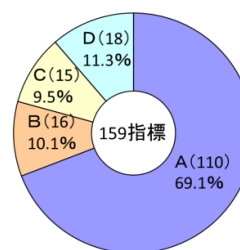
分野Ⅰ 水産業・農林業

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 79.2%（126指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 20.8%（33指標）

実質的遅れ 6.9%（11指標）

【対第1期末目標】



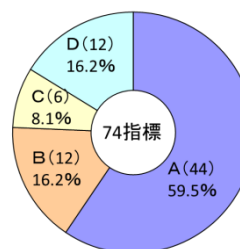
分野Ⅱ 商工業

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.7%（56指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 24.3%（18指標）

実質的遅れ 1.4%（1指標）

【対第1期末目標】



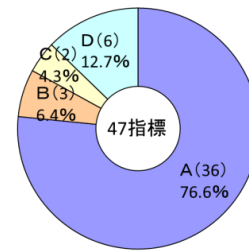
分野Ⅲ 観光

【対第1期末目標】

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」(80%以上) 83.0% (39指標)
- ・「C」及び「D」(80%未満) 17.0% (8指標)

実質的遅れ 2.1% (1指標)



3 なりわいの再生

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年【第 1 回】 いわて復興ウォッチャー調査〔平成 26 年 3 月 28 日〕

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が46.9%と前回（48.8%）を1.9ポイント下回った。

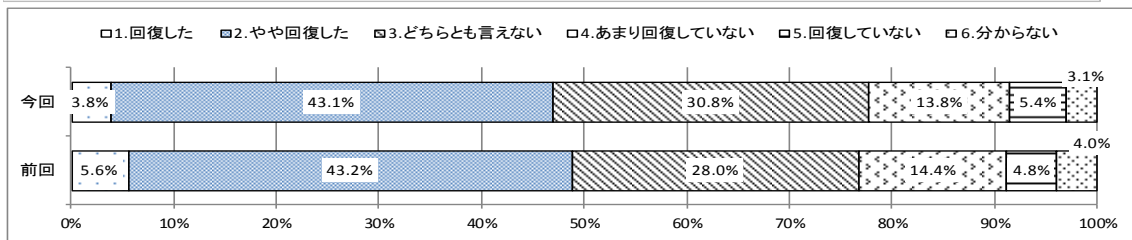
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計が、沿岸北部では56.1%と前回（47.6%）を8.5ポイント上回ったが、沿岸南部では42.6%と前回（49.4%）を6.8ポイント下回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」の割合が38.5%と最も高く、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が43.9%と前回（37.9%）を6.0ポイント上回った。

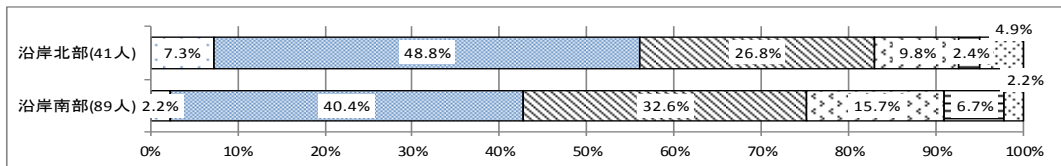
大型店進出による雇用・消費拡大への期待や漁業の好況を前向きに評価する声がある一方、地元商店街等の先行きを不安視する声もあった。

① 地域経済の回復度（震災以降における全体の回復状況）

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

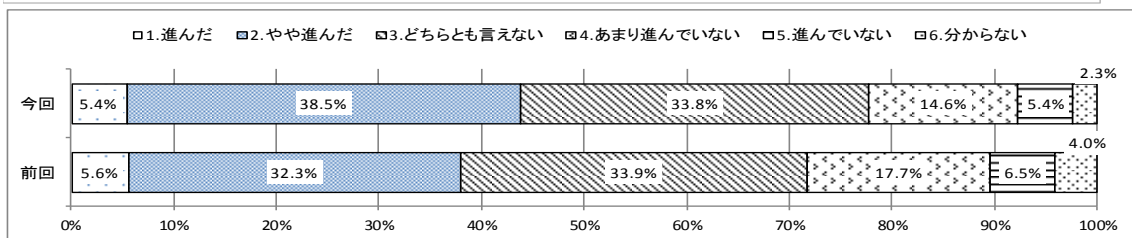


地域別

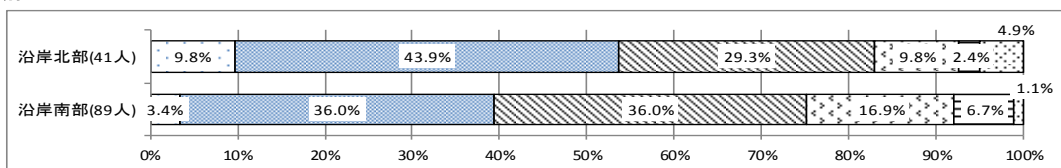


② 直近3ヶ月間（概ね12月から2月）の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の（3ヶ月程度）地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ○内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆復興特需により活気があるが、未来の発展性はない。被災前より過剰に設備をした分、景気は一気に落ち込むと思う。事業復興型雇用創出助成金の事務手続きが遅々として進まず、もったいないことになっている。(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆水産物の流通形態が、震災前とかなり変化しており、震災以前のような物流ができなくなって来た。福島原発事故による風評被害によるものや、2年間三陸産の水産物が出荷されないための、仲介人や市場の顧客等のシフトや変化等が考えられる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆ワカメ、ホタテガイ養殖が復旧し、今季から待望の養殖カキの出荷が始まった。昨年、悲願の町内2箇所の魚市場の復興が成り、浅海養殖生産処理共同施設が建設されてきた。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆近くに大型スーパーが出来てから家がたくさん建って来ているので、町の人口の流出を取り戻すきっかけとなり、今後の経済の回復に期待する。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆やっと目に見える形で大型スーパーや店が建ってきた。「行ってみよう」「あの店で買ってみよう」と購買意欲が高まってきている。鮭がまた戻ってくるようになったことや養殖産業が復活してきたことを感じる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆ホテルや大型店が新設された。被災した飲食店なども再開してきている。水産業には活気が感じられる。ワカメやコンブなど海産物に磯の香りを感じる。三陸鉄道の全線開通を楽しみにしている。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆水産業の方もだいぶ回復しているのか、求人が出ているのを目にした。人が足りないくらい忙しくなってきたのかと感じた。母も漁業関係で働いているが、忙しそうにしている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆人口の流出、住宅から店舗までの足がない、若い人達は町外に買い物に行く。毎日の買い物は、スーパーに行き食品を買うだけです。仮設店舗の通りは人通りもなく大変です。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆両親が自営業で自宅と工場、事務所のすべてを失った。機械やトラック等を買って揃えるのには億単位の資金が必要で、借金するにも今後の見通しが立たない。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆地元企業が働き手の募集をかけても集まってこない。どの業界でもこの問題が大きくなっている。復興の為に他県からの応援企業に就職する方々もいる。どこか歯車が噛みあてない気がする。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆他地域での復興事業が本格化したことでより生活向上がみられる地域への流出が顕著になってきた感がある。ウニ・わかめ等の水産業関係は以前より回復の度合いが早くなったように感じられる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆観光業、商店街は苦戦しているようだ。宿泊客は主にビジネスマン、復興関係の作業員、出張者で、仮設宿泊所を会社で建てたりしている。仮設商店街のお客様が、以前に比べてずいぶん減っているのも心配だ。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆魚価は上がらない。水産加工工場は労働がきつい割には賃金が安い。働き手は町から出て行く。働く所と賃金問題で外で結婚して子供が出来ればそこに住み付いて戻れない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆生産体制は、海上施設が進んでいるが、陸上施設、船着き場が少ない。漁協の金融体制が生きていないので、組合員の生産者が資金等で苦勞している。資材、燃料が高く、魚価は安く、漁に出られない状況である。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆一次産業基盤の復旧は途上で、土地区画整理の造成との整合の為、水利の変更等もとれない、高台の農地等も管理作業にしろよせが来る。「所得に結びつかない作業量が多くて困る。」と云う話を良く聞く。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆新年を迎えての情報。初売りに町民があまり集まらない。他市町村の大型店に買い物に出かけることが多くなっているとのことである。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 なりわいの再生

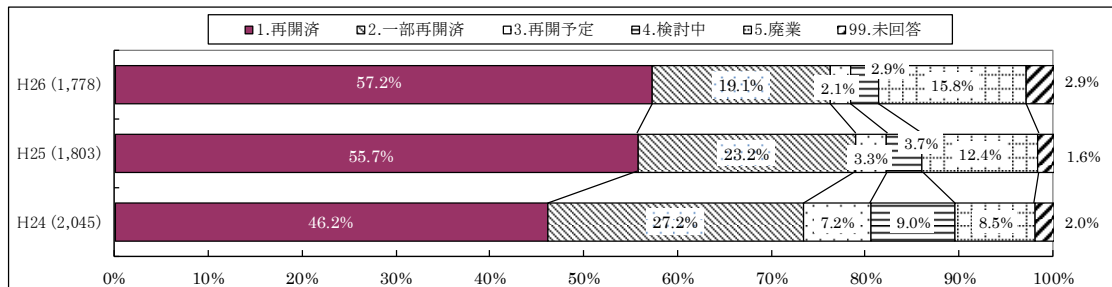
復興の状況を示す「客観指標」及び県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年【第 1 回】 被災事業所復興状況調査〔平成 26 年 3 月 28 日〕

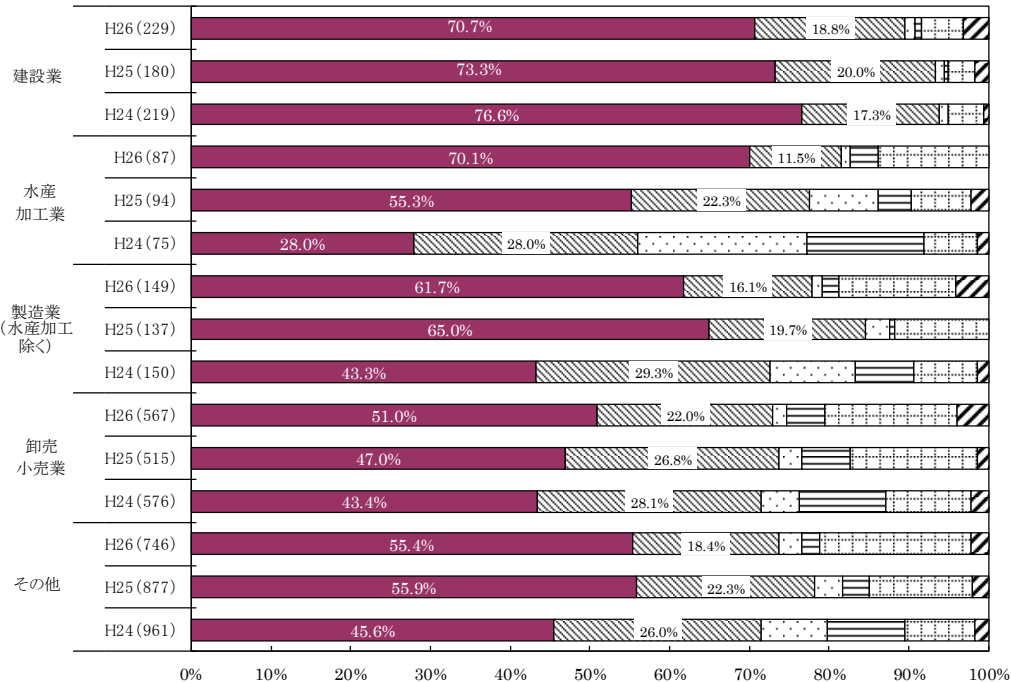
事業再開の有無

- 事業所の再開状況では、「再開済」又は「一部再開済」と回答した事業所は76.3%で、前年（78.9%）と比べて2.6ポイント低下した。
- 産業分類別では、「再開済」又は「一部再開済」と回答した事業所は、建設業が89.5%（205/229：前年93.3%）で最も割合が高く、卸売小売業が73.0%（414/567：前年73.8%）で最も割合が低かった。
- 事業を再開した場所（予定を含む）は、「同じ市町村内」（震災前と同じ場所又は同じ市町村で異なる場所の合計）と回答した事業所が93.8%（1,356/1,446）であった。

① 事業再開の状況

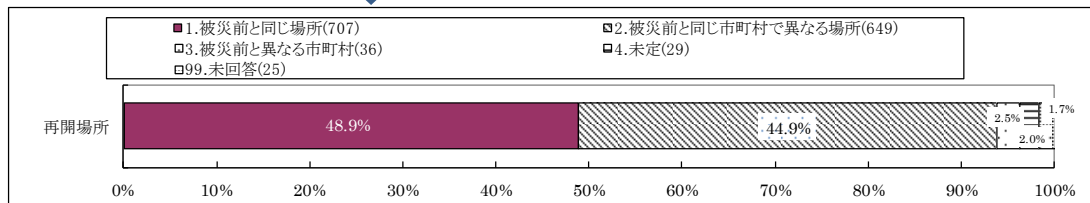


<産業分類別の再開状況>



② 再開又は再開予定の場所

1.再開済、2.一部再開、3再開予定、4.再開を検討中を選択した事業所のみ回答



※1: 凡例内の()は、各回調査の集計対象事業所数を示す。

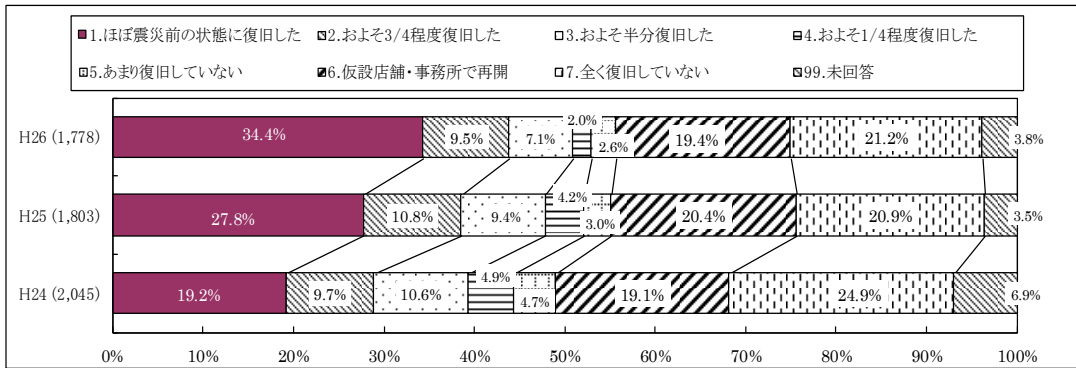
※2: 全体及び産業分類集計の「廃業」には、今回(H26)調査で「廃業」と回答した19事業者に、これまでの調査で「廃業」が確認された262事業者を加えた。

事業所の復旧状況

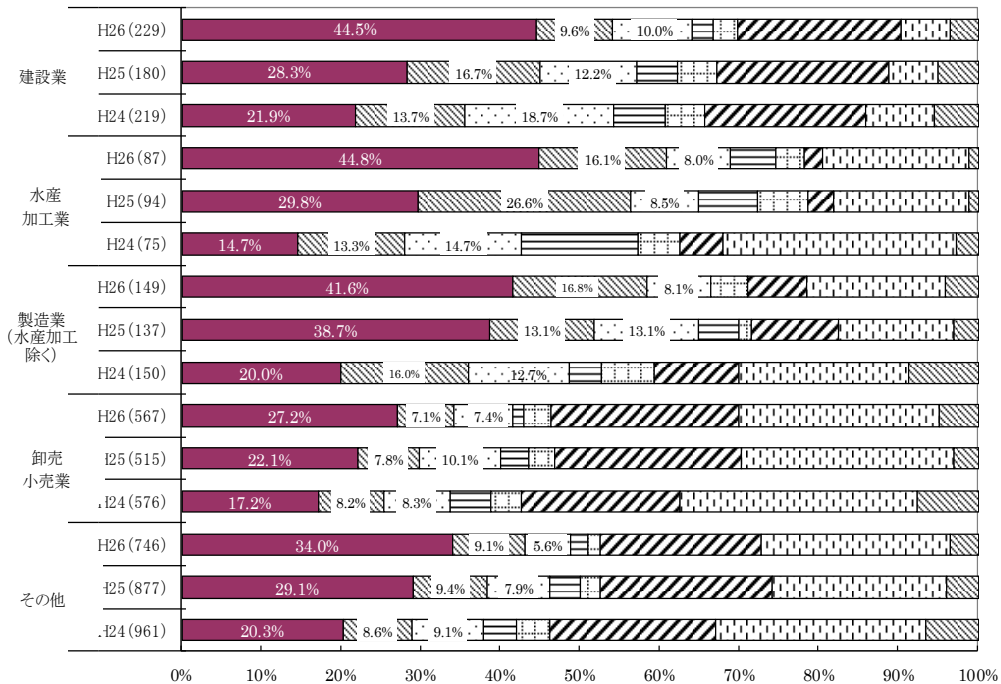
○直接被害を受けた建物や設備の復旧状況では、「およそ半分以上復旧」と回答した事業所は51.0%（906/1,778）で、前年（48.0%）と比べて3.0ポイント上昇した。一方で、「復旧が進んでいない（5,7の合計）」と回答した事業所は23.8%（424/1,778）で、前年（23.9%）と同水準であった。

○産業分類別では、「およそ半分以上復旧」と回答した事業所は、水産加工業が69.0%（60/87：前年64.9%）で最も割合が高く、卸売小売業が41.6%（236/567：前年40.0%）で最も割合が低かった。

○前年調査と比較すると、「およそ半分以上復旧」と回答した事業所の割合が最も上昇したのは建設業で、前年（57.2%）から6.9ポイント上昇し64.2%（147/229）であった。



<産業分類別の事業所の復旧状況>



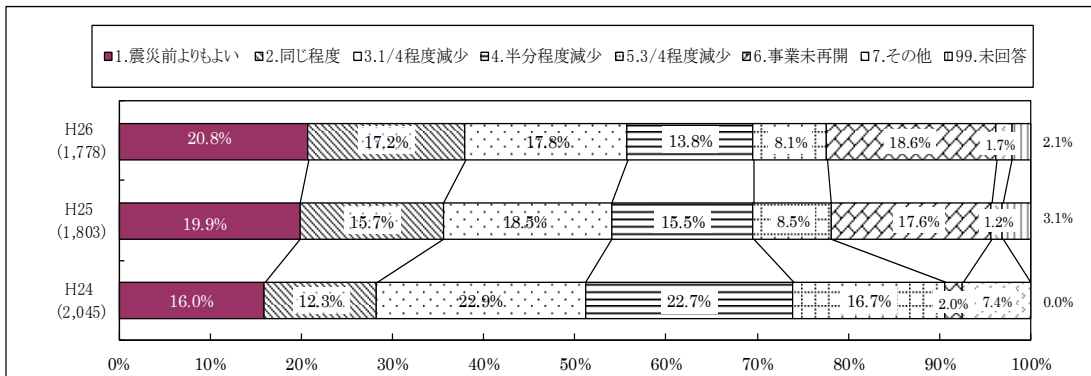
※1: 凡例内の()は、各回調査の集計対象事業所数を示す。
 ※2: 全体及び産業分類別集計の「全く復旧していない」には、今回(H26)調査で「全く復旧していない」と回答した115事業者に、これまでの調査で「廃業」が確認された262事業者を加えた。

3 なりわいの再生

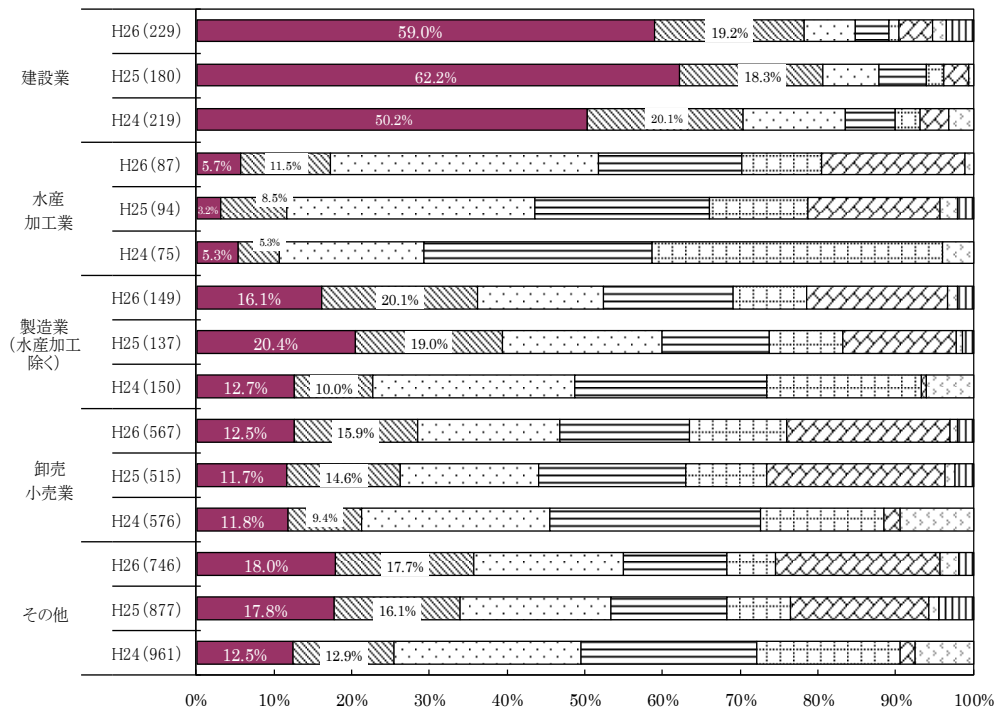
業績(売上等)の状況

○業績(売上等)の状況では、「震災前と同程度又は上回っている」と回答した事業所は38.0% (675/1,778) で、前年(35.6%) から2.4ポイント上昇した。一方、「震災前よりも減少した」と回答した事業所の割合は58.3% (1,036/1,778) で、前年(60.1%) から1.8ポイント良好化した。

○産業分類別では、「震災前と同程度又は上回っている」と回答した事業所は、建設業が78.2% (179/229：前年80.6%) で最も割合が高かった。最も割合が低かったのは水産加工業の17.2% (15/87：前年11.7%) であったが、5.5ポイントの上昇は、全産業中最も高かった。



<産業分類別の業績(売上等)の変化>

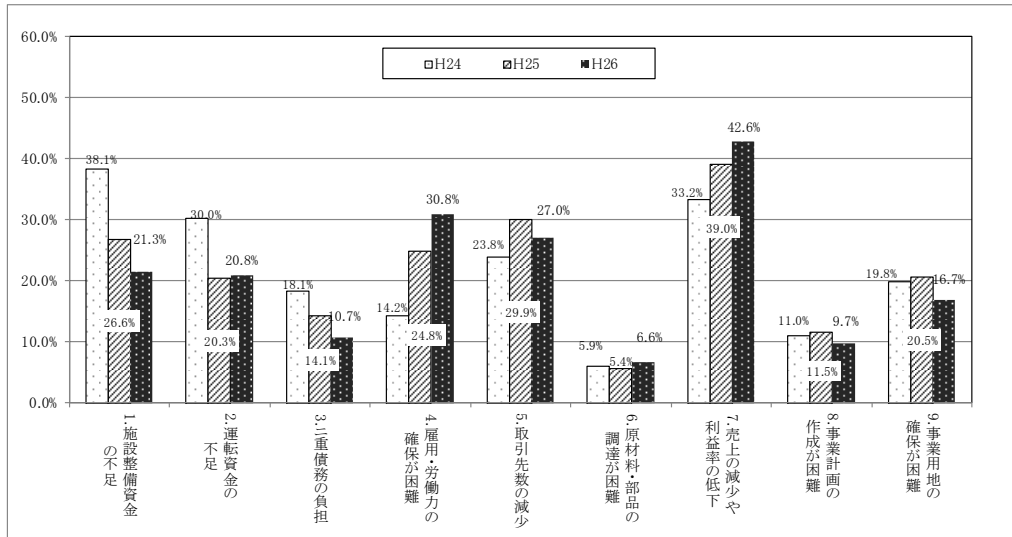


※1: 凡例内の()は、各回調査の集計対象事業所数を示す。

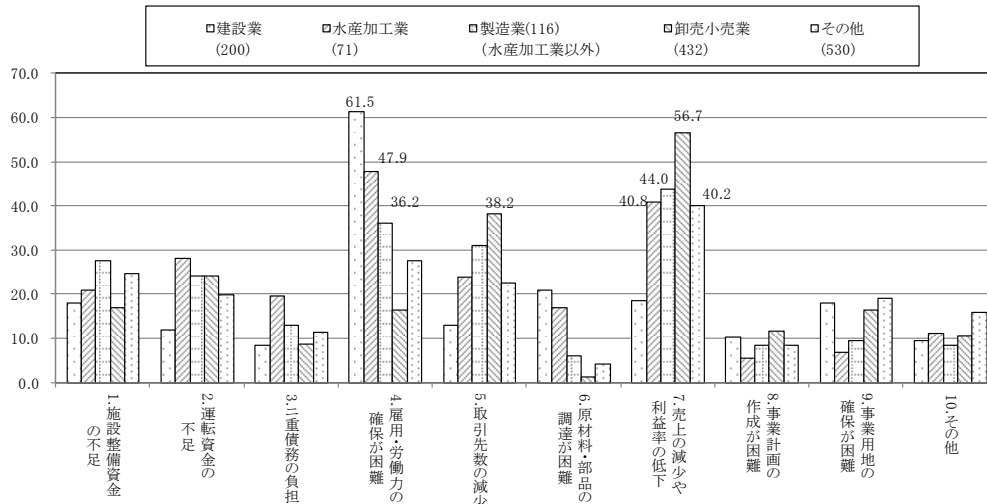
※2: 全体及び産業分類別集計の「事業が再開していない」には、今回(H26)調査で「事業が再開していない」と回答した68事業者に、これまでの調査で「廃業」が確認された262事業者を加えた。

現在の課題

○現在抱えている課題（3つ選択）では、「売上・利益率の低下」と回答した事業者が42.6%（575/1,349）で最も割合が高く、次いで「雇用の確保（30.8%）」の割合が高かった。前年と比較すると、「雇用の確保」と回答した事業者の割合が6.0ポイント上昇したほか、「売上・利益率の低下」が3.6ポイント、「原材料等の調達」が1.2ポイント、「運転資金の不足」が0.5ポイント、それぞれ上昇した。
 ○産業分類別では、建設業で「雇用の確保（61.5%）」の割合が最も高い。
 水産加工業では、「雇用の確保（47.9%）」「売上・利益率の低下（40.8%）」の割合が、製造業では、「売上・利益率の低下（44.0%）」「雇用の確保（36.2%）」の割合が高い。
 卸売小売業では、「売上・利益率の低下（56.7%）」「取引先の減少（38.2%）」の割合が、その他の産業では「売上・利益率の低下（40.2%）」の割合が高い。



<産業分類別の課題>



※凡例内の()は、各回調査の集計対象事業所数を示す。

Ⅰ 水産業・農林業 3 なりわいの再生

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

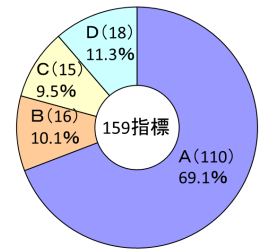
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 79.2%（126指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 20.8%（33指標）

実質的遅れ 6.9%（11指標）

【対第1期末目標】



取組項目

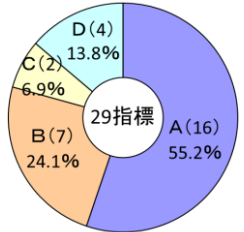
取組項目① 漁業協同組合を核とした漁業、養殖業の構築

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 79.3%（23指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 20.7%（6指標）

実質的遅れ 6.9%（2指標）

【対第1期末目標】



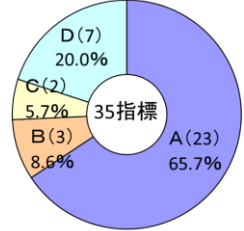
取組項目② 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 74.3%（26指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 25.7%（9指標）

実質的遅れ 2.9%（1指標）

【対第1期末目標】



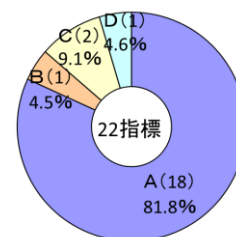
取組項目③ 漁港等の整備

【対第1期末目標】

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」(80%以上) 86.4% (19指標)
- ・「C」及び「D」(80%未満) 13.6% (3指標)

実質的遅れ 13.6% (3指標)



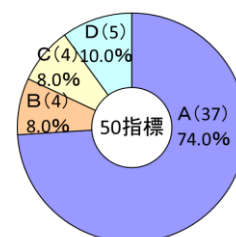
取組項目④ 地域特性を生かした生産性・収益性の高い農業の実現

【対第1期末目標】

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」(80%以上) 82.0% (41指標)
- ・「C」及び「D」(80%未満) 18.0% (9指標)

実質的遅れ 6.0% (3指標)



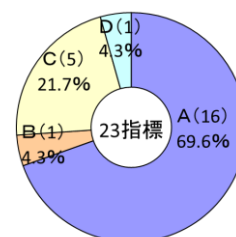
取組項目⑤ 地域の木材を活用する加工体制等の再生

【対第1期末目標】

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」(80%以上) 73.9% (17指標)
- ・「C」及び「D」(80%未満) 26.1% (6指標)

実質的遅れ 8.7% (2指標)



3 なりわいの再生－Ⅰ 水産業・農林業

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 共同利用漁船等復旧支援対策事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
補助事業による 新規登録漁船数	6,800隻	6,324隻	93.0%

（H26.3.31現在）

2 水産業経営基盤復旧支援事業（養殖施設）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
整備施設数	19,885台	17,329台	87.1%

（H26.3.31現在）

3 種苗生産施設の復旧・整備

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
着工施設数	5施設	5施設	100.0%
整備完了施設数	5施設	5施設	100.0%

（H26.3.31現在）

4 水産業流通・加工関連施設復旧支援

区 分	着工施設数	うち竣工施設数
魚市場等荷捌き施設	50箇所	40箇所
製氷・貯氷施設	20箇所	20箇所
冷凍冷蔵施設	36箇所	33箇所
加工処理施設	27箇所	24箇所
合 計	133箇所	117箇所

（H26.3.31現在）

5 漁港災害復旧事業（漁港施設等本復旧）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
潮位にかかわらず陸揚げが 可能な漁港数	31漁港	31漁港	100.0%
【参考】岸壁等の復旧延長	20.7km	13.1km	63.2%

(H26.3.31現在)

6 漁業用施設災害復旧事業（漁場施設等本復旧）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
復旧完了地区数	21地区	21地区	100.0%

(H26.3.31現在)

7 被災地域農業復興総合支援事業（整備事業）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
事業実施地区数	10箇所	9箇所	90.0%

(H26.3.31現在)

8 農地等災害復旧事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
本復旧着工面積	264 ha	242 ha	91.2%

(H26.3.31現在)

9 農用地災害復旧関連区画整理事業

	着工計画（累計）	実績値（累計）	計画に対する達成率
区画整理着工面積	218 ha	211 ha	96.8%

(H26.3.31現在)

10 木材加工流通施設等復旧対策事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
木材加工施設整備事業体数	10事業体	8事業体	80.0%

(H26.3.31現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【水産業】

●補助事業による新規登録漁船数（累計）（沿岸）〔平成23年4月～平成26年4月：94.6%（整備率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
—	83.8%	94.6%	整備率	—	5,698	6,332	隻

平成23年4月から平成26年4月までの県の補助事業による新規登録漁船数(累計)は6,332隻であり、平成27年度までの補助事業による整備目標数(6,693隻)に対する整備率は94.6%となっている。

*第6回の指標は、平成25年度までの整備目標数(6,800隻)に対する整備率としている。

●養殖施設整備台数（累計）（沿岸）〔平成23年4月～平成26年3月：87.1%（整備率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
54.8%	85.8%	87.1%	整備率	10,905	17,062	17,329	台

平成23年4月から平成26年3月までの養殖施設整備台数(累計)は17,329台であり、平成23年度から25年度までの整備計画数(19,885台)に対する整備率は87.1%となっている。

●産地魚市場水揚量（年度累計）（沿岸）〔平成25年4月～平成26年3月：63.9%（3年平均比）〕

指標				データ（年度累計）			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
55.1%	66.6%	63.9%	3年平均比	93,695	113,381	108,320	トン

平成25年4月から平成26年3月までの産地魚市場水揚量(年度累計)は108,320トンであり、平成20年度から22年度までの3年間の同期間における産地魚市場水揚量の平均値の63.9%となっており、前年同期間との比較では4.5%減となっている。

●養殖生産量（年度累計）（沿岸）〔平成25年4月～平成26年3月：59.1%（3年平均比）〕

指標				データ（年度累計）			
— (H24.3末)	— (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	— (H24.3末)	— (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
1.3%	45.0%	59.1%	3年平均比	599	21,474	28,170	トン

平成25年4月から平成26年3月までの養殖生産量（年度累計）は28,170トンであり、平成20年度から22年度までの3年間の同期間における養殖生産量の平均値の59.1%となっており、昨年同期間との比較では31.2%増となっている。

【農 業】

●農地復旧率（沿岸）〔平成26年4月30日：89.1%（復旧率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回※ (H26.4末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回※ (H26.4末)	単位
30.9%	61.1%	89.1%	復旧率	96	190	401	ha

平成26年4月30日現在の沿岸地域の復旧済農地面積は401haであり、平成28年度までの復旧対象農地面積（累計450ha）に対する復旧率は89.1%となっている。

※第2回及び第6回の指標は、平成25年度までの復旧対象農地面積（311ha）に対する復旧率としている。

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇地域の特性を生かした農林水産業の振興

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.43、進捗への実感は 2.53 となっている。復興促進ニーズ度は 1.90 に減少したが、順位は 23 位から 16 位に上昇している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.43	4.48	4.54	2.53	2.38	2.21	1.90 (16)	2.10 (23)	2.33 (21)
沿岸部	4.49	4.50	4.60	2.61	2.42	2.16	1.89 (12)	2.08 (17)	2.44 (16)
沿岸北部	4.49	4.51	4.53	2.79	2.46	2.29	1.70 (12)	2.05 (13)	2.23 (12)
沿岸南部	4.49	4.50	4.62	2.55	2.41	2.11	1.95 (12)	2.09 (18)	2.51 (16)
内陸部	4.41	4.47	4.52	2.50	2.37	2.23	1.91 (18)	2.11 (23)	2.30 (21)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.68、進捗への実感は 2.78 といずれも高く、復興促進ニーズ度は 1.90 に減少したが、順位は昨年と同程度の 17 位で推移している。これを地域別に見ると、沿岸南部では 27 位だが沿岸北部では 18 位（沿岸南部<沿岸北部）であり、また、沿岸部では 24 位だが内陸部では 15 位（沿岸部<内陸部）と、それぞれに順位の大きな乖離が生じている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.68	4.71	4.76	2.78	2.39	2.10	1.90 (17)	2.32 (16)	2.66 (9)
沿岸部	4.61	4.67	4.75	3.14	2.76	2.20	1.48 (24)	1.92 (21)	2.55 (11)
沿岸北部	4.72	4.72	4.73	3.24	2.85	2.52	1.48 (18)	1.87 (19)	2.21 (13)
沿岸南部	4.57	4.66	4.76	3.10	2.71	2.08	1.47 (27)	1.94 (21)	2.68 (9)
内陸部	4.70	4.71	4.76	2.69	2.29	2.07	2.01 (15)	2.42 (14)	2.69 (9)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した漁港の復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.71 と高い水準にあり、進捗への実感は 2.62 に増加、復興促進ニーズ度は 2.08 に減少し、順位も 13 位と若干下降している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.71	4.74	4.77	2.62	2.19	1.98	2.08 (13)	2.55 (10)	2.80 (5)
沿岸部	4.63	4.69	4.76	2.84	2.40	1.95	1.79 (16)	2.30 (9)	2.81 (5)
沿岸北部	4.73	4.71	4.73	3.18	2.72	2.36	1.55 (16)	1.99 (17)	2.37 (7)
沿岸南部	4.59	4.68	4.78	2.71	2.26	1.79	1.88 (15)	2.42 (9)	2.98 (4)
内陸部	4.72	4.75	4.78	2.56	2.14	1.99	2.16 (12)	2.61 (9)	2.79 (7)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇水産加工品の製造再開や県内外での販売の回復

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.59、進捗への実感は 2.78 となっており、復興促進ニーズ度は 1.80 に減少、順位も 21 位と若干下降している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.59	4.64	4.69	2.78	2.42	2.16	1.80 (21)	2.22 (18)	2.54 (14)
沿岸部	4.52	4.60	4.65	2.95	2.64	2.18	1.57 (21)	1.96 (19)	2.47 (15)
沿岸北部	4.55	4.65	4.64	3.16	2.74	2.44	1.39 (20)	1.92 (18)	2.20 (14)
沿岸南部	4.51	4.58	4.65	2.87	2.59	2.07	1.63 (22)	1.98 (20)	2.58 (14)
内陸部	4.60	4.65	4.70	2.74	2.37	2.15	1.86 (21)	2.29 (18)	2.55 (14)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した農地などの復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.56、進捗への実感は 2.36 となっており、復興促進ニーズ度は 2.20 に減少したものの、順位は昨年と同程度の 9 位から 8 位となっているが、これを地域別に見ると、沿岸部で 14 位、内陸部で 5 位と順位の大きな乖離（沿岸部<内陸部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.56	4.60	4.65	2.36	2.03	1.89	2.20 (8)	2.57 (9)	2.77 (7)
沿岸部	4.42	4.52	4.58	2.61	2.28	2.02	1.81 (14)	2.24 (12)	2.56 (10)
沿岸北部	4.51	4.61	4.65	2.87	2.52	2.30	1.64 (14)	2.09 (9)	2.35 (9)
沿岸南部	4.38	4.48	4.55	2.51	2.17	1.92	1.87 (17)	2.30 (12)	2.64 (10)
内陸部	4.60	4.62	4.67	2.29	1.97	1.86	2.30 (5)	2.65 (8)	2.82 (6)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した木材加工施設などの復旧・整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.37、進捗への実感は 2.52 となっており、復興促進ニーズ度は 1.85 に減少したものの、順位は昨年と同程度で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.37	4.38	4.48	2.52	2.21	2.02	1.85 (19)	2.17 (20)	2.46 (18)
沿岸部	4.28	4.31	4.45	2.67	2.47	2.15	1.61 (20)	1.84 (23)	2.30 (18)
沿岸北部	4.36	4.39	4.41	2.95	2.66	2.32	1.41 (19)	1.73 (22)	2.09 (20)
沿岸南部	4.25	4.28	4.47	2.56	2.40	2.08	1.69 (20)	1.88 (23)	2.38 (18)
内陸部	4.38	4.40	4.49	2.52	2.14	1.99	1.87 (20)	2.25 (19)	2.50 (17)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。



II 商工業

3 なりわいの再生

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

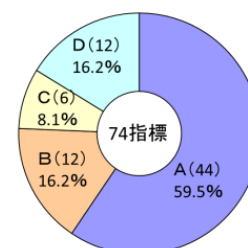
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.7%（56指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 24.3%（18指標）

実質的遅れ 1.4%（1指標）

【対第1期末目標】



取組項目

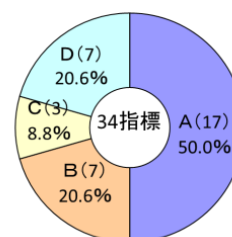
取組項目① 中小企業等への再建支援と復興に向けた取組

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 70.6%（24指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 29.4%（10指標）

実質的遅れ 2.9%（1指標）

【対第1期末目標】



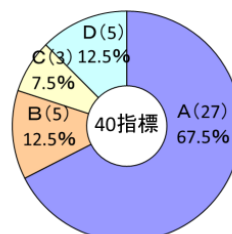
取組項目② ものづくり産業の新生

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 80.0%（32指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 20.0%（8指標）

実質的遅れ 0.0%（0指標）

【対第1期末目標】



3 なりわいの再生-II 商工業

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 復興支援ファンド設立支援事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
岩手県産業復興相談センター の相談受付件数（全業種）	625企業	495企業	79.2%
二重債務対策支援件数	625件	149件	23.8%

（H26.3.31現在）

2 中小企業東日本大震災復興資金貸付金事業

	平成25年度の目標値	平成25年度実績値	平成25年度目標に対する 進捗率
融資額（全業種）	500億円	425億1,492万円	85.0%

（H26.2.28現在）

3 中小企業東日本大震災復興資金保証料補給事業

	平成25年度の目標値	平成25年度実績値	平成25年度目標に対する 進捗率
保証料補給額（全業種）	8億8,320万円	9億4,557万円	107.1%

（H26.3.31現在）

4 海洋研究拠点形成促進事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
三陸をフィールドとした 研究件数	7件	7件	100%

（H26.3.31現在）

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【倒産】

●企業倒産件数（年度累計）（沿岸）〔-〕〔平成25年4月～平成26年3月：0.0%（前年同期間比）〕

指標				データ（年度累計）			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
-40.0%	-44.4%	+0.0%	前年同期間比	9	5	5	事業所

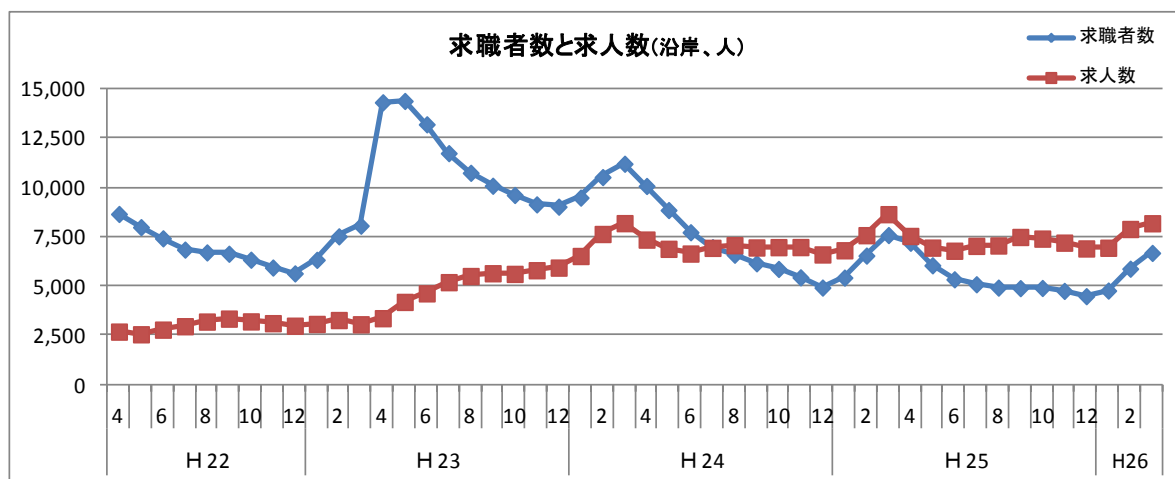
平成25年4月から平成26年3月までの企業倒産件数（年度累計）は5件で、前年同期間と同じとなった。

【雇用】

●有効求職者数（沿岸）〔-〕〔平成26年3月：-11.9%（前年同月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.3)	第6回 (H25.3)	第10回 (H26.3)	項目	第2回 (H24.3)	第6回 (H25.3)	第10回 (H26.3)	単位
+38.9%	-32.3%	-11.9%	前年同月比	11,212	7,595	6,689	人

平成26年3月の有効求職者数は6,689人で、前年同月比で11.9%減となった。有効求職者数は震災直後の平成23年5月以降、全体として見れば減少傾向が続いており、指標（前年同月比）については平成24年4月以降24ヵ月連続でマイナスとなっている。



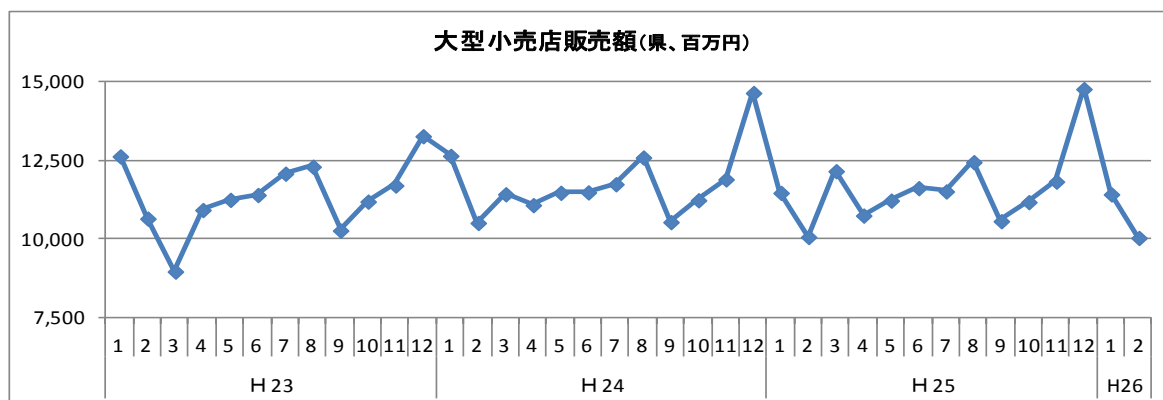
3 なりわいの再生-II 商工業

【商工業】

●大型小売店販売額（県）〔平成 26 年 2 月： **-0.3%**（前年同月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.2)	第6回 (H25.2)	第10回 (H26.2)	項目	第2回 (H24.2)	第6回 (H25.2)	第10回 (H26.2)	単位
-1.3%	-4.3%	-0.3%	前年同月比	10,518	10,070	10,040	百万円

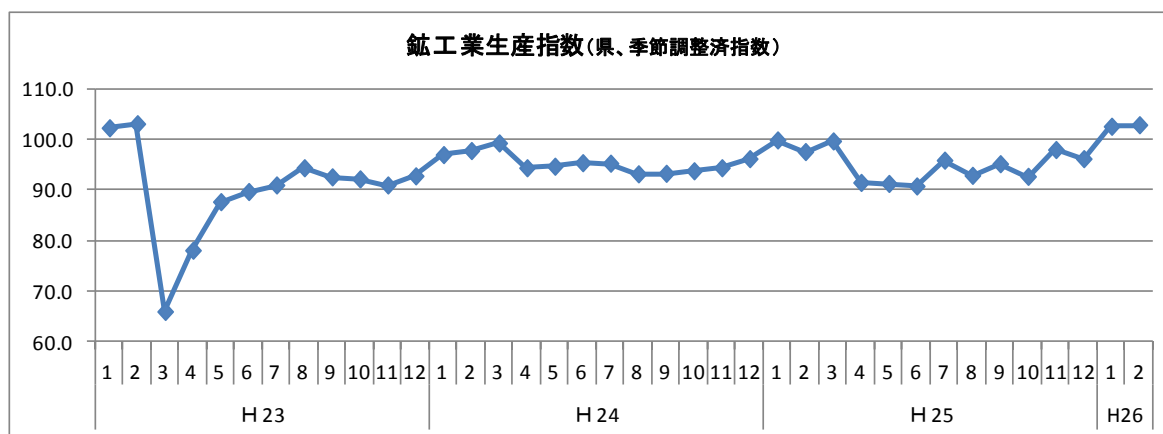
平成 26 年 2 月における県全体の大型小売店販売額は 10,040 百万円であり、前年同月比で 0.3%減となった。また、既存店ベースでの前年同月比は平成 25 年 4 月～平成 26 年 2 月の 11 ヶ月連続して前年水準を下回っている（平成 26 年 2 月は前年同月比 1.1%減）。



●鉱工業生産指数（県）〔平成 26 年 2 月： **+5.4%**（前年同月比）〕

指標				データ			
第2回 (H24.2)	第6回 (H25.2)	第10回 (H26.2)	項目	第2回 (H24.2)	第6回 (H25.2)	第10回 (H26.2)	単位
+1.1%	-6.0%	+5.4%	前年同月比	99.4	93.4	98.4	—

平成 26 年 2 月における県全体の鉱工業生産指数（原指数）は前年同月比 5.4%増の 98.4 となった。また、季節調整済指数は 102.8（前月比 0.3%増）となり、電子部品・デバイス工業、食料品工業などが押し上げる形となっている。



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇被災した商工業者の事業の再開

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.50、進捗への実感は 2.47、復興促進ニーズ度は 2.03 となっており、順位も昨年と同程度の 14 位となっている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.50	4.55	4.63	2.47	2.21	2.09	2.03 (14)	2.34 (15)	2.53 (15)
沿岸部	4.45	4.51	4.61	2.64	2.42	2.28	1.81 (15)	2.09 (15)	2.33 (17)
沿岸北部	4.46	4.55	4.54	2.85	2.49	2.47	1.61 (15)	2.06 (12)	2.07 (21)
沿岸南部	4.44	4.49	4.64	2.57	2.39	2.22	1.88 (16)	2.10 (16)	2.42 (17)
内陸部	4.51	4.56	4.63	2.42	2.16	2.04	2.09 (14)	2.40 (15)	2.59 (11)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した商店街の再開、新たな商店街の整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.51、進捗への実感は 2.30 となっている。復興促進ニーズ度は 2.21 と減少したが、順位は昨年の 13 位から 7 位と上昇を続けている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.51	4.56	4.62	2.30	2.11	2.13	2.21 (7)	2.45 (13)	2.49 (17)
沿岸部	4.50	4.51	4.60	2.40	2.30	2.36	2.10 (8)	2.21 (13)	2.25 (21)
沿岸北部	4.46	4.49	4.57	2.62	2.42	2.46	1.85 (6)	2.08 (11)	2.11 (19)
沿岸南部	4.51	4.52	4.62	2.33	2.26	2.32	2.18 (8)	2.26 (14)	2.30 (20)
内陸部	4.51	4.57	4.63	2.27	2.06	2.07	2.24 (8)	2.51 (12)	2.56 (13)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇ものづくり産業（製造業）の集積、新産業の創出

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.38、進捗への実感は 2.46 となっている。復興促進ニーズ度は 1.92 で、順位は 15 位に上昇している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.38	4.46	4.50	2.46	2.25	2.14	1.92 (15)	2.22 (19)	2.36 (20)
沿岸部	4.39	4.45	4.53	2.44	2.25	2.05	1.95 (11)	2.20 (14)	2.48 (13)
沿岸北部	4.38	4.42	4.39	2.58	2.38	2.19	1.79 (8)	2.04 (15)	2.20 (15)
沿岸南部	4.40	4.46	4.59	2.39	2.19	2.00	2.01 (11)	2.27 (13)	2.59 (12)
内陸部	4.38	4.47	4.49	2.47	2.25	2.16	1.91 (17)	2.22 (22)	2.33 (20)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った29項目の中で数値が高い順位。

III 観光

3 なりわいの再生

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

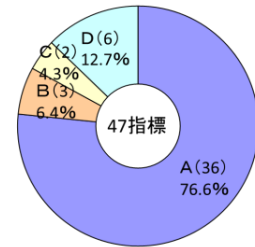
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 83.0%（39指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 17.0%（8指標）

実質的遅れ 2.1%（1指標）

【対第1期末目標】



取組項目

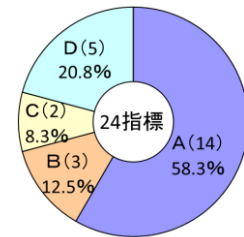
取組項目① 観光資源の再生と新たな魅力の創造

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 70.8%（17指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 29.2%（7指標）

実質的遅れ 0.0%（0指標）

【対第1期末目標】



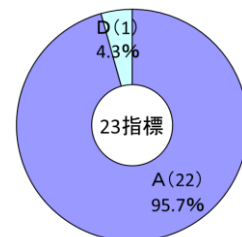
取組項目② 復興の動きと連動した全県的な誘客への取組

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 95.7%（22指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 4.3%（1指標）

実質的遅れ 4.3%（1指標）

【対第1期末目標】



復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年5月）〔平成26年5月26日〕

いわて希望の旅誘客促進事業（県内主要観光地（14ヶ所）における観光客入込状況）

期 間	入込客数
平成25年4月～平成26年3月	528.5万人回
平成24年4月～平成25年3月	540.6万人回
平成23年4月～平成24年3月	446.3万人回
対前年比※	97.7%
対前々年比※	118.4%

※「万人回」ではなく「人回」単位で算出した比率

(H26.3.31 現在)

【H26年度における主要な観光イベント等】

- ・いわて三陸観光応援バスツアーの運行(4/5～9/30の土日祝日等。一部11/30まで。)
- ・三陸鉄道全線運行再開観光プロモーション(4/5釜石市、4/6宮古市)
- ・「SL銀河」運行開始観光プロモーション(4/12～13、花巻市、遠野市、釜石市)
- ・「さあ、県営名古屋空港から出かけよう！」(4/19～20、名古屋市)
- ・東京ドーム東北プロモーション(楽天VS西武)(4/24、東京都)
- ・銀座柳まつり(5/5、東京都)
- ・三陸復興国立公園を活用した観光PR（5/24、宮古市）



銀座柳まつり(東京都)

震災メモリアルパーク中の浜
開園記念式典(宮古市)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

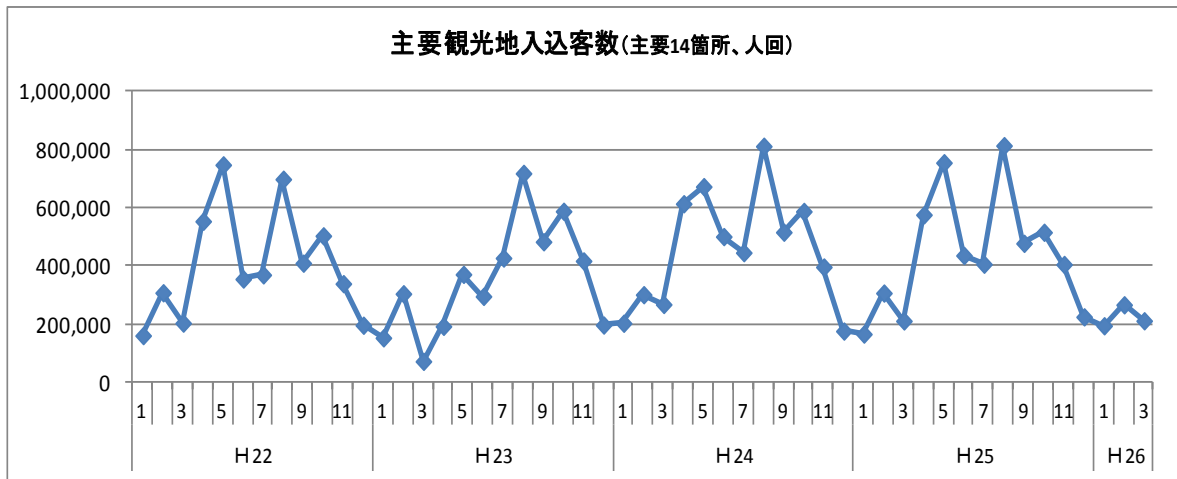
いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【観光】

●主要観光地入込客数（県）〔平成26年1月～3月： -1.6%（前年同期間比）〕

指標				データ			
第2回 (H24. 1-3)	第6回 (H25. 1-3)	第10回 (H26. 1-3)	項目	第2回 (H24. 1-3)	第6回 (H25. 1-3)	第10回 (H26. 1-3)	単位
+45.9%	-11.4%	-1.6%	前年同期間比	771,892	683,529	672,306	人回

平成26年第1四半期（平成26年1月～3月）における県内の主要観光地入込客数は672,306人回であり、前年同期間比で1.6%減となった。



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇観光客の回復・増加

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.23、進捗への実感は 2.79 となっている。復興促進ニーズ度は 1.44 に減少、順位は昨年と同程度で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.23	4.33	4.29	2.79	2.36	2.27	1.44 (26)	1.97 (24)	2.01 (24)
沿岸部	4.17	4.22	4.23	2.68	2.26	1.94	1.49 (23)	1.96 (20)	2.29 (19)
沿岸北部	4.27	4.30	4.27	3.23	2.43	2.09	1.04 (25)	1.87 (20)	2.17 (16)
沿岸南部	4.12	4.19	4.21	2.45	2.19	1.87	1.67 (21)	2.00 (19)	2.34 (19)
内陸部	4.24	4.35	4.30	2.82	2.38	2.35	1.43 (27)	1.97 (24)	1.95 (24)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇被災した観光施設の復旧

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.38、進捗への実感は 2.49 となっている。復興促進ニーズ度は 1.90 となっており、順位も昨年と同程度で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.38	4.42	4.41	2.49	2.14	2.02	1.90 (18)	2.27 (17)	2.38 (19)
沿岸部	4.30	4.32	4.33	2.57	2.24	2.06	1.73 (17)	2.08 (16)	2.26 (20)
沿岸北部	4.40	4.46	4.40	2.86	2.42	2.16	1.53 (17)	2.04 (14)	2.24 (11)
沿岸南部	4.27	4.26	4.30	2.46	2.16	2.02	1.80 (18)	2.10 (17)	2.28 (21)
内陸部	4.40	4.44	4.43	2.46	2.12	2.02	1.94 (16)	2.32 (17)	2.42 (19)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

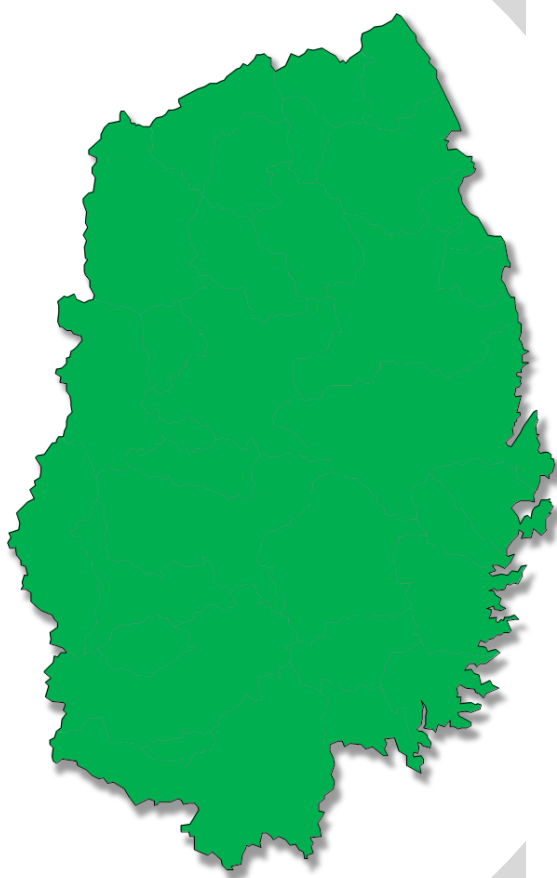
復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。





第3章

各種指標の状況

1 人口の状況

岩手県毎月人口推計〔政策地域部調査統計課公表資料〕

○沿岸12市町村の総人口については250,227人(平成26年4月1日)と震災前(平成23年3月1日)と比較すると、37ヶ月で、22,710人(8.3%)の減少となっている。

○人口減少の大きい市町村は次のとおりとなっている。

- | | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| ① 陸前高田市(-3,840人) | ② 釜石市(-3,541人) | ③ 大槌町(-3,457人) |
| ④ 宮古市(-3,286人) | ⑤ 山田町(-2,544人) | ⑥ 大船渡市(-2,206人) |

○人口増減率の大きい市町村は次のとおりとなっている。

- | | | |
|---------------|-----------------|---------------|
| ① 大槌町(-22.7%) | ② 陸前高田市(-16.5%) | ③ 山田町(-13.7%) |
| ④ 釜石市(-9.0%) | ⑤ 岩泉町(-7.5%) | ⑥ 野田村(-7.4%) |

* 沿岸12市町村の人口増減率は、震災前3か年の平均で-1.5%であった。

震災直後の平成23年4月～平成24年3月(平成23年度)は-4.8%と大きく減少したものの、平成24年4月～平成25年3月(平成24年度)は-1.4%、直近の平成25年4月～平成26年3月(平成25年度)も-1.4%と、沿岸12市町村の人口の減少傾向は続いているものの、人口増減率は震災前の水準に戻っている。

(参考)市町村ごとの人口総数(沿岸、各月1日現在、人)

	平成23年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	震災以後の増減数(37ヶ月)	震災以後の増減率(37ヶ月)注1.	直近1年間の増減数(12ヶ月)	直近1年間の増減率(12ヶ月)注2.	震災前の増減率注3.	(参考)うち社会増減
	3月	4月	4月	4月	4月						
洋野町	17,775	17,683	17,395	17,148	16,742	-1,033	-5.8%	-406	-2.4%	-1.6%	-593
久慈市	36,789	36,684	36,202	35,922	35,544	-1,245	-3.4%	-378	-1.1%	-1.2%	-642
野田村	4,606	4,537	4,413	4,354	4,267	-339	-7.4%	-87	-2.0%	-1.4%	-188
普代村	3,065	3,044	2,994	2,967	2,933	-132	-4.3%	-34	-1.1%	-1.6%	-34
田野畑村	3,838	3,802	3,701	3,633	3,557	-281	-7.3%	-76	-2.1%	-1.9%	-129
岩泉町	10,708	10,636	10,416	10,198	9,902	-806	-7.5%	-296	-2.9%	-2.1%	-293
宮古市	59,229	58,746	57,484	56,565	55,943	-3,286	-5.5%	-622	-1.1%	-1.5%	-1,394
山田町	18,506	18,033	16,578	16,218	15,962	-2,544	-13.7%	-256	-1.6%	-1.4%	-1,258
大槌町	15,222	15,222	12,392	12,020	11,765	-3,457	-22.7%	-255	-2.1%	-1.4%	-1,833
釜石市	39,399	38,708	36,951	36,431	35,858	-3,541	-9.0%	-573	-1.6%	-1.8%	-1,328
大船渡市	40,579	40,006	38,874	38,638	38,373	-2,206	-5.4%	-265	-0.7%	-1.1%	-820
陸前高田市	23,221	23,221	19,849	19,570	19,381	-3,840	-16.5%	-189	-1.0%	-1.2%	-1,481
沿岸部	272,937	270,322	257,249	253,664	250,227	-22,710	-8.3%	-3,437	-1.4%	-1.5%	-9,993
内陸部	1,053,706	1,051,714	1,047,640	1,042,421	1,036,490	-17,216	-1.6%	-5,931	-0.6%	-0.7%	-1,904
県全体	1,326,643	1,322,036	1,304,889	1,296,085	1,286,717	-39,926	-3.0%	-9,368	-0.7%	-0.8%	-11,897

注1. 震災以後の増減率=平成23年3月から平成26年3月まで(震災以降の37ヶ月)の増減率

注2. 直近1年間の増減率=平成25年4月～平成26年3月まで(12ヶ月)の増減率

注3. 震災前の増減率=平成19年度(平成19年4月～平成20年3月)、平成20年度(平成20年4月～平成21年3月)及び平成21年度(平成21年4月～平成22年3月)の3ヶ年それぞれの増減率の平均

2 経済の状況

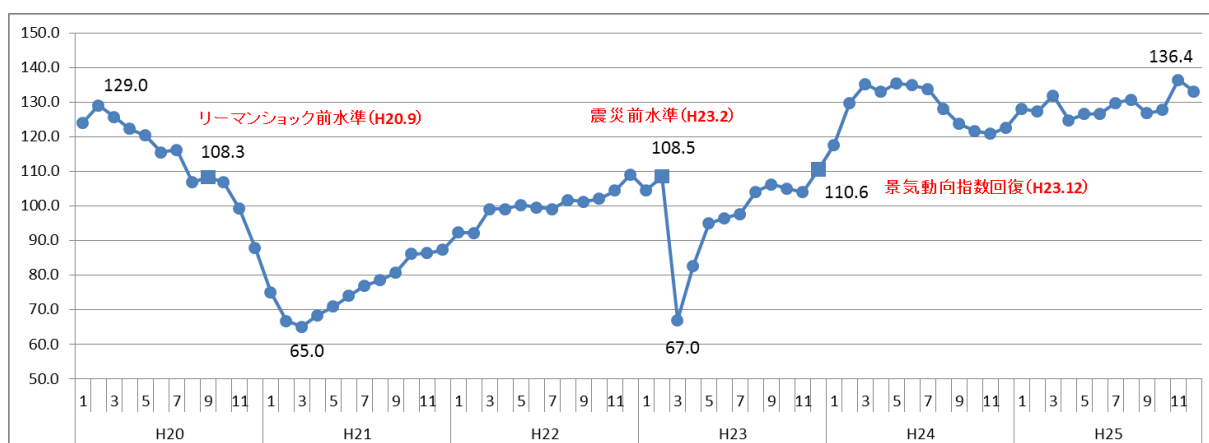
岩手県景気動向指数〔政策地域部調査統計課公表資料〕

- 平成 25 年 12 月の景気動向指数(CI一致指数、平成 22 年=100)は 133.1 となった。
- 震災のあった平成 23 年3月は 67.0 まで落ち込んだものの、その後は生産施設やサプライチェーンの回復等により県内陸部の生産活動が再開したことを受け、5月までに急激なV字回復を果たした。
- 平成 23 年6月以降は伸び悩みの状態がやや続いたものの、12 月には 110.6 と震災前水準(平成 23 年2月:108.5)や、いわゆるリーマンショック前水準(平成 20 年9月:108.3)を上回った
- 平成 24 年5月以降は落ち込みが見られたものの、120 を下回らない水準で推移、その後徐々に回復し、平成 25 年 11 月には 136.4 まで上昇、直近5年間で最も高い水準となった。

* 本県でリーマンショックの影響を受け始めたと考えられるのは平成 20 年 10 月であるため、平成 20 年9月をリーマンショック前水準とした。

景気動向指数（一致指数）の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H20	124.1	129.0	125.7	122.3	120.3	115.5	116.2	106.8	108.3	106.8	99.2	87.9
H21	75.1	66.7	65.0	68.4	70.9	74.0	77.0	78.5	80.8	86.1	86.3	87.3
H22	92.3	92.2	99.1	99.1	100.3	99.6	99.1	101.7	101.2	102.0	104.4	109.0
H23	104.5	108.5	67.0	82.6	94.9	96.5	97.6	104.1	106.2	105.0	103.9	110.6
H24	117.6	129.8	135.2	133.0	135.5	134.9	133.8	128.1	123.7	121.7	120.8	122.6
H25	128.1	127.3	131.9	124.8	126.6	126.7	129.8	130.7	126.8	127.7	136.4	133.1



3 被害の状況

人的被害・建物被害状況一覧〔総務部総合防災室公表資料〕

<平成 26 年 4 月 30 日現在>

	死者数(人)		行方不明者数(人)		負傷者数 (人)	家屋倒壊数 (棟)
		うち関連死		うち死亡届の 受理件数(件)		
陸前高田市	1,599	43	207	203	不明	4,045
大船渡市	417	77	79	75	不明	3,937
釜石市	989	101	152	151	不明	3,655
大槌町	853	50	429	427	不明	3,717
山田町	682	78	148	147	不明	3,167
宮古市	473	53	94	94	33	4,098
岩泉町	10	3	0	0	0	200
田野畑村	17	3	15	15	8	270
普代村	0	0	1	1	4	0
野田村	39	1	0	0	19	479
久慈市	3	1	2	2	10	278
洋野町	0	0	0	0	0	26
沿岸計	5,082	410	1,127	1,115	74	23,872
内陸計	31	31	5	4	136	1,834
総計	5,113	441	1,132	1,119	210	25,706

- * 死者数のうち、関連死(平成 26 年 3 月 31 日現在)については復興局調べ、その他は岩手県警調べ
- * 平成 23 年 4 月 7 日の余震の被害を含む
- * 家屋倒壊数は、全壊数及び半壊数の合計

最新の状況については、県ホームページで公表しています。
 (いわて防災情報ポータル：<http://www2.pref.iwate.jp/~bousai/>)

4 国内外からの支援の状況

皆様からのご支援〔秘書広報室広聴広報課公表資料〕

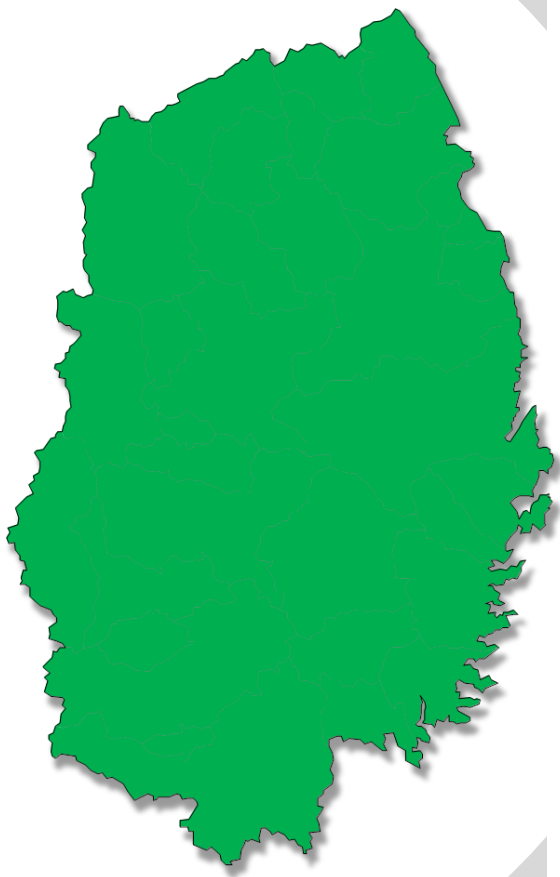
○震災直後から、たくさんの方から御支援をいただいています。ありがとうございます。

○こちらの掲載情報は、県で集めた情報のみを掲載しています。震災直後は混乱の中にあり、全体を集約した情報ではありません。この他にも、独自に被災地に物資を届けられた方、千羽鶴や応援メッセージなど、数え切れないたくさんの御支援いただいています。

また、企業・団体等についても、県として把握している範囲で掲載しておりますことをご了承願います。

項目	内容	時点
義援金	<p>【岩手県災害義援金募集委員会】 義援金額 178億 8,133万円</p> <p>【日本赤十字社本社、中央共同募金会から岩手県への配分状況】 義援金額 343億 8,822万円</p>	平成25年11月30日
寄附金	<p>件数 20,090件 寄附金額 263億 2,192万円</p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわての学び希望基金(孤児基金分) 件数: 13,287件 金額: 67億 6,230万円 ・孤児基金以外 件数: 6,803件 金額: 195億 5,962万円 	平成26年4月30日
無償義援物資	<p>【企業・団体等】 376団体 重機・自動車・船舶・水・食料・毛布、日用品、学用品等)</p>	平成26年4月30日
人的支援 (職員派遣等)	<p>【県内外の自治体・国】 県への派遣: 73団体(延べ155,352人日) 市町村への短期派遣: 38団体(延べ17,874人日) 市町村への中長期派遣: 671人 市町村教育委員会への派遣: 4団体(12人) 岩手県内に事務所を設置し継続支援: 3団体</p> <p>企業・団体等 企業等から県への派遣 22社(団体) 延べ3,323人日</p>	平成26年4月30日 (市町村への 中長期派遣は 平成26年5月1日)
ボランティア	災害ボランティアセンターを通じた活動者数 48万人以上	平成25年11月17日
文化・スポーツ・ 芸能関係の来県者	延べ1,928人(団体)	平成26年3月28日
その他 (仕分け・輸送・IT等)	県内外から 82社	平成25年4月30日
海外からのご支援	<p>お見舞い・表敬: 29カ国(42機関) 救援物資: 17カ国(24機関) 寄附金・義援金: 9カ国(25機関)</p>	平成25年4月30日





【参 考】

**復興実施計画(第1期)の
事業概要及び実績**

1-1 防災のまちづくり

55 事業(83 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	災害廃棄物緊急処理支援事業	県、市町村	廃棄物処理法の規定により市町村事務とされている一般廃棄物(災害廃棄物)の処理について、地方自治法の規定に基づく事務委託を受けた12市町村の当該事務を県が代行して実施 ・災害廃棄物の発生推計量(全体)525万トン	災害廃棄物の撤去	5,250,400	t	5,836,992	111.2%	A
				災害廃棄物の処理	5,250,400	t	5,836,992	111.2%	A
2	多重防災型まちづくり推進事業 ・多重防災型まちづくり計画策定支援事業	県	津波によって防潮堤等の海岸保全施設が破壊された地区を対象に、市町村に対して高潮・高波による浸水範囲等危険箇所の情報提供を実施。また、個別地域ごとの具体的な津波対策を検討し、海岸保全基本計画を策定 ・浸水想定マップ:12市町村 ・津波対策検討:53地区 ・海岸保全基本計画:53地区	高潮・高波浸水想定マップ提供市町村数	12	市町村	12	100.0%	A
				津波対策検討地区数	53	地区	53	100.0%	A
				海岸保全基本計画策定地区数	53	地区	53	100.0%	A
3	地域経営推進費事業	県、市町村	震災からの復旧・復興に係る事業で、広域振興局等が実施する産業振興、風評被害等に対応する事業を地域経営推進費事業として実施 ・4広域振興圏及び市町村を対象 ・200事業程度/年(全県)	産業振興・地域課題解決のための事業	1,340,000	千円	1,310,028	97.8%	B
4	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業(応急工事)	県	地震や津波により被災した海岸保全施設等について、高潮・高波による二次災害防止のため応急的な工事を実施 ・応急工事箇所:13箇所	堤防等の応急工事	4,455	m	4,455	100.0%	A
5	多重防災型まちづくり推進事業 ・復興まちづくり支援事業	県	復興まちづくりに取り組む団体等への支援として、住民等の要請に基づき、まちづくりや景観等に関する専門家やコンサルタントをアドバイザーとして派遣し、復興まちづくりを支援するとともに地元のまちづくりに係る人材を育成 ・12市町村	アドバイザーの派遣地区数	96	地区	1	1.0%	D
				コンサルタントの派遣地区数	48	地区	0	0.0%	D
6	情報通信基盤災害復旧事業(国→市町村)	市町村	情報通信基盤(FTTN等のブロードバンドサービス施設、公共施設間を結ぶ地域公共ネットワーク施設、第三セクターのケーブルテレビ施設等)の復旧に係る費用の補助(国→市町村)	被災した情報通信基盤の復旧	14	延べ市町村	14	100.0%	A
7	警察官緊急増員事業	県	被災地における良好な治安を確保するため、警察官を緊急増員し、パトロール機能の強化、交通の安全と円滑の確保、震災に乗じた犯罪の取締りの強化を推進	警察官増員数(延べ人数)	330	人	330	100.0%	A
8	警察情報管理システム整備事業	県	被災した沿岸免許センターの免許端末、警察署等で使用していたパソコン等の復旧整備 ・ネットワーク端末:25台、スタンドアロンパソコン:75台等	免許端末	1	式	1	100.0%	A
				パソコン	100	台	100	100.0%	A
				POT(携帯端末)	10	台	10	100.0%	A
9	警備船さんりく復旧事業	県	被災した警備船及び係留設備の復旧整備 ・警備船:1隻	新船への装備品載せ替え	1	式	1	100.0%	A
				流出装備品の新規調達	1	式	1	100.0%	A
				係留施設の応急整備	1	式	1	100.0%	A
10	新通信指令システム整備事業	県	被災した警察署等の110番通信指令端末装置等の復旧整備 ・110番指令端末装置:3組5台 ・カーロケータ装置:2台	端末装置	5	台	5	100.0%	A
				カーロケータ装置	2	台	2	100.0%	A
11	交通安全施設災害復旧事業	県	地震や津波の被害を受け損傷した信号機等交通安全施設の復旧整備 ・端末制御下位装置:1式 ・信号機:151基 ・標識:3,101箇所 ・標示:453箇所	信号機	151	基	119	78.8%	C
				標識	3,101	箇所	1,148	37.0%	D
				標示	453	箇所	341	75.3%	C
12	広域振興事業	県	震災からの復旧・復興に係る事業で、広域振興局が実施する広域振興圏単位の課題を解決するための先駆的事業を広域振興事業として実施 ・4広域振興圏を対象 ・3~5事業程度/年	広域圏の産業振興	683,229	千円	672,956	98.5%	B
13	原発放射線影響対策事業	県、市町村、関係団体等	放射性物質に係る安全対策と風評被害を払拭するための取組を推進 ・学校、保育所等における放射線量測定の実施と情報提供等 ・保健所における健康相談等の実施 ・県産農林水産物、食品、工業製品等の放射性物質の測定調査等の実施 ・輸出品に関する証明書等発行の円滑な処理 ・風評被害防止のための県内外への情報発信	学校等の放射線量測定・除染	33	市町村	33	100.0%	A
				県産農林水産物検査計画作成回数	11	回	11	100.0%	A

事業概要及び実績(1-1 防災のまちづくり)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
14	環境放射能水準調査事業	県	原子力発電所事故に伴い、県内の環境放射線に関する監視を行うとともに、専門家等によるセミナー開催など普及啓発を実施	モニタリングポスト増設	9	台	9	100.0%	A
				ゲルマニウム半導体検出器増設	2	台	2	100.0%	A
				一般県民、県市町村職員、教職員向けセミナー開催	52	回	52	100.0%	A
15	放射性物質除去・低減技術実証事業	県	県内における放射性物質の除去・低減措置推進に資するため、県内で活用しうる技術の実証試験を実施	実証試験等の実施	15	技術	14	93.3%	B
16	除染廃棄物処理円滑化事業	県、市町村	原子力発電所事故由来の放射性物質に汚染された除染廃棄物（道路側溝汚泥等）の処理を促進するため、市町村がコンクリート構造物などの一時保管場所を設置する経費を支援	支援市町村数	2	市町村	1	50.0%	D
17	学校施設災害復旧事業	県	児童生徒の教育環境の正常化を図るため、地震・津波によって被害を受けた県立学校施設等の災害復旧を実施 【被害を受けた学校数】 ・中学校 1校 ・高等学校 60校 ・特別支援学校12校 計 73校	県立学校施設の災害復旧	72	校	72	100.0%	A
18	県立高田高等学校災害復旧事業	県	東日本大震災津波により甚大な被害を受けた高田高等学校の新築整備	新築整備		校	-	-	-
19	県立学校施設防災機能強化事業	県	災害発生時に地域住民の応急避難場所としての役割を果たすため、県立学校施設の耐震化と防災機能の強化を推進	学校施設の防災機能強化	4	校	3	75.0%	C
20	私立学校等災害復旧支援事業	私立学校	被災した私立学校等の施設災害復旧費用の一部を助成 【被害を受けた学校等数】 ・幼稚園 24園 ・中学校 1校 ・高等学校 9校 ・専修学校 3校 計 37園・校	私立学校等施設の災害復旧	36	校	36	100.0%	A
21	警察施設災害復旧事業	県	被災した警察施設の応急措置等及び再建整備 ・妻繕施設：86箇所 ・仮設庁舎設置：6棟 ・仮庁舎借り上げ：2箇所 ・捨得物保管庫借り上げ：19棟 ・再建整備 警察署等：18棟、宿舍：34戸	被害施設の修繕	86	施設	86	100.0%	A
				仮設庁舎設置	6	棟	6	100.0%	A
22	運転免許試験場等運営事業	県	沿岸運転免許センター仮設庁舎への運転者管理システム等、運転免許関係機器の導入	免許関係機器	1	式	1	100.0%	A
23	被災市町村行政機能支援事業 ・市町村行政機能応急復旧	市町村	本庁舎に壊滅的な被害を受けた市町村等の行政機能の応急の復旧のために必要な仮庁舎の建設や、行政情報システムの復旧等のための補助 (国→市町村：宮古市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、大槌町、山田町、岩泉町、野田村 9市町村)	本庁舎応急復旧	9	市町村	9	100.0%	A
				情報システム応急復旧	5	市町村	5	100.0%	A
24	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業	県	東日本大震災で被災を受けた県が管理する道路等の公共土木施設（大規模災害に係る海岸保全施設等を除く）の復旧・整備 ・603箇所	災害復旧事業着工箇所	603	箇所	572	94.9%	B
25	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業（直轄）	国	東日本大震災で被災を受けた国が管理する道路等の公共土木施設の復旧・整備 ・国道45号、一級河川北上川ほか	災害復旧事業着工箇所	127	箇所	127	100.0%	A
26	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業（代行）	県	東日本大震災で被災を受けた市町村が管理する道路等の公共土木施設の県代行による復旧・整備 ・2市町 5箇所	災害復旧事業着工箇所	5	箇所	4	80.0%	B
27	多重防災型まちづくり推進事業 ・海岸保全施設等整備事業	県	津波によって破壊された防潮堤等の海岸保全施設の復旧を図るとともに、市町村の復興まちづくりと一体となった防潮堤の高上げや水門の整備等を実施 ・まちづくりと一体となった防潮堤の復旧・高上げ工事等	水門等着手箇所数	112	箇所	113	100.9%	A
				防潮堤等完成延長	12.5	km	4.5	36.0%	D
28	木造住宅総合耐震支援事業	県、市町村	木造住宅の耐震化を促進するための木造住宅の耐震診断、耐震改修に対する支援や相談員の派遣の実施	耐震診断実施戸数	2,610	戸	1,141	43.7%	D
				耐震改修実施戸数	328	戸	135	41.2%	D

事業概要及び実績(1-1 防災のまちづくり)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
29	災害に強いライフライン整備事業 ・汚水処理施設整備事業	市町村	津波被害のあった市町村の汚水処理施設の復旧や、再度災害防止などの復興を行う市町村の汚水処理施設整備事業に対する補助 ・下水処理場：7施設 ・公共下水道：4地区 ・農業集落排水施設：3地区	下水処理施設の復旧完了施設数	7	施設	7	100.0%	A
				公共下水道施設の復興完了地区数		地区	0	-	-
				農業集落排水施設の復旧・復興完了地区数	3	地区	3	100.0%	A
30	県広報事業（ホームページ改修）	県	非常時に災害情報を的確に伝達するため、県公式HPのシステムを改修	HPの改修	1	式	1	100.0%	A
31	三陸鉄道災害復旧事業	国、県、市町村	甚大な被害を受けた三陸鉄道の復旧に係る費用について、国庫補助制度を活用し、三陸鉄道㈱に対し補助金を交付 ・不通区間の復旧：北リアス線陸中野田一小本、南リアス線全線	復旧延長(H23～H25)	82.1	km	82	100.0%	A
32	多重防災型まちづくり推進事業 ・緊急避難路整備事業	県	防潮堤等の海岸保全施設や急傾斜地崩壊対策施設等への避難路の整備を実施 ・12市町村	避難路(海岸保全施設)着手箇所数	6	箇所	0	0.0%	D
				急傾斜施設に係る緊急避難路の整備着手箇所数	3	箇所	3	100.0%	A
33	自主防災組織等活動促進事業(地域防災力強化プロジェクト事業)	県、市町村	各地域において、自主防災組織(町内会、事業所等)などが行う避難訓練、防災教育の活動を促進 ・沿岸12市町村の自主防災組織	避難訓練実施回数	120	回	312	260.0%	A
				防災教育実施回数	120	回	717	597.5%	A
				避難用具整備箇所数	120	箇所	229	190.8%	A
34	湾口防波堤等整備事業	国	津波によって倒壊した湾口防波堤の早期復旧を図るとともに、現在整備中の湾口防波堤等の整備を促進 ・湾口防波堤の復旧：2箇所(釜石港、大船渡港) 延長：2,180m ・湾口防波堤等の整備：2箇所(久慈港、宮古港)	湾口防波堤の復旧延長割合(釜石港・大船渡港)	21	%	25	119.0%	A
35	多重防災型まちづくり推進事業 ・津波水門等電動・遠隔化促進事業	県	津波水門等の操作員の安全確保、水門閉鎖時間の短縮のため、水門等の電動化・遠隔化を実施 ・12市町村	水門等の電動化・遠隔化着手数	112	箇所	113	100.9%	A
36	多重防災型まちづくり推進事業 ・まちづくり連携道路整備事業	県	道路機能の向上を図るため、津波により浸水した道路について、市町村の復興まちづくりと一体となった整備を実施 ・12市町村	まちづくり連携道路整備事業の整備着手箇所	33	箇所	35	106.1%	A
37	多重防災型まちづくり推進事業 ・防災型シンボルロード整備事業	県	災害時には避難路や避難場所としての機能を有し、火災等の延焼の防止や、ライフラインの地下への収納等復興まちづくりのシンボルとなる災害に強い街路を整備 ・5市町	防災型シンボルロード整備事業の着手箇所	11	箇所	1	9.1%	D
38	多重防災型まちづくり推進事業 ・公共団地区画整理事業	市町村	被災市町村が実施する復興まちづくりのための土地区画整理事業に対して、土地区画整理事業区域内の県道の整備に係る経費の一部を補助 ・8市町村	事業認可箇所数	9	箇所	0	0.0%	D
39	土砂災害対策施設整備事業	県	市町村の復興まちづくり計画等に基づき集団移転した住居等を土砂災害から保全 ・12市町村	砂防等施設整備着手数	3	箇所	1	33.3%	D
40	広域防災拠点整備事業	国、県、市町村	災害時において、物資受入・集配、応急要員の集結・宿泊、被災者用物資・資機材の備蓄、広域医療搬送等の機能を有する広域的な防災拠点の整備	委員会開催回数	10	回	10	100.0%	A
				構想策定	1	式	1	100.0%	A
				整備計画策定	1	式	1	100.0%	A
41	防災行政情報通信ネットワーク整備事業	県	被災した衛星通信装置の復旧及びこれに対応した県庁局の改修並びに既設局の更新整備 ・復旧：県庁1、関係機関9局 ・更新整備：関係機関9局	親局復旧数	1	局	1	100.0%	A
				子局復旧・整備数	99	局	99	100.0%	A
42	消防救急無線デジタル化事業	県、市町村(一部事務組合等)	電波法の改正に伴い、消防救急無線についてデジタル方式に移行整備	基本設計完了	1	式	1	100.0%	A
				実施設計完了	1	式	1	100.0%	A
43	多重防災型まちづくり推進事業 ・防災文化醸成事業	県、市町村	震災の経験や教訓を後世に語り継ぎ、防災意識の向上や、避難行動を促す取組を「防災文化」として醸成し継承していくため、小学校等での津波防災に関する出前講座等を実施	出前講座実施回数	29	回	41	141.4%	A
44	津波防災伝承事業(地域防災力強化プロジェクト事業)	県	東日本大震災津波に関する映像及び写真等資料を収集し、津波防災教育用教材を作成するとともに、学校における津波防災教育のリーダーを育成	教材制作	1	式	2	200.0%	A
				講習会開催回数	6	回	3	50.0%	D
				モデル授業開催回数	6	回	0	0.0%	D

事業概要及び実績(1-1 防災のまちづくり)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
45	クリーンエネルギー導入支援事業	市町村、公共的団体等	市町村等が行う地域内の公共施設等への小規模なクリーンエネルギー設備の導入を支援	沿岸地域への支援		箇所	11	-	-
46	防災拠点等再生可能エネルギー導入事業	県、市町村	非常時においても一定のエネルギーを賄えるシステムの構築に向けて、県や市町村の庁舎、民間を含めた医療施設、福祉施設、学校等に対し、再生可能エネルギー設備の導入を推進	市町村への補助施設数	238	箇所	151	63.4%	C
47	戦略的再生可能エネルギー推進事業	県	再生可能エネルギーの導入拡大に取り組むため、次の事業を実施 ・ポータルサイトの整備 ・地域別セミナー・企画展の開催 ・導入マップの作成 ・地熱開発に係る地表調査の実施	ポータルサイトの整備	1	式	1	100.0%	A
48	地域防犯活動促進事業	県	被災地域におけるコミュニティ復興を促進し、犯罪や交通事故のない社会づくりへの住民の自主的な取組を支援	被災地における防犯座談会の実施	304	回	446	146.7%	A
49	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業（再掲）	県	東日本大震災で被災を受けた県が管理する道路等の公共土木施設（大規模災害に係る海岸保全施設等を除く）の復旧・整備 ・603箇所	災害復旧事業着工箇所	603	箇所	572	94.9%	B
50	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業（直轄）（再掲）	国	東日本大震災で被災を受けた国が管理する道路等の公共土木施設の復旧・整備 ・国道45号、一級河川北上川ほか	災害復旧事業着工箇所	127	箇所	127	100.0%	A
51	災害に強いライフライン整備事業 ・汚水処理施設整備事業（再掲）	市町村	津波被害のあった市町村の汚水処理施設の復旧や、再度災害防止などの復興を行う市町村の汚水処理施設整備事業に対する補助 ・下水処理場：7施設 ・公共下水道：4地区 ・農業集落排水施設：3地区	下水処理施設の復旧完了施設数	7	施設	7	100.0%	A
				公共下水道施設の復興完了地区数		地区	0	-	-
				農業集落排水施設の復旧・復興完了地区数	3	地区	3	100.0%	A
52	ひとにやさしいまちづくり推進事業	県	各市町村の各種計画やまちづくりの中にユニバーサルデザインの考え方を取り入れていくことができるよう、市町村職員や地域住民を中心に条例の理念や公共手続きの周知徹底を図り、ひとにやさしいまちづくりを推進	研修会の開催	8	回	8	100.0%	A
53	多重防災型まちづくり推進事業 ・復興まちづくり支援事業（再掲）	県	復興まちづくりに取り組む団体等への支援として、住民等の要請に基づき、まちづくりや景観等に関する専門家やコンサルタントをアドバイザーとして派遣し、復興まちづくりを支援するとともに地元のまちづくりに係る人材を育成 ・12市町村	アドバイザーの派遣地区数	96	地区	1	1.0%	D
				コンサルタントの派遣地区数	48	地区	0	0.0%	D
54	多重防災型まちづくり推進事業 ・防災文化醸成事業（再掲）	県、市町村	震災の経験や教訓を後世に語り継ぎ、防災意識の向上や、避難行動を促す取組を「防災文化」として醸成し継承していくため、小学校等での津波防災に関する出前講座等を実施	出前講座実施回数	29	回	41	141.4%	A
55	メモリアル公園等整備事業	国、県、市町村	震災の記憶を未来に語り継ぎ、復興まちづくりと一体となって犠牲者の追悼や地域の防災拠点としての機能を兼ね備えたメモリアル公園等を整備	メモリアル公園整備事業の着手箇所	1	箇所	0	0.0%	D

1-Ⅱ 交通ネットワーク

19 事業(22 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業	県	東日本大震災で被災を受けた県が管理する道路等の公共土木施設(大規模災害に係る海岸保全施設等を除く)の復旧・整備 ・603箇所	災害復旧事業着工箇所	603	箇所	572	94.9%	B
2	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業(直轄)	国	東日本大震災で被災を受けた国が管理する道路等の公共土木施設の復旧・整備 ・国道45号、一級河川北上川ほか	災害復旧事業着工箇所	127	箇所	127	100.0%	A
3	東日本大震災社会資本復旧事業 ・港湾災害復旧事業	県	津波により被災した航路や泊地の応急的な啓開作業、倒壊した防波堤や沈下した岸壁の復旧等による港湾の機能回復(臨港道路等のまちづくりに係る施設を除く) ・対象港湾:6港(久慈港、宮古港、釜石港、大船渡港、八木港、小本港)	港湾機能の復旧完了	6	港	2	33.3%	D
4	東日本大震災社会資本復旧事業 ・河川等災害復旧事業(代行)	県	東日本大震災で被災を受けた市町村が管理する道路等の公共土木施設の県代行による復旧整備 ・2市町 5箇所	災害復旧事業着工箇所	5	箇所	4	80.0%	B
5	湾口防波堤等整備事業	国	津波によって倒壊した湾口防波堤の早期復旧を図るとともに、現在整備中の湾口防波堤等の整備を促進 ・湾口防波堤の復旧:2箇所(釜石港、大船渡港)延長:2,180m ・湾口防波堤等の整備:2箇所(久慈港、宮古港)	湾口防波堤の復旧延長割合(釜石港・大船渡港)	21	%	25	119.0%	A
6	三陸復興道路整備事業 ・復興道路整備事業(直轄)	国	復興道路として、三陸沿岸地域の縦貫軸と内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等の整備を促進 【対象路線】 ○縦貫軸 ・三陸縦貫自動車道 ・三陸北縦貫道路 ・八戸・久慈自動車道 ○横断軸 ・東北横断自動車道釜石秋田線 ・宮古盛岡横断道路(国道106号)	復興道路の事業中箇所の供用延長(直轄)	36.5	km	36.5	100.0%	A
7	三陸復興道路整備事業 ・復興道路整備事業(改築)	県	復興道路として、内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等の整備を推進 【対象路線】 ・宮古盛岡横断道路(国道106号)	復興道路の事業中箇所の供用延長(改築)	6.7	km	6.7	100.0%	A
8	三陸復興道路整備事業 ・復興道路整備事業(災害防除)	県	復興道路として、内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等について、落石対策等の道路防災対策を実施 【対象路線】 ・宮古盛岡横断道路(国道106号)	道路法面対策完了箇所	4	箇所	4	100.0%	A
9	三陸復興道路整備事業 ・復興道路整備事業(橋梁耐震化等)	県	復興道路として、内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等について、橋梁の耐震化や補修等を実施 【対象路線】 ・宮古盛岡横断道路(国道106号)	橋梁の補修完了	8	橋	7	87.5%	B
				橋梁の耐震補強完了	1	橋	0	0.0%	D
10	三陸復興道路整備事業 ・復興支援道路整備事業(災害防除)	県	復興支援道路として、内陸部から沿岸各都市等にアクセスする道路及び横断軸間を南北に連絡する道路、インターチェンジにアクセスする道路について、落石対策等の道路防災対策を実施 【対象路線】 ・内陸部から沿岸各都市等にアクセスする道路:12路線 ・横断軸間を南北に連絡する道路:2路線	道路法面対策完了箇所	9	箇所	9	100.0%	A
11	三陸復興道路整備事業 ・復興支援道路整備事業(橋梁耐震化等)	県	復興支援道路として、内陸部から沿岸各都市等にアクセスする道路及び横断軸間を南北に連絡する道路、インターチェンジにアクセスする道路について、橋梁の耐震化や補修等を実施 【対象路線】 ・内陸部から沿岸各都市等にアクセスする道路:12路線 ・横断軸間を南北に連絡する道路:2路線	橋梁の補修完了	53	橋	53	100.0%	A
				橋梁の耐震補強完了	16	橋	7	43.8%	D
12	三陸復興道路整備事業 ・復興関連道路整備事業(災害防除)	県	復興関連道路として、防災拠点(役場、消防等)や医療拠点(二次・三次救急医療施設)へアクセスする道路及び水産業の復興を支援する道路について、落石対策等の道路防災対策を実施 【対象路線】 ・防災・医療拠点へのアクセス道路:8路線 ・水産業の復興を支援する道路:14路線	道路法面対策完了箇所	27	箇所	27	100.0%	A
13	三陸復興道路整備事業 ・復興関連道路整備事業(橋梁耐震化等)	県	復興関連道路として、防災拠点(役場、消防等)や医療拠点(二次・三次救急医療施設)へアクセスする道路及び水産業の復興を支援する道路について、橋梁の耐震化や補修等を実施 【対象路線】 ・防災・医療拠点へのアクセス道路:8路線 ・水産業の復興を支援する道路:14路線	橋梁の耐震補強完了	2	橋	1	50.0%	D

事業概要及び実績(1-II 交通ネットワーク)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
14	道の駅防災機能強化推進事業	県	災害時の道の駅の機能を確保するため、機能強化を推進 ・県管理道路沿線の道の駅：20箇所	道の駅の機能強化着手箇所	20	箇所	20	100.0%	A
15	三陸鉄道災害復旧事業	国、県、市町村	甚大な被害を受けた三陸鉄道の復旧に係る費用について、国庫補助制度を活用し、三陸鉄道株に対し補助金を交付 ・不通区間の復旧：北リアス線陸中野田ー小本、南リアス線全線	復旧延長(H23～H25)	82.1	km	82	100.0%	A
16	三陸復興道路整備事業 ・復興支援道路整備事業 (改築)	県	復興支援道路として、内陸部から沿岸各都市等にアクセスする道路及び横断軸間を南北に連絡する道路、インターチェンジにアクセスする道路について、交通支障箇所の改築等を実施 【対象路線】 ・内陸部から沿岸各都市等にアクセスする道路：12路線 ・横断軸間を南北に連絡する道路：2路線	復興支援道路の整備完了箇所	8	箇所	9	112.5%	A
17	三陸復興道路整備事業 ・復興関連道路整備事業 (改築)	県	復興関連道路として、防災拠点（役場、消防等）や医療拠点（二次、三次救急医療施設）へアクセスする道路及び水産業の復興を支援する道路について、交通支障箇所等の改築等を実施 【対象路線】 ・防災・医療拠点へのアクセス道路：8路線 ・水産業の復興を支援する道路：14路線	復興関連道路の整備完了箇所	6	箇所	4	66.7%	C
18	三陸復興道路整備事業 ・復興関連道路整備事業 (代行)	県	復興関連道路として、宮古市道北部環状線について、県が代行整備を実施 【対象路線】 ・防災拠点・医療拠点へのアクセス道路：宮古市道北部環状線	宮古市道北部環状線改良延長	933	m	1,395	149.5%	A
19	港湾施設機能強化事業	県	災害時等に緊急支援物資の取扱いや企業活動の再開を早急に行うため、耐震強化岸壁等の整備による機能拡充や港湾利用者が津波から安全に避難できる施設の整備を検討 ・港湾施設機能強化：4港（久慈港、宮古港、釜石港、大船渡港）	耐震強化岸壁の整備着手箇所	1	箇所	0	0.0%	D
				避難対策施設の整備着手箇所	4	港	0	0.0%	D

2-1 生活・雇用

38 事業(42 指標)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	被災者一時移送事業	県	厳しい生活環境下にいる被災者の生活環境の改善を図るため、被災者を内陸部の宿泊施設に一時移動	移動者		人	2,032	-	-
2	被災者台帳システム整備及び運用支援事業	県、市町村	市町村における被災者生活再建支援が円滑かつ効率的に実施できるよう、被災者情報や各種支援の実施状況を共有するためのシステムを整備・運用 ・基礎データ収集・登録(県) ・付加的データ収集・登録(市町村)	システム導入市町村数		市町村	7	-	-
3	義援金の交付	県、市町村	一般から寄せられた義援金を被災者に交付	交付件数		件	96,216	-	-
4	被災者生活再建支援金の支給	県	災害により住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対して支援金を支給	基礎支援金支給件数		件	23,155	-	-
				加算支援金支給件数		件	7,906	-	-
5	災害援護資金貸付金	県、市町村	災害救助法による救助が行われた災害により被害を受けた世帯主に対し、生活の立て直しに資するための資金を貸付	貸付件数		件	861	-	-
6	多文化共生いわてづくり事業	岩手県国際交流協会	外国人県民等被災者の生活支援事業を行う岩手県国際交流協会に対する補助 ・ラジオを活用した情報提供 ・多言語サポーター派遣事業(被災12市町村) ・多言語による地域巡回相談(被災12市町村)	ラジオ放送回数		回	8	-	-
				多言語サポーター派遣回数	20	回	4	20.0%	D
				地域巡回相談回数	72	回	30	41.7%	D
7	応急仮設住宅整備事業	県	震災によって住宅を失った被災者の一時的な居住の安定を図るため、応急仮設住宅を供給 ・13,984戸	応急仮設住宅整備(着工ベース)	13,984	戸	13,984	100.0%	A
8	生活再建住宅支援事業・緊急住宅確保事業	県	県営住宅を仮設住宅、避難所として活用するための修繕等を実施 ・沿岸部: 9団地86戸 ・内陸部: 28団地150戸	沿岸部 9団地 改修	86	戸	86	100.0%	A
				内陸部 28団地 改修	150	戸	150	100.0%	A
				入居者の減免	78	人	78	100.0%	A
9	生活再建住宅支援事業・住まいに関する相談事業	県	被災者からの住宅に関する相談、問い合わせに対応するため、住宅相談専用ダイヤルを設置するとともに、現地で被災者の住宅再建に係る相談会等を実施	相談件数	2,000	件	2,006	100.3%	A
10	総合的被災者相談支援事業	県	久慈、宮古、釜石及び大船渡の各地区で総合的な被災者相談支援事業を展開 ・被災者支援者連携交流拠点機能 ・総合相談窓口機能 ・震災復興・生活再建情報発信機能 ・被災者一人ひとりの復興計画づくり支援	被災者相談支援センターの設置	4	箇所	4	100.0%	A
				相談件数			27,520	-	-
11	被災者支援情報提供事業	県	生活再建に向けた支援事業や相談窓口等を取りまとめたガイドブックの作成・配布及び支援事業や復興に関する情報発信を実施	ガイドブックの配布	198,000	冊	158,000	79.8%	C
12	生活再建住宅支援事業・被災住宅改修支援事業	市町村	被災者支援制度の対象要件から外れる被災住宅に対する改修費用の一部を補助する市町村に対する支援	補修・改修支援	5,962	戸	6,757	113.3%	A
13	生活再建住宅支援事業・被災宅地等復旧支援事業	県、市町村	地盤沈下や擁壁に倒壊等が発生している宅地に対して、復旧費用の一部を補助する市町村に対する支援 ・宅地のり面の保護、排水施設の設置、擁壁の復旧、宅地盛土復旧、地盤調査等の宅地復旧に係る経費補助	宅地復旧支援件数	1,000	件	1,142	114.2%	A
14	被災者住宅再建支援事業	県、市町村	県内で自宅が全壊(半壊解体含む。)した被災世帯に対し、県内での持ち家による住宅再建を支援する市町村の補助事業にその経費の一部を補助 [県補助限度額] ・複数世帯 66.6万円 ・単身世帯 50.0万円	補助金の支給	3,836	世帯	3,177	82.8%	B
15	域内交通支援事業	市町村	被災住民の移動手段確保のための無料バス運行に要する費用に対する補助 ・無料バス運行経費(H23.4月~6月) (宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、普代村、野田村 7市町村)	支援実施市町村数	7	市町村	3	42.9%	D
16	震災緊急生活交通確保事業	県	被災により県立病院が機能不全となった市町村について、県が広域生活路線バスを運行し、被災住民等の県立病院等への移動手段を確保 ・無料バス運行経費(H23.4月~7月) (大槌町内~県立釜石病院、陸前高田市内~県立大船渡病院)	実施路線数	3	路線	3	100.0%	A

事業概要及び実績(2-1 生活・雇用)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
17	民生委員(児童委員)活動事業	県、市町村、民生児童委員協議会	民生委員に対し、被災者支援に関する研修を行い、関係機関と連携した被災者の見守り活動を充実強化	民生児童委員協議会会長・副会長研修の実施	3	回	3	100.0%	A
18	災害復興公営住宅等整備事業	県、市町村、民間企業	東日本大震災津波により住宅を失った被災者の居住の安定を図るため、被災者用の恒久的な住宅を供給・安全で良質な災害復興公営住宅の整備を実施 ・民間事業者を活用した災害復興型地域優良賃貸住宅等の整備を促進 ・公的賃貸住宅団地における高齢者生活支援施設等の整備を促進	災害復興公営住宅整備(供給割合)	60	%	9.6	16.0%	D
				災害復興型地域優良賃貸住宅建設補助	500	戸	104	20.8%	D
				地域優良賃貸住宅(被災者入居型)建設補助	600	戸	100	16.7%	D
19	住宅復興支援事業・災害復興再建住宅建設促進事業	県	被災地域において、一定の省エネルギー性能を有し、県産材を一定量以上活用して住宅を再建する場合に、建設費の一部を補助	バリアフリー対応工事	1,080	戸	1,051	97.3%	B
				県産材使用工事	840	戸	430	51.2%	D
20	住宅復興支援事業・災害復興再建住宅融資利子補給事業	県	被災者の住宅復興の負担軽減を図るため、住宅への新たなローンの借入れをする者に対する既存の住宅ローンへの利子補給を実施。また、既存住宅の改修等を行う者に対する新たなローンへの利子補給を実施	新築補助	480	件	275	57.3%	D
				補修補助	1,209	件	301	24.9%	D
				既往債務補助	292	件	145	49.7%	D
21	雇用調整助成金や雇用保険等の給付	国、県	経営状況が落ち込んだ企業が従業員の休業等で解雇を食い止めた場合、国が手当の一定割合を助成する制度について、震災に伴う支給要件の緩和や失業給付等に係る特例があることから、制度の利用促進を図るための周知を実施	就業支援員による事業所訪問件数	10,342	件	10,837	104.8%	A
22	就業支援推進事業	県	就業支援員による、関係機関と連携した雇用・労働に関する地域課題や相談対応、企業訪問及び学校訪問をベースとした高校生の就職や若年者の職場定着支援 ・就業支援員：39名	就業支援員による学校訪問件数	7,306	件	6,772	92.7%	B
23	いわて求職者個別支援モデル事業	県	パーソナルサポーターが長期失業者本人の立場に立ち、個別的・継続的・制度横断的な支援を行うモデル事業を県内2カ所で行う(盛岡市及び奥州市) ・パーソナル・サポーター等：9人	利用者件数	9,086	件	21,410	235.6%	A
24	緊急スクールカウンセラー等(私立高等学校進路指導員)派遣事業	県	高卒新卒者の雇用情勢に鑑み、希望する私立高等学校に進路指導員を配置	配置学校数	4	校	4	100.0%	A
25	地域ジョブカフェ管理運営事業	県	地域における卒後未就職者等の若年者就業支援の拠点として、各地の課題と特徴を踏まえた支援地域の関係機関との連携を強化し、支援体制ネットワークを確立 ・宮古市、大船渡市ほか3市	利用者件数	16,759	件	18,282	109.1%	A
26	いわて求職者総合支援センター管理運営事業	県	住居の確保や各種生活支援策の利用などに係る生活相談や、将来の安定的な職業への就職に向けた就労相談等をハローワークが行う職業相談・職業紹介等の業務と一体的に実施 ・奥州市	就職者数	930	人	1,279	137.5%	A
27	緊急雇用創出事業臨時特例基金	県	緊急雇用創出事業を行う基金	新規雇用者数	17,609	人	24,224	137.6%	A
28	ジョブカフェいわて管理運営事業	県	若年者を対象としたきめ細かな就職相談を行うワンストップセンターとして設置された「ジョブカフェいわて」の運営 ・盛岡市	利用者件数	86,022	件	117,654	136.8%	A
29	市町村緊急雇用創出事業	市町村	市町村が行う失業者等の雇用及び就業の機会を緊急かつ臨時的に創出する事業に対する補助 ・H24新規雇用者数：4,000名	新規雇用者数	14,476	人	16,798	116.0%	A
30	市町村ふるさと雇用再生特別基金事業	市町村	市町村が行う地域の実情や創意工夫に基づき、地域求職者等を雇い入れて行う雇用機会を創出する事業に対する補助 ・H24新規雇用者数：100名	新規雇用者数	684	人	601	87.9%	B
31	臨時職員緊急雇用事業	県	被災失業者に対して、次の雇用までの短期の雇用・就業機会を創出・提供するため、県の臨時職員として任用 ・H24新規雇用者数：500名	新規雇用者数	1,094	人	1,152	105.3%	A
32	離職者等再就職訓練事業	県	災害復旧等の求人需要に対応するため、離職者等再就職訓練事業において、新たに特別訓練コースとして建設機械等操作資格を取得するコースを追加(宮古市、釜石市及び大船渡市) H24年度分 ・訓練コース：7コース ・訓練定員：125人予定	受講者数	212	人	141	66.5%	C

事業概要及び実績(2-1 生活・雇用)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
33	被災求職者等雇用・人材育成事業	県	被災した離職者等の雇用の場を早急に確保するため、離職者等と企業等とのマッチングや、企業等の人材ニーズに合わせた人材を育成 ・H24新規雇用者数：400名	新規雇用人数	858	人	1,024	119.3%	A
34	沿岸地域食品事業者復興支援事業	県	沿岸地域において、食品事業者等が行う新商品・サービスの開発や販路開拓等の取組を雇用面で支援 ・新規雇用人数：140名	雇用創出人数	70	人	52	74.3%	C
35	デュアルシステム型被災者等ものづくり技術習得支援事業	県	沿岸被災地の離職者等を県内企業が一時的に雇用し、職場実習や講義等を組み合わせ、被災者等の生活基盤の安定と被災企業の再建を担うものづくり技術者の育成等を支援 ・育成技術者数：20人	育成技術者数	20	人	24	120.0%	A
36	事業復興型雇用創出事業	県	将来的に被災地の雇用創出の中核となることが期待される事業所が、被災者を1年以上雇用する場合には、雇入れに係る費用に対する助成金を支給 ・雇用者数 15,000名	雇用者数	15,000	人	13,827	92.2%	B
37	職業訓練施設災害復旧整備事業 ・認定職業訓練施設災害復旧事業	市町村、職業訓練法人	被害を受けた認定職業能力開発施設を復旧するため、施設設置者である地元市及び訓練法人に対する補助 ・釜石市、大船渡市、陸前高田市ほか1市	認定職業訓練施設 施設整備(修繕)	3	校	3	100.0%	A
				認定職業訓練施設 設備整備(購入)	2	校	2	100.0%	A
38	職業訓練施設災害復旧整備事業 ・公共職業能力開発施設災害復旧事業	県	被害を受けた県立公共職業能力開発施設の復旧 ・産業技術短期大学校(矢巾町)及び千厩高等技術専門学校(一関市)	公共職業能力開発施設(災害復旧)	2	校	2	100.0%	A

2-II 保健・医療・福祉

63 事業(86 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	被災地医療確保対策事業	県、市町村、民間医療機関	仮設診療所（県立病院仮設診療所を含む）と仮設歯科診療所を設置するとともに、自院の修繕・機材の再取得等で再開可能な医療機関の支援により、医療提供体制を確保 ・被災地医療確保対策（仮設診療所） ・被災地医療確保対策（機能回復） ・国医療施設等災害復旧	仮設診療所の設置	33	箇所	33	100.0%	A
				診療機能回復施設数【完了済施設数】	50	施設	51	102.0%	A
				災害復旧医療施設数【完了済施設数】	53	施設	52	98.1%	B
2	医療施設耐震化促進事業	県	地震により建物が一部損傷した県立釜石病院について、施設の耐震補強工事を実施	県立釜石病院の耐震補強工事	1	一式	1	100.0%	A
3	被災県立病院整備事業	県	被災した県立高田病院、大槌病院、山田病院の移転整備を実施	病院設計に着手	3	施設	2	66.7%	C
				病院整備		施設	-	-	-
4	被災地医療施設復興支援事業	県、民間医療機関	被災した医療施設の移転整備を支援 ・被災地医療確保対策（早期移転） ・被災地医療施設復興支援	移転・新築医療施設数【完了済施設数】	34	施設	22	64.7%	C
5	地域支え合い体制づくり事業（仮設介護・福祉サービス拠点づくり事業）	市町村	仮設住宅地域において市町村が行う、高齢者等サポート拠点及びグループホーム型仮設住宅の設置・運営を支援するため、その経費の補助を行うほか、高齢者等サポート拠点運営者の研修を実施	研修会の実施	3	回	5	166.7%	A
				サポート拠点数(整備数)	29	箇所	28	96.6%	B
				サポート拠点数(運営数)	78	箇所(のべ)	78	100.0%	A
6	被災市町村地域支え合い体制づくり事業	市町村	被災地の要援護高齢者等の生活を支援するため、市町村が仮設住宅等において行う専門職種等の者による相談・支援等に要する経費の補助を実施	市町村事業への補助	27	市町村(のべ)	10	37.0%	D
7	被災地高齢者健康生活支援事業	県	専門委員会による被災市町村の介護予防事業の支援、介護予防に係る各種研修、普及啓発の実施	介護予防教室の開催	102	回	185	181.4%	A
8	被災地高齢者リハビリテーション支援事業	県	仮設住宅に入居する高齢者等の運動や生活機能低下の防止及び脳卒中等の既往疾患高齢者の状態の悪化を防止するため、県リハビリテーション支援センター等による巡回相談や運動指導等を実施	従事者研修会の開催	8	回	11	137.5%	A
9	被災地高齢者ふれあい交流促進事業	県	仮設住宅での生活における高齢者の孤立化防止や介護予防を図るため、高齢者が気軽に参加できる運動教室や交流会活動を支援	運動教室の開催	290	回	290	100.0%	A
10	被災地要援護高齢者支援事業	県	被災地の地域包括支援センター業務の支援を実施するとともに、巡回相談、認知症対策等の普及啓発を実施	研修会開催	12	回	15	125.0%	A
11	被災地障がい者相談支援事業	県	仮設住宅入居など生活環境の変化により新たに生じるニーズに対応するため、沿岸4障がい保健福祉圏域における相談支援事業所の職員を増員	相談支援事業所への職員配置	5	人	5	100.0%	A
12	障がい福祉サービス復興支援事業	県	県内障がい福祉サービス事業所の復興期における運営を支援するため、障がい福祉圏域ごとに「障がい福祉復興支援センター」を設置し、被災地における障がい者に対する福祉サービスを円滑に提供できる体制を整備	復興支援センター設置	9	箇所	9	100.0%	A
				支援事業所数	36	事業所	59	163.9%	A
13	老人福祉施設等災害復旧事業（設備整備等）	社会福祉法人等	被災地における要介護高齢者の介護サービスを確保するため、被災した介護サービス事業者の事業再開のために必要な訪問・送迎用車両及びパソコン等の購入に要する経費を補助	補助活用事業所	101	事業所	103	102.0%	A
14	老人福祉施設等災害復旧事業（施設整備）	社会福祉法人等	市町村、社会福祉法人及び医療法人等が行う被災した老人福祉施設等の復旧整備に要する経費を補助	再建施設数(補助活用分)	57	施設	61	107.0%	A
15	被災地介護サービス事業所人材確保事業	県	被災地等の介護サービス事業者に対して、被災失業者等の新規雇用とOJT（業務を通じた教育訓練）による人材養成を委託し、被災地における要介護高齢者の介護サービスの確保を支援	被災失業者雇用者数	65	人	133	204.6%	A
16	介護雇用プログラム推進事業	県、市町村	被災地等の介護サービス事業者に対して、被災失業者等の新規雇用と介護職員の資格取得による人材養成を委託し、被災地における要介護高齢者の介護サービスの確保を支援	被災失業者雇用者数	31	人	16	51.6%	D
17	障がい者支援施設等災害復旧事業（障害者支援施設等）	社会福祉法人等	被災した障害者支援施設、障がい福祉サービス事業所等の復旧整備に要する経費を補助	施設復旧箇所	22	施設	21	95.5%	B
				設備復旧箇所	16	件	14	87.5%	B

事業概要及び実績(2-II 保健・医療・福祉)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
18	被災地における障がい福祉サービス事業人材確保・育成事業	県	被災地の障がい福祉サービス事業者に対して、被災失業者等の新規雇用とOJT(業務を通じた教育訓練)による人材養成を委託し、被災地における障がい福祉サービスの確保を支援	雇用者数	63	人	69	109.5%	A
19	子育てサポートセンター管理運営事業	県	被災した地域子育て支援センターに対して、復旧に向けた民間支援の活用の助言や子育て支援事業の立ち上げ等に向けた支援を実施	親子交流活動の実施	20	回	20	100.0%	A
				子育て指導者向け研修の実施	8	回	8	100.0%	A
20	子育て支援事業設備等復旧事業	市町村、社会福祉法人	被災した保育所、地域子育て支援センター等に対して、事業再開のための設備整備に要する経費を補助・補助先：1市、1村、1社会福祉法人、2団体	補助金の交付	11	団体	11	100.0%	A
21	医師確保対策推進事業(岩手県医師修学資金貸付事業、医療局医師奨学生資金貸付事業、市町村医師養成事業)	県	被災した沿岸地域を始めとする県立及び市町村立等の病院に勤務する医師不足の解消を図るため、医学部に入学した学生に対して修学資金の貸付けを実施	修学資金の貸付	161	人(のべ)	139	86.3%	B
22	地域医療医師支援事業	県	被災した沿岸地域を始め、医師不足が顕著な本県の地域医療に従事する医師の確保・定着を図るため、「地域医療支援センター」を設置し地域医療に従事する医師の支援を実施(沿岸被災地の医師支援を強化)	地域医療支援センターの設置	1	箇所	1	100.0%	A
				地域医療対策協議会の開催	4	回	4	100.0%	A
23	岩手県看護職員修学資金貸付金	県	被災した沿岸地域を始め、県内に勤務する看護職員の確保を図るため、看護職員修学資金(卒業後一定期間県内の特定施設等に勤務すれば返還を免除)の貸付人員を拡大	看護職員修学資金の貸付決定	356	人	385	108.1%	A
24	安心と希望の医療を支える看護職員確保定着推進事業	県	沿岸地域における看護職員の確保・定着を図るため、①看護職を目指す中・高校生の進学セミナー、②看護学生、未就業看護職、Uターン希望者の県内就職ガイダンス、③看護職員のための就職ガイドブック作成について、沿岸地域における看護職員の確保に重点をおいて実施	進学セミナー参加者数	533	人	749	140.5%	A
25	被災地健康維持増進事業	県	被災地における健康支援活動が円滑に実施されるよう、保健師等の人材の確保及び資質向上に係る支援を実施 ・保健師等人材確保支援事業：被災市町村における保健師等の確保に係る経費を補助 ・被災地健康支援人材育成事業：被災市町村の保健師・栄養士等への研修の実施	全国的な人材確保体制の構築	1	式	1	100.0%	A
				保健師等研修会の開催	6	回	9	150.0%	A
26	被災地薬剤師確保事業	県	沿岸被災地における薬剤師の確保を図るため、薬学生を対象とした沿岸地域における研修や調剤業務を行っている薬剤師の把握・研修を実施	沿岸被災地薬局における薬剤師の不足数の解消	7	人	7	100.0%	A
27	被災地看護職員確保定着支援事業	県	沿岸被災地医療機関等の看護職員確保を図るため、現地調査による看護職員確保に係る現状分析や助言、ハローワークと連携した就業相談の取組を行い、求人施設と求職者のよりきめ細やかなマッチングを実施	就業相談会の実施	9	回	7	77.8%	C
28	県立宮古高等看護学院施設整備事業	県	被災した県立宮古高等看護学院の校舎改修及び実習施設棟を増築整備し、看護師の養成環境を充実	校舎改修・実習施設棟の増築整備		施設	0	-	-
				設計の実施	1	式	1	100.0%	A
29	介護人材確保事業	県	被災地の介護人材の確保を図るため、介護事業所の労働環境の改善や介護の仕事の魅力をテレビ番組の放映等を通じて発信	セミナーの開催	5	回	15	300.0%	A
				PR番組の作成・放映	2	本	2	100.0%	A
30	介護職員育成・定着促進事業	社会福祉法人等	介護職員の育成及び定着を促進するため、介護事業者が離職者等を有期雇用して、施設で働きながら資格を取得することを支援	新規雇用職員	36	人	35	97.2%	B
31	いわて災害医療支援ネットワーク事業	県、岩手医科大学、県医師会等	災害や大規模事故等の発生時において、医師等の医療救護チームの効率的な派遣調整を行うなど、被災地の医療提供体制を迅速かつ円滑に確立する保健・医療支援のネットワーク体制を構築	医療支援ネットワーク体制の構築	1	連携組織	1	100.0%	A
				災害拠点病院連絡協議会等の開催	6	回	6	100.0%	A
32	救助と医療をつなぐ災害時実践力強化事業	県、医師会	災害や大規模事故等の発生時における医療従事者、救助関係者及び行政職員の連携を強化するため、災害医療・救急救助に携わる人材を育成	災害医療コーディネーターの育成	12	人	27	225.0%	A
33	ドクターヘリによる病院間搬送対応施設整備事業	県、岩手医科大学(運航会社)	ドクターヘリ運航のため、県立病院ヘリポート等の整備を実施	ヘリポートの整備	2	箇所	2	100.0%	A
34	ドクターヘリ導入促進事業	県、岩手医科大学	ドクターヘリ運航のためのルール策定を行うとともに、岩手医大基地ヘリポートの施設整備、医師等の研修、必要設備の整備を実施	基地ヘリポートの整備	1	箇所	1	100.0%	A

事業概要及び実績(2-II 保健・医療・福祉)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
35	ドクターヘリ運航事業	民間等 (岩手医科大学) 県、市町村 (消防本部)	市町村消防等との密接な連携のもとに、円滑、安全なドクターヘリの運航を実施	ドクターヘリ運航開始	1	式	1	100.0%	A
				ドクターヘリ運航回数	300	回	373	124.3%	A
36	災害医療体制整備事業	災害拠点 病院	災害時の医療提供体制を確保するため、災害拠点病院における医薬品・食料品・医療資機材の備蓄と衛星携帯の配備に必要な経費を補助するとともに、関係医療機関等との訓練や情報共有などにより連携体制を強化	災害拠点病院連絡協議会の開催	6	回	6	100.0%	A
				衛星電話整備	11	病院	11	100.0%	A
				DMAT装備品整備	11	病院	11	100.0%	A
37	医薬品等に関する調達体制の検討	県、市町村	地域防災計画に基づく医薬品、医療用資機材等の調達に係る協定を検証し、災害時の医薬品等の調達体制について検討するとともに、災害時に重要な役割を果たす医療機関の機能維持を確保できるよう、関係機関と連携して実施	地域防災計画の見直しへの反映	1	式	1	100.0%	A
				協定締結団体との協議	8	団体	8	100.0%	A
38	被災地薬局等機能確保事業	県	沿岸被災地における良質かつ適切な医療を提供する体制の確保を図るとともに、薬局における患者の療養環境の充実等を図るため、薬局の復旧等に要する経費を補助	調剤薬局設置支援	40	施設	32	80.0%	B
39	災害拠点病院等非常用設備整備事業	県、民間 医療機関	災害時において病院機能を維持するため、災害拠点病院を始めとする病院を対象に、自家発電装置や燃料タンク等の非常用設備の整備に要する経費を補助	非常用設備設置病院数(補助事業活用分)	19	病院	2	10.5%	D
40	老人福祉施設等自家発電設備整備事業	社会福祉 法人等	人工呼吸器、喀痰吸引等の電源確保対策として老人福祉施設等が行う、非常用自家発電設備の整備に要する経費を補助	自家発電整備施設数(補助活用分)	53	事業所	53	100.0%	A
41	障害者支援施設等非常用自家発電機設置事業	社会福祉 法人等	停電により人命に危険を伴う重度障がい児者が入所する障がい福祉施設等が行う、非常用自家発電機の整備に要する経費を補助 ・補助先：2施設	整備箇所	2	施設	2	100.0%	A
42	腎不全対策医療設備整備事業	県、沿岸 被災地の 透析施設	沿岸被災地の透析医療体制を確保するため、沿岸被災地の透析施設が行う人工腎臓装置及び自家発電装置の整備に要する経費を補助	人工腎臓装置の整備	63	台	15	23.8%	D
				自家発電装置の整備	2	台	2	100.0%	A
43	圏域を越えた災害時医療支援体制の強化	民間医療 関係団体	沿岸地域を含む本県全域の災害時医療支援体制を強化 ・災害時地域医療支援・医療教育の拠点整備 ・医療関係団体等に非常用発電設備等の整備	災害時医療教育拠点の整備	1	施設	1	100.0%	A
				非常用発電設備の整備	4	団体	2	50.0%	D
44	ICTを活用した保健・医療・福祉サービスの連携推進	県、市町村、 民間 医療機関	医療の地域格差解消等を図るため、通信技術を活用した遠隔医療の実施に必要な設備機器等の整備や医療・健康情報共有基盤の構築を支援	システム導入に向けた検討の実施	1	検討の実施	3	300.0%	A
				システムの整備			-	-	-
45	被災地遠隔診療支援事業	県、岩手 医科大学	被災地の医療提供体制の一環として、緊急的に岩手医科大学と県医師会が運営する仮設診療所との間をネットワーク回線で結び、岩手医科大学が行う遠隔診療の実施に要する経費を補助	遠隔診療施設の整備	1	式	1	100.0%	A
				遠隔診療事業(モデル事業)の運営	1	式	1	100.0%	A
46	老人福祉施設整備事業	市町村、 社会福祉 法人、医 療法人	市町村の復興計画や新たなまちづくりと連動した地域包括ケアシステムを構築するため介護サービス拠点等の整備に要する経費を補助	施設整備数	150	床	262	174.7%	A
47	介護サービス施設整備等臨時特例事業	市町村	市町村の復興計画や新たなまちづくりと連動した地域包括ケアシステムの核となる地域密着サービス等の施設整備に要する経費を補助	施設整備数	165	床	205	124.2%	A
48	障害者支援施設等整備事業	社会福祉 法人等	新しいまちにおいて、地域の障がい福祉サービスの拠点となる障がい福祉施設、障がい福祉サービス事業所等の整備に要する経費を補助	整備施設数	5	箇所	4	80.0%	B
49	療育センター管理運営事業	県	被災地域における障がい児の専門的な相談支援体制を強化するため、療育センター職員が被災地に出向き専門的な助言・指導を実施するとともに、沿岸地域に療育センターのサブセンター設置(H26予定)を目指し、H24にモデル事業を実施し、必要性等を検証	巡回相談回数	36	回	75	208.3%	A
				訪問回数	800	回	1,152	144.0%	A
50	児童福祉施設等災害復旧事業	市町村、 社会福祉 法人	被災した保育所、児童館、放課後児童クラブ等の復旧整備に要する経費を補助	保育所・児童館等復旧施設数	43	箇所	29	67.4%	C

事業概要及び実績(2-II 保健・医療・福祉)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
51	被災地健康維持増進事業	県	被災者の健康の維持増進を図るため、被災地域の健康課題の分析評価及び対策に関する検討結果に基づき、保健活動等の支援や住民の自主的な健康づくり活動を支援 ・岩手県被災地健康支援事業運営協議会事業：被災地の健康課題の分析及び健康支援対策に関する検討を実施 ・被災地保健活動等支援事業：内陸部等から職員（保健師、栄養士）を被災地に派遣し、保健活動、食生活・栄養支援活動等を支援 ・住民の自主的な健康づくり活動支援事業：健康に関する学習会や健康調理教室等の開催 ・被災者食生活バックアップ事業：応急仮設住宅入居者等への減塩バランス料理教室等の開催 ・被災者健康づくりサポート事業：市町村が行う応急仮設住宅入居者等を対象とした健康づくり事業に要する経費を補助	要請のあった市町村への保健師等派遣	21	市町村	23	109.5%	A
52	被災地口腔ケア推進事業	県	被災地の口腔ケア活動に対応するため、仮設住宅集会所等を活用し、歯科健診、口腔ケア指導等の口腔ケア活動を実施	口腔ケア指導等の実施	210	回	244	116.2%	A
53	被災地健康相談等支援事業	県	被災地の保健活動、食生活・栄養支援活動、口腔ケア活動に対応するため、応急仮設住宅集会所等を活用し、健康相談、保健指導、歯科健診、口腔ケア指導等を実施 ・応急仮設住宅健康相談支援事業 ・被災地口腔ケア推進事業	健康相談等の参加者数	26,403	人	21,852	82.8%	B
				口腔ケア指導等参加者数	8,022	人	6,827	85.1%	B
54	被災地特別健診等支援事業	県	被災者の健康問題を早期に発見するため、市町村が実施する被災者特別健診等や受診環境の整備に要する経費を補助	補助対象事業の実施市町村数	22	市町村	21	95.5%	B
55	市町村保健センター復旧支援	県	被災した市町村保健センターの復旧に対し、国庫補助事業を導入するに当たっての助言、国との調整等を実施	復旧施設	5	施設	5	100.0%	A
56	被災地こころのケア対策事業	県	地震や津波により、精神的負担を抱えている被災住民に対し、県内外からの派遣によるこころのケアチームが、避難所の巡回等を行い、被災者と面接し、相談や診察等の活動を実施 （本事業終了後は、こころのケアセンター等設置運営事業により継続実施）	こころのケアチームの支援	30	チーム	30	100.0%	A
57	児童養育支援ネットワーク事業（被災児童対策事業）	県	被災児童等に対し適切な対応が図られるよう、保育所・市町村職員や保護者等への研修を実施。また、被災孤児・遺児の安定した生活環境の確保に向けた育成支援を行うとともに、ひとり親家庭の相談等の対応、親族里親の養育支援を実施	研修会の開催	77	回	90	116.9%	A
58	緊急スクールカウンセラー等派遣事業	県	沿岸幼稚園児の心のケアのため、幼稚園スクールカウンセラーを配置	配置人数	23	人	23	100.0%	A
59	こころのケアセンター等設置運営事業	県	地域においてこころの悩み・こころの健康に関する相談及び診察する拠点を設置するとともに、長期的なケアも見据え「岩手県こころのケアセンター」や「地域こころのケアセンター」を設置し、きめ細かなケアを行う体制を整備 ・地域における相談・診察拠点：7箇所 ・岩手県こころのケアセンター：1箇所 ・地域こころのケアセンター：4箇所	震災こころの相談室設置	7	箇所	7	100.0%	A
				岩手県こころのケアセンター等設置数	5	箇所	5	100.0%	A
				こころのケアケース検討数	728	ケース	1,073	147.4%	A
60	精神科医療機関業務支援事業	県、内陸部精神科病院	沿岸部の精神科病院の業務を支援するため、津波被害のない内陸部の精神科病院の医師派遣を調整支援	連携強化地域	4	地域	4	100.0%	A
				医師派遣の調整支援			-	-	-
61	子どものこころのケアセンター運営費	県	被災児童の専門的な精神的ケアや保育所職員、市町村職員、保護者等の支援者への技術的支援を行うため、「いわてこどもケアセンター」を設置	子どものこころのケアセンター設置箇所数	4	箇所	4	100.0%	A
				開設日数	570	日	577	101.2%	A
62	こころのケア対策ネットワーク推進事業	県	相談診察拠点に結びつけるためのこころのケア活動の継続した取組を行うため、かかりつけ医研修、職域研修、被災住民健康講座を開催するとともに、関係機関によるネットワーク会議を開催	ネットワーク会議の設置運営	12	地域(のべ)	12	100.0%	A
63	震災ストレス外来設置支援事業	県	被災者が気軽に相談、診察を受けることができるよう、沿岸の地元医療機関に「震災ストレス外来」の設置を支援	ストレス外来の設置	7	箇所	3	42.9%	D

2-III 教育・文化

43 事業(48 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	いわて子どものこころのサポート事業	県、市町村	児童生徒の適切な心のサポートを図るため、組織的・継続的に学校を支援 ・教員研修：地域の実態やニーズに対応した教員研修の実施 ・人的支援等：臨床心理士等によるきめ細かな心のサポートの継続 ・心とからだの健康観察：児童生徒一人ひとりの経年変化がわかる資料の提供	臨床心理士等による心のサポートを行っている沿岸部の学校数		校	567	-	-
2	緊急スクールカウンセラー等派遣事業(再掲)	県	沿岸幼稚園児の心のケアのため、幼稚園スクールカウンセラーを配置	配置人数	23	人	23	100.0%	A
3	いわての復興教育推進事業	県、市町村	「いわての復興教育」を推進するため、将来の岩手を担う人材の育成に資する教育プログラムを作成。また、復興教育の基本的な考え方に基いた教育を全県共通理解のもとに進めていくため、実践事例等を収集し、事例の紹介や交流を通して教育内容の充実が図られるよう、各学校の取組を支援	プログラム概要等の取りまとめ	1	回	1	100.0%	A
				趣旨、基本的な考え方の説明	6	地区	6	100.0%	A
				「いわての復興教育」を学校経営計画等に位置付けている学校の割合	100	%	100	100.0%	A
4	学校施設災害復旧事業(再掲)	県	児童生徒の教育環境の正常化を図るため、地震・津波によって被害を受けた県立学校施設等の災害復旧を実施 【被害を受けた学校数】 ・中学校 1校 ・高等学校 60校 ・特別支援学校12校 計 73校	県立学校施設の災害復旧	72	校	72	100.0%	A
5	高等学校通学バス運行事業	県	被災した高田高等学校の仮校舎への移転に伴い、公共交通機関が不通となっている陸前高田市及びその周辺地域の生徒の通学手段を確保するため、通学バスを運行	通学バス運行日数		日	1,009	-	-
6	いわて教育情報ネットワーク復旧整備事業	県	被災した高田高等学校及び宮古工業高等学校のいわて教育情報ネットワーク端末等の復旧整備	流失した備品等の整備	2	校	2	100.0%	A
7	私立学校等災害復旧支援事業(再掲)	私立学校	被災した私立学校等の施設災害復旧費用の一部を助成 【被害を受けた学校等数】 ・幼稚園 24園 ・中学校 1校 ・高等学校 9校 ・専修学校 3校 計 37園・校	私立学校等施設の災害復旧	36	校	36	100.0%	A
8	学校再開に向けたガイドライン作成事業	県	被災した学校や避難所となった学校の学校再開に向けたガイドラインの検討及び作成	学校再開に向けたガイドライン(初版)の作成、配付	1	回	1	100.0%	A
				学校再開に向けたガイドライン(第2版)の作成、配付	1	回	1	100.0%	A
9	学校再建関連事業	県	被災した県立学校の生徒の教育環境を確保するため、授業に必要な教科書、学用品、運動着などの無償貸与を実施	対象となる児童生徒の教科書、学用品の提供		人	2,524	-	-
10	被災地児童生徒就学支援事業	県、市町村、私立学校、岩手育英奨学会	震災・津波に被災したことに伴い、経済的な理由により就学が困難となった世帯の幼児児童生徒に対して、教育の機会を確保するため、就学援助や奨学金事業を実施 ・幼児就園支援事業：幼児に対する入園料、保育料等の補助 ・児童生徒就学援助事業：小・中学校の児童生徒に対する学用品費、学校給食費、医療費等の補助 ・奨学金事業：高等学校等の生徒に対する奨学金の貸与 ・公立専修学校授業料減免事業：公立の専修学校の授業料、入学金及び施設整備費減免措置に係る補助 ・特別支援教育就学奨励事業：特別支援学校及び特別支援学級の児童生徒に対する学用品費、学校給食費などの補助等 ・私立学校被災児童生徒等就学支援事業：私立の幼稚園・小・中学校、高等学校、特別支援学校、専修学校、各種学校の入学選考料、入学金、授業料及び施設整備費減免措置に係る補助	幼稚園就園奨励費補助		人	869	-	-
				就学援助		人	12,018	-	-
				奨学金の貸与		人	573	-	-
				私立学校等授業料等減免補助		人	1,309	-	-
11	高田高等学校海洋システム科水産教育支援事業	県	被災した高田高等学校広田校舎で水産教育実習が困難となったため、他地区の高等学校で操船、潜水及び製造実習等を実施	水産教育実習の実施教科数	9	教科	9	100.0%	A

事業概要及び実績(2-III 教育・文化)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
12	被災私立学校等復興支援事業	私立学校	震災を踏まえ、私立学校及び私立専修学校等が安定的・継続的な教育環境を保障するために行う取組等に対する補助を実施 ・被災私立学校復興支援事業：私立の幼稚園、小・中・高等学校に対する運営費の補助 ・被災私立専修学校等復興支援事業：私立の専修学校及び各種学校に対する運営費の補助	取組学校数		校	21	-	-
13	岩手県立大学被災学生就学支援事業	岩手県立大学	東日本大震災津波により被災した学生に対し、公立大学法人岩手県立大学が行う授業料等減免に要する経費を交付	県立大学入学科震災減免		人	97	-	-
				県立大学授業料震災減免		人(延)	445	-	-
14	被災地学校等への教職員配置事業	県	被災した児童生徒へのきめ細かな支援及び学校復興のため、教職員の加配が必要な小・中学校及び県立学校に対し、継続的に教職員を加配	小学校への教職員の加配	357	人	360	100.8%	A
				中学校への教職員の加配	232	人	235	101.3%	A
				県立学校への教職員の加配	100	人	104	104.0%	A
15	いわての学び希望基金奨学金給付事業	県	震災・津波により親を失った児童生徒等を対象とした給付型の奨学金制度の創設及び運用	小・中・高・大学等に在籍する者に定期金(月額単位)の給付		人	1,579	-	-
				小・中・高校を卒業した者に一時金を給付		人	1,203	-	-
16	いわての学び希望基金教科書購入費等給付事業	県	東日本大震災津波により被災した生徒及び保護者等に対し、高等学校における修学の支援を目的として、教科用図書、制服購入費及び修学旅行費の全部又は一部を給付	教科用図書購入費等の給付(公立)		人	2,918	-	-
				教科用図書購入費等の給付(私立)		人	222	-	-
17	教職員住宅等災害復旧事業	県	被災した教職員住宅の災害復旧工事及び住居を流失した教職員の居住環境を確保するための教職員住宅の改修工事を実施	教職員住宅改修戸数	83	戸	83	100.0%	A
18	県立高田高等学校災害復旧事業(再掲)	県	東日本大震災津波により甚大な被害を受けた高田高等学校の新築整備	新築整備		校	-	-	-
19	県立学校施設防災機能強化事業(再掲)	県	災害発生時に地域住民の応急避難場所としての役割を果たすため、県立学校施設の耐震化と防災機能の強化を推進	学校施設の防災機能強化	4	校	3	75.0%	C
20	被災教職員健康管理支援事業	県	教職員の心の健康の保持増進を図るため、メンタルヘルスチェックを行い、ストレス反応へのアドバイスや事後指導等を実施。また、沿岸地域に勤務する教職員の体のケアの充実を図るため、定期健康診断有所見者に対して健康相談を実施	メンタルヘルスチェックの実施	27,546	人	23,413	85.0%	B
				メンタルヘルス事後指導の実施	380	人	432	113.7%	A
				健康診断事後保健指導の実施	3,424	人	750	21.9%	D
21	文化財レスキュー事業	県、岩手県文化振興事業団	震災・津波により被災した多量の土器等の遺物及び古文書・生物標本等について、洗浄・復元・保存処理作業を実施	古文書等の洗浄・復元・保存処理作業		件	76	-	-
				土器等の洗浄・復元作業		件	12	-	-
22	被災ミュージアム再興事業	県、市町村	被災した博物館や文化財収蔵施設からレスキューされた文化財等の復旧支援のため、当該市町村が被災文化財の洗浄や薬品処理、仮設保管場所の整備等を行うための委託を、国の補助制度を活用し実施	委託市町村数	8	市町村	8	100.0%	A
23	公立文化施設災害復旧事業	県	文化芸術環境の正常化を図るため、震災により被災した公立文化施設の災害復旧工事を実施 ・県民会館災害復旧(H23完了) ・市町村立文化施設災害復旧	博物館災害復旧工事	1	施設	1	100.0%	A
				県民会館災害復旧工事	1	施設	1	100.0%	A
				市町村立文化施設災害復旧工事	10	施設	9	90.0%	B
24	青少年芸術普及事業	県、市町村、日本青少年文化センター	被災地域の子どもたちに優れた文化芸術に触れ感動する機会を提供し、次代の文化芸術の担い手の育成を図るとともに、豊かな創造性と情操の涵養を図るため、従来へき地3級以上の学校を対象としていた青少年芸術普及事業の小公演について、沿岸12市町村を対象に追加して実施	小公演開催	10	公演	8	80.0%	B
25	文化振興基金助成事業(東日本大震災津波復興支援事業)	岩手県文化振興事業団	震災・津波被害を受けた民俗芸能団体等の芸能用具等の修繕・購入費用の助成及び被災地域の文化芸術鑑賞の機会を確保するための公演や展示会開催費用を助成	被災団体の備品整備助成		件	78	-	-
				芸術文化活動の助成		件	29	-	-

事業概要及び実績(2-III 教育・文化)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
26	震災復興支援あーとキャラバン実施事業	県	被災地域において美術と触れ合い、体験する機会を提供するため、あーとキャラバンを実施して子どもたちへの美術教育の支援を実施	あーとキャラバン実施回数	4	回	4	100.0%	A
27	いわての学び希望基金被災地児童生徒文化活動支援事業	県、岩手県芸術文化協会、岩手県中学校文化連盟、岩手県高等学校文化連盟	小学校、中学校及び高等学校の文化芸術活動の振興を図るとともに、被災した児童生徒を支援するため、各種大会等に参加するための旅費を補助	被災生徒のセミナーサポート事業参加補助	2,182	人	900	41.2%	D
				被災生徒の総合文化祭参加補助(高校)	2,182	人	1,200	55.0%	D
				被災生徒の総合文化祭参加補助(中学校)	606	人	322	53.1%	D
				被災生徒の総合文化祭参加補助(小学校)	234	人	123	52.6%	D
28	文化芸術活動再開支援事業	民間	沿岸12市町村において、被災により滅失、損傷した文化芸術活動用具の購入や修理に係る費用の一部を補助	事業団または県の支援事業により、活動再開に至った団体数	50	団体	54	108.0%	A
29	遺跡調査事業	県	復興事業に係る埋蔵文化財調査の推進と市町村の埋蔵文化財調査の支援を実施	分布調査		件	8	-	-
				試掘調査		件	13	-	-
				発掘調査		件	25	-	-
30	社会教育施設等災害復旧事業	県、市町村	社会教育・生涯学習環境の正常化を図るため、震災により被災した施設等の災害復旧工事を実施 ・生涯学習推進センター災害復旧 ・県北青少年の家災害復旧 ・陸中海岸青少年の家災害復旧 ・市町村社会教育施設災害復旧	生涯学習推進センター災害復旧工事	1	施設	1	100.0%	A
				青少年の家災害復旧工事	2	施設	2	100.0%	A
				市町村施設	62	施設	42	67.7%	C
31	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(放課後における児童生徒の居場所づくり事業)	県、市町村	被災地における児童の放課後の安全で安心な居場所を確保するとともに、被災地域の事業推進関係者の研修機会等を提供	沿岸市町村における実施地区	80	教室	86	107.5%	A
32	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(教育振興運動推進事業)	県、市町村	被災地における社会教育の活性化を促すために、読書ボランティア・子育て支援ボランティア等の人材育成を図るとともに地域における教育課題の自主的な解決の支援を実施	沿岸地域における地域人材育成のための研修会	12	回	12	100.0%	A
				沿岸地域における子育てサポーター養成	40	人	41	102.5%	A
33	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(学校と地域の協働推進事業)	県、市町村	被災地における学校教育を地域全体で支援する体制づくりを推進し、教員の負担軽減を図るとともに、地域の教育力の活性化を促進	沿岸市町村における実施地区	62	本部	67	108.1%	A
34	スポーツレクリエーション施設災害復旧事業	県	スポーツ・レクリエーション活動環境の正常化を図るため、震災により被災した施設等の災害復旧工事を実施 ・県営運動公園災害復旧 ・県営体育館災害復旧	運動公園災害復旧工事	1	施設	1	100.0%	A
				体育館災害復旧工事	1	施設	1	100.0%	A
35	アスレティックトレーナー派遣事業	県、岩手県体育協会	アスレティックトレーナーを被災地の避難所・仮設住宅・地域の公民館・中学校や高等学校などに派遣し、被災者の健康増進のための体操や軽運動の指導、健康相談、トレーニングやコンディショニングの指導等を行い、健康づくりのサポート及びスポーツ活動の環境整備を実施 ・平成23年度・24年度は月1回の実施(1回につき4~5名派遣) ・平成25年度以降は月2回(1回につき3~4名派遣)	アスレティックトレーナー派遣	36	回	52	144.4%	A
36	アスレティックトレーナー養成事業	県、岩手県体育協会	アスレティックトレーナーの派遣事業を効率よく展開するとともに、スポーツ選手の育成や競技力向上のため、不足するアスレティックトレーナーを養成 ・震災前の事業を引き継ぎ1年半の事業でセミナー13回、実習24回実施	アスレティックトレーナー養成(養成期間通常3年)	42	人	23	54.8%	D
37	スポーツ医・科学データ活用事業	県、岩手県体育協会	健康づくりや競技力向上のサポートを目的とし、スポーツ医・科学分野におけるデータ収集(医・科学測定)を実施し、効果的なトレーニング等の指導(ワークショップ)を実施 ・医・科学測定(年間5回) ・ワークショップ(年間5回) 沿岸4地区(久慈・宮古・釜石・気仙)各1回、内陸部1回の計5回実施。また、平成24年度はデータ収集(体力測定等)に必要な測定機器を整備	スポーツ医科学測定・ワークショップ開催	10	回	7	70.0%	C
				測定機器整備	15	個	9	60.0%	C

事業概要及び実績(2-III 教育・文化)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
38	運動部活動地域連携再構築事業	県	体育館やグラウンドが避難所や仮設住宅建設地になっているために運動部の活動が十分にできない学校に対して、近隣の市町村の体育施設に移動して活動するための移動に要する経費を支援	運動部活動支援学校数		校	43	-	-
39	いわての学び希望基金被災地生徒運動部活動支援事業	県、岩手県中学校体育連盟、岩手県高等学校体育連盟	中学生及び高校生の体育・スポーツの振興と競技力の向上を図るとともに、被災した生徒を支援するため、東北中学校体育大会及び東北高等学校選手権大会に出場するための旅費を補助	県中総体・新人大会参加費補助	2,142	人	1,288	60.1%	C
				県高総体・新人大会参加費補助	5,300	人	3,658	69.0%	C
40	生涯スポーツ推進プラン事業（総合型地域スポーツクラブ創設・育成事業）	県、市町村	東日本大震災津波により被害を受けた被災沿岸地域のスポーツ・レクリエーション活動団体の運営体制への支援 ・広域スポーツセンター指導員の派遣による現地調査及び指導 ・被災した沿岸部クラブへの運営費補助 ・未創設の沿岸市町村へのクラブ創設補助 ・クラブ研修会実施 ・大学への創設育成支援委託	被災市町村において創設準備に入る市町村	8	市町村	7	87.5%	B
				被災市町村において活動を開始するクラブ	8	クラブ	7	87.5%	B
41	スポーツ・レクリエーション活動支援事業	県	沿岸地域のスポーツの活性化を図るため、被災者への支援事業を実施するクラブに対して、スポーツ振興くじ（toto）助成の活用について助言・指導を実施	被災地支援事業実施クラブ数	20	クラブ	30	150.0%	A
42	海洋型スポーツ・レクリエーション拠点施設整備事業	県	東日本大震災津波により甚大な被害を受けた高田松原野外活動センターに代わる施設として、次の機能を備えた拠点施設を整備 ・海洋性野外活動機能 ・集団宿泊研修機能 ・スポーツ合宿機能 ・子ども支援機能 ・防災拠点機能	県立施設設置		施設	-	-	-
43	スポーツ健康科学サポート推進事業	県	沿岸の被災者の健康づくりを効果的にサポートし、さらに県全体の競技力・指導者の資質向上を振興するための拠点整備。 その拠点を活用し、健康づくりや競技力向上のサポートを目的としたスポーツ医・科学分野におけるデータ収集（医・科学測定）の実施と効果的なトレーニング等の指導（ワークショップ）の実施。	測定機器整備		個	6	-	-
				スポーツ医科学測定・ワークショップ開催	10	回	8	80.0%	B

2-IV 地域コミュニティ

25 事業(37 指標)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	被災地地域コミュニティ再生・活性化事業	県	応急仮設住宅等での住民相互のコミュニケーションの維持や地域コミュニティを継続するための事業を、市町村、関係機関、NPO等と連携しながら実施	連携会議の設置	1	箇所	1	100.0%	A
				開催回数	70	回	74	105.7%	A
2	広域振興事業	県	震災からの復旧・復興に係る事業で、広域振興局が実施する広域振興圏単位の課題を解決するための先駆的事业を広域振興事業として実施 ・4広域振興圏を対象 ・3～5事業程度/年	広域圏の産業振興	683,229	千円	672,956	98.5%	B
3	地域経営推進費事業	県、市町村	震災からの復旧・復興に係る事業で、広域振興局等が実施する産業振興、風評被害等に対応する事業を地域経営推進費事業として実施 ・4広域振興圏及び市町村を対象 ・200事業程度/年(全県)	産業振興・地域課題解決のための事業	1,340,000	千円	1,310,028	97.8%	B
4	新しい公共による地域コミュニティ支援事業 ・地域コミュニティ復興支援	県、市町村	被災地のコミュニティ復興に向け、地域を担う若手人材を育成するための実践的な人材育成ワークショップを開催 ・3モデル地域×3回以上 発表会1回以上	(三陸創造塾の開催(3か所))	9	回	8	88.9%	B
				(三陸創造塾の開催(全体会))	1	回	1	100.0%	A
5	生活福祉資金貸付推進事業	社会福祉協議会	県及び市町村社会福祉協議会に生活支援相談員を配置し、仮設住宅や在宅避難者宅等を対象に、生活福祉資金の貸付相談や各種相談受付等の実施、民生委員等との連携による要援護者の安否確認や見守り活動を実施。また、県社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターの支援業務を実施	生活支援相談員の配置人数	604	人(延)	579	95.9%	B
6	新しい公共による地域コミュニティ支援事業 ・草の根コミュニティ再生支援	県	地域コミュニティの再生を図るため、コミュニティ活動の担い手育成、先進的取組事例の紹介、地域の課題解決に向けた支援を推進 ・地域コミュニティ再生セミナーの開催 ・地域の先進的活動事例の紹介 ・地域の課題解決に向けた専門家派遣	地域活動支援件数	12	件	13	108.3%	A
				先進事例紹介件数	18	件	18	100.0%	A
7	災害時要援護者支援対策事業	県、市町村	市町村において、高齢者や障がい者等の災害時要援護者の避難支援対策が推進されるよう、市町村職員等を対象とした研修を実施し、福祉避難所の指定・協定の促進について働きかける他、要援護者の把握や支援について地域で検討するための福祉マップ作成を支援	災害時要援護者避難支援対策研修の開催	3	回	3	100.0%	A
				マップづくり市町村数	33	市町村	30	90.9%	B
8	福祉専門職能団体等による被災地支援	県社会福祉協議会・職能団体	県内職能団体に所属する専門職がボランティアとして、被災者や現地の支援者のニーズ把握を行い、必要な支援を継続的に実施	職員派遣	180	人	184	102.2%	A
				研修会の開催	14	回	9	64.3%	C
9	災害派遣福祉チーム設置事業	県	避難所等で福祉・介護分野の応急支援調整などを担う「災害派遣福祉チーム」の早期設置に取り組みとともに、市町村の避難支援計画策定等の取組を支援	災害派遣福祉チーム数	10	チーム	27	270.0%	A
				災害派遣福祉チーム周知に係るセミナー開催	4	回	5	125.0%	A
10	障がい福祉サービス復興支援事業	県	沿岸地域の就労支援事業所を支援する障がい者就労支援振興センターのサブセンターを設置し、新規事業の開発支援、自主生産製品の販売促進、民間企業の業務受託のマッチング等を実施	障がい者就労支援センターの設置	1	箇所	1	100.0%	A
				支援した事業所数	36	箇所	82	227.8%	A
11	福祉コミュニティ復興支援事業	市町村等	福祉コミュニティの復興を図るため、市町村等が被災者支援に携わる関係者間の総合調整を図りながら実施する地域の支援体制の構築や住民ニーズ把握等の事業に要する経費を補助	事業実施市町村等数	12	か所	16	133.3%	A
12	新しい公共による地域コミュニティ支援事業 ・新しい公共支援	県、市町村又は協議体	新しい公共の担い手(NPO、企業、行政など)が協働・連携して、復旧・復興に向けた取組に対し補助するとともに、NPO等の活動基盤の整備を行うための事業を実施 ・モデル事業(2カ年):54事業(団体) ・NPO等活動基盤支援事業:県内のNPO等への委託	採択事業	305,187	千円	293,319	96.1%	B
13	NPO協働推進事業(情報誌発行事業)	県	県内のNPOやボランティア活動など、県民が行う公益的な活動の活性化、活動支援を目的に、NPO活動事例紹介、イベント紹介等の情報を発信 ・NPO情報誌の発行 H23:3回/年 H24:4回/年 県内全域へ配布	情報誌の発行	11	回	11	100.0%	A
14	いわて公営型復興企画推進事業	県、岩手県立大学	いわて未来づくり機構における「いわて三陸復興のかけ橋」プロジェクトにおいて、国内外から広く復興のアイデアや資金、ノウハウを募り、被災地の復興を支援	相談・調整件数(コーディネーター派遣回数)	405	件	383	94.6%	B
				登録件数	140	件	129	92.1%	B
				マッチング件数	45	件	64	142.2%	A

事業概要及び実績(2-IV 地域コミュニティ)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
15	いわて三陸復興のかけ橋推進事業	県	震災からの復興を加速させるため、復興支援ポータルサイト「いわて三陸復興のかけ橋」を活用し、情報共有によるマッチングの促進や、情報発信による風化の防止、新たな支援の呼び込み等を実施	ポータルサイトアクセス数	100,000	アクセス	185,350	185.4%	A
				連携交流会の開催	10	回	13	130.0%	A
16	保健福祉の相談・支援サービスの一体的な提供に向けた支援	県、市町村	被災地の保健センターや地域包括支援センター、基幹相談支援センター、子育て支援センター等の密接な連携、相談・支援機能の統合など、保健福祉の総合的な相談・支援体制の構築に向けた検討や市町村の取組を支援	セミナーの開催	2	回	5	250.0%	A
17	民生委員（児童委員）活動事業	県、市町村、民生児童委員協議会	民生委員に対し、被災者支援に関する研修を行い、関係機関と連携した被災者の見守り活動を充実強化	民生委員児童委員協議会の会長・副会長に対する研修	3	回	3	100.0%	A
				広域振興局、保健福祉環境センターごとの研修	27	箇所	27	100.0%	A
18	地域福祉活動コーディネーター育成事業	県、社会福祉協議会	地域の生活課題に対応し、その解決に向けて関係団体等とネットワークを築き、具体的なコミュニティソーシャルワーク機能を担う地域福祉活動コーディネーターを育成・支援	地域福祉活動コーディネーター育成数	132	人	142	107.6%	A
19	地域支え合い活動促進支援	市町村、社会福祉協議会	県民対象のフォーラムでの啓発や、地域福祉活動コーディネーターなどの担い手育成及び支援を行う他、地域支え合い体制づくり事業や福祉コミュニティ復興支援事業により、市町村や社会福祉協議会が行う地域支え合い活動促進の取組を支援	地域福祉活動コーディネーター実践力強化研修	4	回	5	125.0%	A
20	復興住宅ライフサポート事業	市町村	災害公営住宅等において、高齢者及び障がい者等が安心して暮らすことができるよう、必要な見守り・支援体制の整備に要する経費を補助	見守りモデル事業の実施	9	市町村	1	11.1%	D
21	被災地高齢者友愛支え合い事業	県	高齢者の孤立化・孤独死の防止を図るため、訪問活動（見守り）によるセーフティネットづくりを推進し、併せて高齢者の社会的な活動を促進	友愛訪問の実施	28	市町村(のべ)	28	100.0%	A
22	被災地高齢者ふれあい交流促進事業	県	仮設住宅での生活における高齢者の孤立化防止や介護予防を図るため、高齢者が気軽に参加できる運動教室や交流会活動を支援	運動教室の開催	290	回	290	100.0%	A
23	障がい福祉サービス復興支援事業	県	障がい者が地域で安心して暮らしができるように、在宅障がい者の現状把握を行うとともに、必要なサービス利用を支援	支援体制の整備	9	箇所	9	100.0%	A
				障がい者のニーズ調査の実施	9	圏域	9	100.0%	A
24	被災地障がい福祉サービス事業所生産活動等支援事業	社会福祉法人等	被災地の就労支援事業所等の工賃向上に向けた取組を支援するため、被災失業者を雇用し創作活動や生産活動等を支援	支援対象事業所数	14	事業所	18	128.6%	A
25	障がい者就労スペースの設置に向けた支援	県、市町村、民間事業所等	市町村の庁舎や商業施設等の整備に際し、障がい者の就労スペースを設けてもらうよう関係機関に対する働きかけを実施	就労スペース設置箇所数	2	箇所	6	300.0%	A

2-V 市町村行政機能

7 事業(7 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	被災市町村行政機能支援事業 ・被災市町村への職員派遣	県	県内外の自治体及び県から被災市町村への職員派遣に係る調整 ・市町村の行政機能支援や復興事業の推進のための派遣 ・県市長会、県町村会及び総務省等の関係機関との調整 H24派遣決定者数：240人(5/1現在)	派遣予定数		人	1,088	-	-
2	被災市町村行政機能支援事業 ・被災市町村への基礎的行政資料復旧支援	県	市町村が住民に関する業務を行うために必要な住民基本台帳等の基礎的資料の整備や、住民サービスを行う公的機関の早期復旧に向けた支援 ・被災市町村：12市町村	復旧市町村	2	市町村	2	100.0%	A
3	被災市町村行政機能支援事業 ・市町村行政機能応急復旧	市町村	本庁舎に壊滅的な被害を受けた市町村等の行政機能の応急の復旧のために必要な仮庁舎の建設や、行政情報システムの復旧等のための補助(国→市町村：宮古市、北上市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、大槌町、山田町、岩泉町、野田村 10市町村)	本庁舎応急復旧	9	市町村	9	100.0%	A
				情報システム応急復旧	5	市町村	5	100.0%	A
4	東日本大震災津波復興基金 市町村交付金	県	市町村が復興に向けて行う住民生活の安定やコミュニティの再生、地域経済の振興や雇用維持の事業及び住宅再建に資する事業のための財源支援 ・全市町村 交付額 425億円	交付額	425	億円	425	100.0%	A
				市町村執行額(実績のみ)		億円	107	-	-
5	被災市町村行政機能支援事業 ・市町村復興計画等策定支援	県	市町村が復興計画の策定や復興計画に基づく事業を実施するに当たって、必要に応じて市町村への技術的な助言等の支援 ・被災市町村：12市町村	復興計画策定支援市町村数	12	市町村	12	100.0%	A
				復興整備計画策定支援市町村数		市町村	10	-	-
				復興整備計画策定(変更を含む)延べ市町村数		市町村	74	-	-
6	市町村復旧緊急支援事業	市町村	市町村及び市町村長が必要と認める団体が行う東日本大震災津波からの復旧・復興に資する取組に対し支援(補助金交付) ・県内33市町村：補助率1/2(沿岸12市町村は2/3に嵩上げ)	広域圏の振興と市町村との連携強化	214,858	千円	214,858	100.0%	A
7	被災地域情報化推進事業(国→市町村)	市町村	自治体クラウドの導入に係る費用の補助(国→市町村)	自治体クラウドの導入	4	延べ市	4	100.0%	A

3-1 水産業・農林業

123 事業(159 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	共同利用漁船等復旧支援対策事業	漁協等	漁協等による漁業者が共同利用する漁船、定置網等の一括整備を支援 ・整備漁船数：6,800隻 ・整備定置網数：108ヶ統	新規登録漁船数	6,800	隻	6,324	93.0%	B
				漁船整備に関する補助金交付契約隻数	6,800	隻	6,674	98.1%	B
				整備定置網数	108	ヶ統	101	93.5%	B
2	水産業経営基盤復旧支援事業(養殖施設)	漁協等	漁協等による被災養殖施設の共同利用施設としての一括整備を支援 ・整備施設数 19,885台	整備施設数(延縄式+筏式)	19,885	台	17,329	87.1%	B
3	漁業協同組合等機能回復支援事業	漁協	津波によって事務所等が被災した漁協機能の早期回復に必要な不可欠な事務所、データの復旧、OA機器等整備や、各漁協が行う復興方針、再建計画の策定を支援 ・漁協機能の回復：14漁協 ・復興方針等策定：24漁協	機能回復漁協数	14	漁協	14	100.0%	A
				復興方針等策定漁協数	24	漁協	24	100.0%	A
4	水産養殖施設災害復旧事業	養殖事業者、漁協等	被災した養殖施設(個人施設及び共同利用施設)の原形復旧を支援 ・整備施設数：41施設	施設整備数	41	施設	14	34.1%	D
5	水産業共同利用施設復旧支援事業	市町村、漁協・水産加工協等	漁協等が有する共同利用施設の早期復旧、使用再開に必要な機器等の整備や施設の修繕を支援 ・復旧施設数：187箇所	施設修繕数	187	箇所	193	103.2%	A
6	水産業経営基盤復旧支援事業(共同利用施設)	漁協等	漁協等が有する共同利用施設の復旧・整備を支援 ・復旧施設数：140箇所	復旧施設数	140	箇所	141	100.7%	A
7	採介藻漁業復旧緊急支援事業	漁協	採介藻漁業の再開に必要な、ウニ等の共同採捕等に用いる潜水器具、紫外線海水殺菌装置の整備を支援 ・採介藻漁業(ウニ)再開漁協数：11漁協	紫外線殺菌装置整備台数	38	台	38	100.0%	A
				潜水関係機器等整備件数	9	件	9	100.0%	A
				採介藻漁業再開漁協数	11	漁協	10	90.9%	B
8	さけ、ます生産地震災復旧支援緊急事業	漁協	被災したサケふ化場21施設のうち、15施設の応急復旧を実施 ・応急復旧施設数：17施設(うち、ふ化場施設15ヶ所) ・H24年春季稚魚生産数：250百万尾(県全体)	応急復旧施設数(サケふ化場)	15	施設	15	100.0%	A
				H24年春季稚魚生産数(県全体)	250	百万尾	290	116.0%	A
9	岩手県水産技術センター施設災害復旧事業	県	被災した種市研究室と大船渡研究室の応急復旧を実施し、H23年度にウニの種苗生産を一部再開。また、H25年度末までに施設の本復旧を実施 【H26年度生産目標】 ・ウニ種苗生産数：250万個(供給) ・アワビ種苗生産数：500万個(生産)	整備完了施設数	2	施設	2	100.0%	A
				ウニ種苗供給数	200	万個/年間	240	120.0%	A
				アワビ種苗生産数	100	万個/年間	120	120.0%	A
10	養殖用種苗供給事業	県、漁協等	養殖業の再開に向け、ワカメ・コンブ種苗を県が委託生産して供給するほか、漁協によるコンブ・ホタテガイ・カキ種苗の一括購入と漁業者への供給を支援 ・種苗供給数(委託生産) ワカメ：2,028千m コンブ：24千m	ワカメ種苗供給数(委託生産)	2,028	km	2,028	100.0%	A
				コンブ種苗供給数(委託生産)	24	km	24	100.0%	A
11	漁場復旧支援事業	県漁連	被災した漁業者を雇用して行う漁場の海底・資源量調査や、定置網・養殖施設等の整備に係る漁場復旧計画を策定 ・漁場復旧計画策定：17漁協	定置・養殖漁場海底調査数	125	漁場	125	100.0%	A
				漁場復旧計画策定数	17	漁協	17	100.0%	A
12	漁場復旧対策支援事業	県漁連	漁業者グループによる漁場に堆積、漂着した瓦礫等の回収処理を支援 ・延べ活動者数：208千人・日	延べ活動者数	208,000	人・日	173,683	83.5%	B
13	復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数(全業種)	625	企業	495	79.2%	C
				二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
14	さけ、ます種苗生産施設等復興支援事業	漁協	被災したサケふ化場等を復旧・整備 ・サケ稚魚生産数：400百万尾(H25県全体)	サケ稚魚生産数(H25年度県全体)	400	百万尾/年間	390	97.5%	B
15	水産業経営基盤復旧支援事業(種苗生産施設)	漁協等	漁協等のアワビ等種苗生産施設を復旧・整備 【H26年度生産目標】 ・アワビ種苗生産数：390万個(生産)	施設整備数	3	箇所	3	100.0%	A

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
16	漁業担い手確保・育成総合対策事業	県	定置網漁業と養殖業の再開及び担い手の確保・育成に必要な事業を、被災失業者を雇用する漁協で実施(県から漁協への委託事業) ・事業実施漁協数 21漁協	事業実施漁協数	21	漁協	15	71.4%	C
17	漁業担い手確保・育成総合対策事業(新規就業対策)	県	震災による漁業者の減少に対応するため、漁協が自営する定置網漁業や養殖業に新規就業者を雇用するなど将来の担い手を育成するための取組を支援	新規就業者の雇用	3	人	0	0.0%	D
18	地域再生営漁計画推進事業	県、漁協	漁業、養殖業の生産回復を図るため、各漁協が行う、地域漁業の将来像とその実現に向けた工程を内容とする計画づくりを支援 ・計画策定漁協数: 24漁協	地域再生営漁計画の策定	7	漁協	3	42.9%	D
19	水産団体機能回復支援事業	水産加工協等	被災した水産加工業協同組合等の事務所機能を回復するため、事務機器等を整備するほか、沿海4地区の地域水産加工業復興計画を策定 ・事務所機能回復: 14団体 ・地域水産加工業復興計画の策定: 4地区	事務所機能回復団体数	14	団体	14	100.0%	A
20	産地魚市場緊急支援事業	市町村、漁協等	産地魚市場の再開に必要な鮮度管理用機器・機材を整備 ・整備市場数: 6市場	整備市場数	6	市場	6	100.0%	A
21	製氷保管施設等早期復旧支援事業(うち製氷・貯氷施設回復支援事業)	市町村、漁協等	産地魚市場で使用する水の製氷・貯氷施設を復旧・整備 ・復旧施設数: 14箇所	復旧施設数	14	箇所	14	100.0%	A
22	水産業共同利用施設復旧支援事業(再掲)	市町村、漁協・水産加工協等	漁協等が有する共同利用施設の早期復旧、使用再開に必要な機器等の整備や施設の修繕を支援 ・復旧施設数: 187箇所	施設修繕数	187	箇所	193	103.2%	A
23	水産業経営基盤復旧支援事業(共同利用施設)	漁協等	漁協等が有する共同利用施設の復旧・整備を支援 ・復旧施設数: 140箇所	復旧施設数	140	箇所	141	100.7%	A
24	水産業共同利用施設災害復旧事業	水産業協同組合、市町村	被災した加工施設等共同利用施設の復旧を支援	復旧施設数	6	箇所	6	100.0%	A
25	魚価安定緊急対策事業	水産加工協	東日本大震災津波で失われた本県の凍結・冷凍保管能力を緊急に補充し、平成23年の漁期中に冷凍保管できなかった水産物を県内外の冷凍倉庫に移動し、平成24年の漁期前までに産地にひき戻し、魚価安定と加工原料の安定確保を支援	県内外の冷凍倉庫の活用(一時保管する冷凍水産物)	31	千トン	60	193.5%	A
26	中小企業被災資産修繕事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の現有店舗・工場等の修繕に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		社	427	-	-
				補助金額		千円	762,357	-	-
27	中小企業被災資産復旧事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の店舗・工場等の復旧に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		社	274	-	-
				補助金額		千円	446,776	-	-
28	中小企業等復旧・復興支援事業	民間企業	被災した複数の中小企業等が一体となって行う施設・設備の復旧・整備に要する経費に対して補助	補助件数		者	1,244	-	-
				補助金額		百万円	78,127	-	-
29	復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数(全業種)	625	企業	495	79.2%	C
				二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
30	中小企業高度化資金貸付金(被災中小企業施設・設備整備支援事業)	中小企業基盤整備機構、県、いわて産業振興センター	復興事業計画の認定を受けた被災中小企業等の施設・設備整備に対し、中小企業基盤整備機構と県が協調し、いわて産業振興センターを通じた資金貸付を実施	貸付額(全業種)	110	億円	145	131.8%	A
31	中小企業災害復旧資金貸付金	県	事業所等が罹災した中小企業者で罹災証明書の発行を受けた方に対して、長期・低利の貸付を実施	融資額(全業種)	48	億円	49	102.1%	A
32	中小企業災害復旧資金保証料補給事業	県	災害復旧資金を利用する中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	215,253	千円	99,099	46.0%	D
33	中小企業経営安定資金貸付金(災害対策)	県	経営環境が悪化している中小企業者に対して運転資金の貸付を実施 ・経営安定資金融資枠総額: 200億円(H24当初)	融資額(全業種)	323	億円	184	57.0%	D
34	岩手県制度融資の特例措置	県	資金繰りに支障を来す恐れのある中小企業者に対して岩手県制度融資の条件変更(返済期間を最長3年延長)に関する特例措置を実施	保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		件	3,010	-	-
				保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		億円	409	-	-

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
35	中小企業東日本大震災復興資金貸付金	県	中小企業者に対して経営の安定に必要な資金の貸付を実施 ・融資枠：500億円	融資額(全業種)	1,531	億円	1,506	98.4%	B
36	中小企業東日本大震災復興資金保証料補給事業	県	東日本大震災復興資金を利用する直接被害を受けた中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	2,049,971	千円	1,914,674	93.4%	B
37	小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置	国、県、いわて産業振興センター	直接被災した企業を対象に小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置を実施 ・新規導入設備の貸与期間2年間延長 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ	貸付・貸与額	1,019	百万円	921	90.4%	B
38	小規模企業者等設備導入資金貸付事業の償還免除	国、県、いわて産業振興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	16	社	16	100.0%	A
				償還免除	5.9	百万円	6	100.0%	A
39	地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置	県、いわて産業振興センター	直接被災した企業を対象に地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置を実施 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ ・貸付条件の拡大措置を実施 ・据置期間の1年間延長	貸付額	2,397	百万円	1,691	70.5%	C
40	地域産業活性化企業設備貸与事業の償還免除	県、いわて産業振興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	14	社	14	100.0%	A
				償還免除	11.1	百万円	11	100.0%	A
41	被災工場再建支援事業	市町村	沿岸地域において被災した、従業員30名以上の工場等の再建に対して行う市町村の補助事業に、その経費の一部を補助	補助事業による工場等再建	1	件	0	0.0%	D
42	企業立地促進資金貸付金	県	県内に工場等を新設・増設する場合、必要な資金を融資 ・貸付限度額：3億円(地域等による加算あり) ・貸付利率：10年以内 年1.8%、10年超15年以内 2.0%	資金貸付による工場再建等	5	件	0	0.0%	D
43	原発放射線影響対策事業(再掲)	県、市町村、関係団体等	放射性物質に係る安全対策と風評被害を払拭するための取組を推進 ・県産農林水産物等の放射性物質の測定調査等の実施 ・風評被害防止のための県内外への情報発信	県産農林水産物検査計画作成回数	11	回	11	100.0%	A
44	いわてブランド再生推進事業	県	県産農林水産物の販路の回復・拡大を図るため、全国の消費者を対象として、県産農林水産物の安全・安心を発信するとともに、バイヤー等を対象とした商談会・産地見学会等を開催	商談会等の開催による取引成約率	40	%	43	107.5%	A
				商談会等の開催回数	9	回	18	200.0%	A
45	水産加工事業者生産回復支援事業	県	民間水産加工事業者の機器類の整備を行い、水産物の加工流通の回復を促進 ・対象事業者数：107社	対象事業者	80	社	107	133.8%	A
46	産地パワーアップ復興支援事業	県	震災による壊滅的な被害を受けた沿岸域の食品事業者を中心に、各事業者の事業形態・ニーズに合わせ、アドバイザー等による品質管理指導、商品開発、販売ルート開発を支援し、被災前よりも強い食財供給体制を構築	延べ支援被災事業者数	18	社	34	188.9%	A
47	高度衛生品質管理型水産物生産加工体制構築支援事業	市町村、漁協、民間企業等	地場原料の確保や、漁獲から流通、加工まで一貫した高度衛生・品質管理のサプライチェーンの構築を支援 ・高度衛生品質管理計画の策定：10市町村 ・地場原料安定確保に取り組む魚市場：5市場 ・高度衛生品質管理に基づく新商品開発：24件	高度衛生品質管理計画の策定	2	市町村	3	150.0%	A
				地場原料安定確保の取組	5	市場	2	40.0%	D
				高度衛生品質管理に基づく新商品開発	12	件	2	16.7%	D
48	いわて農商工連携ファンド事業	県、いわて産業振興センター	いわて農商工連携ファンド等により農林漁業者と中小企業者との連携による新たな事業展開や、農林水産物の加工や流通・販売等に取り組むモデル作りを支援	いわて農商工連携ファンドの採択事業者数	23	事業	27	117.4%	A
49	いわて農林水産ブランド輸出促進事業	県	本格的な販路拡大支援に向けた基盤の整備を目的に、これまでの販路確保や継続取引に向けた取組を推進 ・被害企業支援：3社/年	支援被災事業者数	9	社	11	122.2%	A
50	いわて食財販路回復・拡大推進事業	県	生産・製造体制の回復前に従前の販路の回復や新たな販路の開拓を図るため、国内都市部(東京、名古屋等)における復興支援フェアを開催し、マーケットに対する県産食財をPR	フェア等の開催回数	9	回	12	133.3%	A
51	いわてフードコミュニケーション推進事業	県	「食の安全・安心」を基本とし、本県の特徴ある食材や資源を活用した新しいビジネス展開や販路開拓の活発化を促進し、本県食産業を高い付加価値生産性を持つ総合産業として育成	商談会開催	11	回	13	118.2%	A
52	漁港災害復旧事業(災害廃棄物等撤去)	県	津波により航路・泊地に堆積した災害廃棄物等を撤去 ・災害廃棄物撤去：31漁港	災害廃棄物撤去漁港数	31	漁港	31	100.0%	A

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
53	漁場復旧対策支援事業	県	津波により漁場に堆積・浮遊している災害廃棄物を撤去 ・区画漁業権設定地区：143地区	災害廃棄物撤去地区数	143	地区	143	100.0%	A
54	漁業用施設災害復旧事業 (災害廃棄物等撤去)	県	津波によりウニ・アワビ増殖溝に堆積した災害廃棄物等を撤去 ・災害廃棄物撤去：11地区	災害廃棄物撤去地区数	11	地区	11	100.0%	A
55	漁港災害復旧事業(漁港施設等応急復旧)	県	津波により被災した岸壁の仮嵩上げ、破壊した防潮堤の仮締切などの応急的な復旧を実施 ・岸壁等の応急復旧工事：9漁港海岸	防潮堤仮締切漁港海岸数	9	漁港海岸	9	100.0%	A
56	県単独漁港災害復旧事業 (臨港道路等応急復旧)	県	津波により被災した臨港道路や漁港用地などの応急的復旧を実施(被災した漁港施設や海岸保全施設等の復旧のうち、国の災害復旧事業の対象外である小規模な復旧等が対象) ・臨港道路補修など応急的復旧：31漁港	応急復旧実施漁港数	31	漁港	31	100.0%	A
57	漁港関係災害関連事業(汚水処理施設等応急復旧)	市町村	被災した漁業集落排水施設等について、仮設処理水槽の設置などの応急的復旧を実施 ・汚水処理施設等の応急工事：18箇所	応急復旧実施箇所数	18	箇所	18	100.0%	A
58	漁港災害復旧事業(漁港施設等本復旧)	県	津波により被災した防波堤や岸壁など漁港施設等の本格的な復旧を実施 ・防波堤や岸壁等の本復旧：31漁港	工事着工漁港数	31	漁港	31	100.0%	A
				工事完了漁港数	12	漁港	8	66.7%	C
59	漁港機能復旧事業(漁港用地等本復旧)	県、市町村	被災した漁港用地などの本格的な復旧を実施 ・漁港施設用地嵩上げなどの復旧：29漁港	工事着工漁港数	29	漁港	29	100.0%	A
				工事完了漁港数	3	漁港	3	100.0%	A
60	県単独漁港災害復旧事業 (漁港施設等本復旧)	県	被災した漁港施設や海岸保全施設等の復旧のうち国の災害復旧事業の対象外である小規模な復旧等を実施 ・災害復旧事業対象外の復旧等：31漁港	工事着工漁港数	31	漁港	31	100.0%	A
				工事完了漁港数		漁港	-	-	-
61	漁業用施設災害復旧事業 (漁場施設等本復旧)	県	被災した水産物増殖場などの漁場施設の調査や本格的な復旧を実施 ・増殖場の復旧：32地区	工事着工地区数	32	地区	32	100.0%	A
				工事完了地区数	21	地区	32	152.4%	A
62	漁港災害復旧事業(海岸保全施設等本復旧)	県	被災した海岸保全施設等の本格的な復旧を実施 ・防潮堤等海岸保全施設復旧：25海岸	工事着工漁港海岸数	25	漁港海岸	19	76.0%	C
				工事完了漁港海岸数	1	漁港海岸	1	100.0%	A
63	漁港関係災害関連事業(汚水処理施設本復旧)	市町村	被災した漁業集落排水施設の本格的な復旧を実施 ・汚水処理施設の復旧：17箇所	工事着工施設数	17	施設	17	100.0%	A
				工事完了施設数	17	施設	17	100.0%	A
64	漁業集落防災機能強化事業	市町村	漁港の背後集落において、今回の大震災を踏まえた防災・減災対策の見直しを行い、災害に強い安全・安心な居住地を確保 ・漁業集落の地盤嵩上げ等による用地造成 ・漁業集落排水施設や集落道・避難地等の生活基盤整備、漁港との連絡道の整備 ・高台等の避難地、避難路等の防災安全施設の整備等	事業実施集落数(累計)	54	集落	54	100.0%	A
				高所移転等住家数(累計)	39	戸	75	192.3%	A
65	水産基盤整備事業	県	地域の防災対策や地域づくり、水産業再生の方向を踏まえた防波堤や岸壁など漁港施設や漁場施設等の復興に資する整備を実施	工事着工漁港数	10	漁港	9	90.0%	B
				工事完了漁港数	2	漁港	2	100.0%	A
66	海岸保全施設整備事業	県	地域の防災対策や地域づくり等を踏まえた防潮堤の嵩上げや避難路など海岸保全施設の整備を実施	工事着工漁港海岸数	12	漁港海岸	1	8.3%	D
				工事完了漁港海岸数		漁港海岸	-	-	-
67	被災農家経営再開支援事業	市町村、県	被災した農地の復旧作業を共同で行う農業者に対して、復興組合等を通じてその活動を支援【陸前高田市ほか10市町】 ・被災農地経営再開面積：525ha	復興組合設立数	25	組合	25	100.0%	A
				復興組合による経営再開面積	525	ha	315	60.0%	C
68	農地等災害復旧事業	県	被災した県有施設のほか、甚大な被害を受けた沿岸8市町村の農地・農業用施設の復旧を実施【陸前高田市ほか7市町村】 ・復旧面積：443ha	応急復旧実施箇所数	13	箇所	13	100.0%	A
				本復旧面積	264	ha	212	80.3%	B
69	団体営農地等災害復旧事業	市町村、土地改良区	市町村等が事業主体となって実施する、被災した農地・農業用施設の復旧を支援【一関市ほか11市町村】 ・復旧箇所：545箇所	応急復旧実施箇所数	304	箇所	304	100.0%	A
				本復旧実施箇所数	545	箇所	545	100.0%	A

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
70	小規模農地等災害復旧事業	市町村、土地改良区等	被災した農地・農業用施設について、国の災害復旧事業制度の対象とならない小規模な災害復旧を支援【奥州市ほか3市町】 ・復旧箇所：980箇所	復旧箇所数	980	箇所	991	101.1%	A
71	土地改良区機能回復支援事業	土地改良区	震災によって事務所等が被災した土地改良区機能の早期回復に必要な事務所やデータ等の復旧及びO A機器等の整備を支援 ・土地改良区の機能回復：5土地改良区	機能回復土地改良区数	5	土地改良区	5	100.0%	A
72	東日本大震災農業生産対策事業（共同利用施設等）	市町村、農協等	被災した農業関連の共同利用施設等の復旧や共同利用農業機械等の導入を支援【大船渡市、奥州市ほか24市町村】 ・復旧施設：74箇所	復旧施設数	74	箇所	93	125.7%	A
				営農再開（農業機械等導入）地区数	34	地区	73	214.7%	A
73	農業共同利用施設災害復旧事業	農協、市町村	被災した農協等が所有する共同利用施設の復旧を支援	復旧施設数	20	箇所	20	100.0%	A
74	卸売市場施設災害復旧事業	市場開設者	被災した卸売市場の復旧 ・復旧対象施設：3市場	復旧施設数	3	市場	3	100.0%	A
75	海岸保全施設災害復旧事業	県	被災した農地海岸保全施設に係る、応急的な復旧や、新たな基準に基づく海岸堤防の復旧・整備を実施【陸前高田市（小友海岸）ほか5市町村（9海岸）】 ・海岸堤防の応急復旧：1,147m ・海岸堤防の本復旧：3,238m	応急復旧延長	1,147	m	1,147	100.0%	A
				工事着工農地海岸数	10	農地海岸	10	100.0%	A
				工事完了農地海岸数	3	農地海岸	2	66.7%	C
76	復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数（全業種）	625	企業	495	79.2%	C
				二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
77	原発放射線影響対策事業	県、市町村、関係団体等	放射性物質に係る安全対策と風評被害を払拭するための取組を推進 ・県産農林水産物等の放射性物質の測定調査等の実施 ・風評被害防止のための県内外への情報発信	県産農林水産物検査計画作成回数	11	回	11	100.0%	A
78	県産牛肉安全安心確認緊急対策事業	生産者、集出荷団体、農協等	安全安心な県産牛肉の供給体制を確保するため、県内外に出荷される県産牛全頭の放射性物質検査に係る経費を助成するとともに、県産牛に対する消費者の不安等を解消するため、風評被害防止対策を実施	牛肉の放射性物質枝肉検査割合	100	%	100	100.0%	A
79	放射性物質被害畜産総合対策事業	県、市町村、岩手県農業公社	県産牛肉、牛乳の安全性を確保するため、県内産粗飼料の放射性物質調査の実施、牧草地の除染、牧草等の処分、廃用牛の適正出荷等に対する支援 ・牧草地の除染 13,350ha	牧草地の除染	13,350	ha	10,037	-	-
80	原木しいたけ経営緊急支援事業	県、市町村、関係団体等	放射性物質の影響を受けた原木しいたけ産地の再生に向け、生産者の経営支援資金の供給、基準値を越えた原木・ほだ木の処分等の対策を実施	ほだ木更新	-	千本	-	-	-
				ほだ場の除染	-	m ²	-	-	-
81	トモロコシ転換緊急支援事業	県、岩手県農業公社、作業請負組織	放射性物質により影響を受けた酪農家の不安を払しょくするとともに、飼料生産コントラクターなどの外部支援組織を育成・強化するため、作業機械などの整備を支援	外部支援組織の作業受託拡大面積	23	ha	40	173.9%	A
82	特用林産施設等体制整備事業（原木しいたけ再生産促進事業）	市町村	放射性物質の影響により出荷制限が指示されている市町村において、制限解除後の再生産を図るため、人工ほだ場及び簡易ハウスの設置を支援	人工ほだ場	1	棟	0	0.0%	D
				簡易ハウス	6	棟	6	100.0%	A
83	いわてブランド再生推進事業	県	県産農林水産物の販路の回復・拡大を図るため、全国の消費者を対象として、県産農林水産物の安全・安心を発信するとともに、バイヤー等を対象とした商談会・産地見学会等を開催	商談会等の開催による取引成約率	40	%	43	107.5%	A
				商談会等の開催回数	9	回	18	200.0%	A
84	被災地域農業復興総合支援事業（整備事業）	市町村	被災市町村が復興プランに掲げた農業復興を実現するために行う被災農業者等への貸与等を目的とした農業用施設・機械の整備（所有権は市町村）を支援【対象地域：被災市町村】	事業実施地区数	10	地区	9	90.0%	B
85	東日本大震災農業生産対策事業（生産技術実証・普及等）	県	営農再開に向けた津波浸水農地の土壌診断や被災農業者への相談・指導活動を実施するほか、生産性の高い産地形成に向けたモデル経営体の育成、新規品目等の生産技術の実証・普及を実施【実証展示圃設置：大船渡・宮古・久慈地域】 ・土壌分析面積：717ha	土壌分析実施面積	437	ha	405	92.7%	B
86	被災者農業雇用支援事業	県	経営の規模拡大や多角化を志向する農業生産法人等の労働力の確保と被災者の雇用機会を創出するため、被災職者を雇用し農業生産法人等に農作業の繁閑に応じて派遣する事業者を支援 ・被災者雇用：20人	被災者等雇用数	20	人	20	100.0%	A

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
87	いわての農林水産物まるごと展開事業（いわて純情米マーケティング戦略展開事業）	県、いわて純情米需要拡大推進協議会	農林水産物の生産体制の復旧・復興と歩調を合わせた安定的な販路の確保のため、県産米の取扱数量の拡大及び多様な販売先の確保対策等を実施 ・フェア等開催：3回/年	フェア等の開催回数	9	回	9	100.0%	A
88	いわての農林水産物まるごと展開事業（いわて純情園芸産品販売戦略展開事業）	県、岩手県青果物生産出荷安定協議会	農林水産物の生産体制の復旧・復興と歩調を合わせた安定的な販路の確保のため、県産園芸産品の消費者等へのPR活動や産地と実需者との結びつきの強化等による評価向上と販路拡大を推進 ・フェア等開催：3回/年	フェア等の開催回数	10	回	11	110.0%	A
89	いわての農林水産物まるごと展開事業（いわて畜産物ブランド強化対策事業）	県、いわて牛普及推進協議会	農林水産物の生産体制の復旧・復興と歩調を合わせた安定的な販路の確保のため、県産牛肉の販売促進やPR活動を実施 ・フェア等開催：3回/年	フェア等の開催回数	10	回	12	120.0%	A
90	いわて地域農業マスタープラン実践支援事業	集落営農組織、3戸以上の農家が組織する団体、市町村、農協等	地域農業マスタープラン等の実践のため、認定農業者や集落営農組織等の経営の高度化や園芸・畜産等の産地の拡大に必要な機械・施設等の整備、大規模園芸経営体を育成するための園芸施設の整備を支援	沿岸地域における機械・施設の整備	22	件	22	100.0%	A
				沿岸地域における基盤整備	1	件	2	200.0%	A
91	園芸産地新生プロジェクト推進事業	農協、岩手県農業公社、産産開発公社、担い手組織等	園芸産地の生産力やブランド力を高めるため、消費者ニーズの把握やニーズに基づく生産・販売方式の改善等を行う産地マネジメントの仕組みづくりを支援 事業実施地区：5地区/年（うち、沿岸部 1地区/年）	被災地域における事業実施地区数	1	地区	1	100.0%	A
92	被災地域農業復興総合支援事業（推進事業）	市町村	被災地域農業復興総合支援事業（整備事業）に関連して、生産者等が実施する加工品開発など試行的な取組を支援【対象地域：被災市町村】	事業実施地区数		地区	-	-	-
93	がんばろう！岩手・農村起業復興支援事業	県	被災地域で農村起業活動を行う経営体等が、被災者を雇用して行う地域ビジネスのモデル的な取組を支援【大船渡・宮古・久慈地域】 ・被災者雇用者：11人	延べ被災者雇用者数	22	人	23	104.5%	A
94	いわて農林水産業6次産業化チャレンジ支援事業	県	県内における、農林水産業を基盤とした、新たに加工・流通業などの6次産業化の取組を、新規雇用により展開する農林漁業者等を支援	延べ雇用者数	30	人	30	100.0%	A
95	いわて農林水産業6次産業化スタートアップ支援事業	県	県内における、農林漁業者等が新たな雇用を創出して行う、6次産業化のモデル的な取組を支援	延べ雇用者数	19	人	20	105.3%	A
96	いわて農林水産業6次産業化沿岸復興支援事業	県	農林水産関係の法人や民間企業等が被災地の復興や営業活動の再開に向け、新たな雇用を行い、加工・流通販売への進出や他産業と連携したビジネス展開など、6次産業化のモデル的な取組を支援	延べ雇用者数	40	人	49	122.5%	A
97	いわて農林水産業6次産業化推進事業	県	新たな経営手法や他産業と連携したビジネスを生み出す6次産業化の取組を推進し、収益力強化とビジネスの拡大を支援	食のプロフェッショナルチームによる延べ支援件数	523	件	543	103.8%	A
98	いわて農林水産業6次産業化ステップアップ支援事業	県	震災や風評被害により落ち込んでいる本県農林水産物の販路の回復・拡大を図るため、生産者等が行う6次産業化の先進的な取組を支援	支援事業者数	20	者	5	25.0%	D
				新規雇用人数	30	人	8	26.7%	D
99	団体営災害関連事業	市町村	市町村が事業主体となって実施する、被災した農業集落排水施設の復旧を支援【陸前高田市ほか7市町村】 ・復旧箇所：19箇所	応急復旧実施箇所数	4	箇所	4	100.0%	A
				本復旧箇所数	19	箇所	19	100.0%	A
100	農用地災害復旧関連区画整理事業	県	生産性・収益性の高い農業の実現のため、災害復旧と併せて圃場等を整備【大船渡市ほか6市町村】 ・区画整理面積：306ha	区画整理面積	131	ha	138	105.3%	A
101	中山間地域総合整備事業	県	県営事業実施中に被災した農地・農業施設の復旧を実施するとともに、生産性の高い圃場等を整備【陸前高田市（広田地区）、野田村（野田地区）】 ・区画整理面積：21ha	区画整理面積	16	ha	11	68.8%	C
102	団体営畜産経営環境整備事業	岩手県農業公社	沿岸地域の畜産物の生産拡大を図るため、新たな畜舎整備を支援	豚舎整備数	7	棟	7	100.0%	A
				鶏舎整備数	14	棟	12	85.7%	B
103	三陸みらい園芸産地づくり交付金事業	農業者で組織する団体等	夏季冷涼で冬季温暖な三陸地域の気象条件を活かした、高収益施設園芸品目（トマト、いちご等果菜類、ほうれんそう等）の生産拠点の整備を支援 ・沿岸広域局：4団地 ・県北広域局：2団地	施設園芸団地整備数	5	団地	1	20.0%	D
104	次世代農業技術開発拠点整備事業	県	三陸沿岸地域ならではの施設園芸産地づくりを進めるため、先進的な施設園芸技術の研究開発拠点を再整備 ・研究拠点施設・備品整備：一式	施設整備	1	箇所	1	100.0%	A

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
105	山と里と人に優しいいわてのふるさと産業育成支援事業	県、市町村、農協等	森林資源等を活用した園芸用施設のモデルの確立・普及を図るため、間伐材利用ハウスや木材用簡易暖房器の改良を実施 ・間伐材利用ハウスや木材用簡易暖房器の開発・改良 ・モデル地区 3カ所	間伐材利用ハウスや木材用簡易暖房器の改良	1	式	1	100.0%	A
				モデル地区	1	か所	1	100.0%	A
106	海岸高潮対策事業	県	県営事業実施中に被災した農地海岸保全施設の復旧を実施するとともに、背後地を保全する海岸堤防を整備【野田村(野田海岸)】 ・海岸堤防整備延長: 35m ・陸間: 1箇所	海岸堤防整備延長		m	-	-	-
				陸間整備箇所数		箇所	-	-	-
107	木材供給等緊急対策事業	森林組合 素材生産者、木材加工業者等	早期稼働可能な木材加工施設の再整備等を緊急に支援【宮古市、久慈市】 ・木材加工施設の廃業・復旧・整備: 3事業体 ・木質バイオマス関連施設整備: 1事業体 ・原木等流通量: 129千m ³	木材加工施設整備事業体数	3	事業体	3	100.0%	A
				木質バイオマス関連施設整備事業体数	1	事業体	1	100.0%	A
				原木等流通支援量	129	千m ³	130	100.8%	A
108	森林整備加速化・林業再生基金事業(県産材活用促進緊急対策)及び木材加工流通施設等復旧対策事業	市町村、木材加工業者等	木質バイオマス資源を活用した地域づくりを促進するため、国が実施した木質系震災廃棄物等の活用可能性調査を踏まえた木質バイオマス利用施設整備を支援	木質バイオマス利用施設整備事業体数	6	事業体	4	66.7%	C
109	森林整備加速化・林業再生基金事業(復興木材安定供給対策・間伐材等流通支援)	森林組合 素材生産者等	原木や原木チップを非被災工場に運搬する経費を支援	原木等流通コスト支援	313	千m ³	242	77.3%	C
110	木材加工流通施設等復旧対策事業	森林組合 木材加工業者等	津波によって流失・損壊した高性能林業機械や、被害が甚大で本格的な復旧が必要な木材加工施設等の修繕・再整備を支援	木材加工施設整備事業体数	10	事業体	8	80.0%	B
				高性能林業機械整備事業体数	2	事業体	2	100.0%	A
111	森林組合機能回復支援事業	森林組合	津波によって事務所等が被災した森林組合機能を早期回復に必要な不可欠な事務所、データの復旧、OA機器等の整備を支援 ・森林組合機能の回復: 4森林組合	機能回復森林組合数	4	森林組合	4	100.0%	A
112	保安林強化事業	県	壊滅的な被害を受けた県有防潮林に堆積した災害廃棄物(瓦礫)や折損木を除去【大船渡市、釜石市ほか10市町村】 ・瓦礫・被害木除去: 45ha	瓦礫・被害木除去面積	45	ha	45	100.0%	A
113	治山災害復旧事業(海岸保全施設応急復旧)	県	大型土のう等設置による海岸保全施設(防潮堤)の応急復旧を実施【野田村(前浜地区)、釜石市(根浜地区)】 ・海岸保全施設(防潮堤)の応急復旧: 851m	応急復旧延長	851	m	851	100.0%	A
114	復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数(全業種)	625	企業	495	79.2%	C
				二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
115	林道災害復旧事業	県、市町村	地震及び津波により被災した林道施設を復旧【奥州市(1路線)ほか6市町(27路線)】 ・林道施設復旧: 5,282m	復旧延長	5,282	m	5,282	100.0%	A
116	原木しいたけ生産復旧事業	県、市町村、生産者	しいたけ主産地である被災沿岸地域の生産力を回復させるため、津波により生産基盤を失った生産者の復旧を支援。また、漁業者の複合経営による参入を促進するため、しいたけの生産基盤の整備を支援	しいたけほだ木復旧支援事業体数	5	事業体	5	100.0%	A
				乾燥機復旧支援事業体数	4	事業体	4	100.0%	A
117	森林整備事業	市町村、森林組合等	地震火災の延焼により発生した林野火災の跡地への造林等を支援	造林面積	6	ha	9	150.0%	A
118	治山災害復旧事業(海岸保全施設本復旧)	県	被災した海岸保全施設(防潮堤・防潮護岸)の本復旧を実施【野田村(前浜地区)ほか3市町(3地区)】 ・海岸保全施設の本復旧: 4地区	工事着工地区数	4	地区	4	100.0%	A
				工事完了地区数	2	地区	2	100.0%	A
119	治山災害復旧事業(その他治山施設復旧)	県	被災した、その他治山施設の復旧工事を実施【奥州市(重染寺地区)ほか7市村(13地区)】 ・治山施設の復旧: 14地区	復旧施設数	14	箇所	14	100.0%	A
120	治山事業(災害関連緊急治山)	県	【新生崩壊地復旧】 山腹崩壊した箇所の復旧工事を実施【一関市(小名沢地区・萱刈地区)】 ・崩壊地の復旧面積: 0.09ha	復旧面積	0.09	ha	0	100.0%	A
121	県単独治山事業(災害関連緊急治山)	県	【新生崩壊地復旧】 山腹崩壊箇所のうち、規模等から国庫事業の対象外で緊急を要する箇所の復旧工事を実施【二戸市(館地区)】 ・崩壊地の復旧面積: 0.01ha	復旧面積	0.01	ha	0	100.0%	A

事業概要及び実績(3-1 水産業・農林業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
122	県単独治山事業（施設維持補修）	県	【その他の治山施設復旧】 津波・地震によって破壊された治山施設で規模等から国庫事業の対象外となる箇所について、復旧工事を実施【奥州市（中山地区）ほか10市町村（24地区）】 ・治山施設の復旧：25地区	復旧施設数	22	箇所	14	63.6%	C
123	防災林造成事業	県	津波によって破壊された防潮林を再生【津波被災防潮林4地区（宮古市（拱待地区）ほか1市2町（3地区））】 ・防潮林再生面積：7ha （※再生すべき防潮林を精査のうえ事業実施）	工事着工地区数	4	地区	3	75.0%	C
				工事完了地区数			地区	-	-

3-II 商工業

80 事業(74 指標)

事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
			項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1 復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数(全業種)	625	企業	495	79.2%	C
			二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
2 仮施設設置備事業	中小企業基盤整備機構、市町村、県	市町村からの要請に基づき中小機構が仮施設(店舗・事務所・工場等)を整備し、市町村を通じて事業者に貸与する制度の利活用を支援	制度の利用促進を図るための周知等	12	市町村	13	108.3%	A
			事業開始決定箇所		箇所	361	-	-
			完成箇所		箇所	358	-	-
3 広域振興事業	県	震災からの復旧・復興に係る事業で、広域振興局が実施する広域振興圏単位の課題を解決するための先駆的事業を広域振興事業として実施 ・4広域振興圏を対象 ・3~5事業程度/年	広域圏の産業振興	683,229	千円	672,956	98.5%	B
4 地域経営推進費事業	県、市町村	震災からの復旧・復興に係る事業で、広域振興局等が実施する産業振興、風評被害等に対応する事業を地域経営推進費事業として実施 ・4広域振興圏及び市町村を対象 ・200事業程度/年(全県)	産業振興・地域課題解決のための事業	1,340,000	千円	1,310,028	97.8%	B
5 中小企業高度化資金貸付金(被災中小企業施設・設備整備支援事業)	中小企業基盤整備機構、県、いわて産業復興センター	復興事業計画の認定を受けた被災中小企業等の施設・設備整備に対し、中小企業基盤整備機構と県が協調し、いわて産業復興センターを通じた資金貸付を実施	貸付額(全業種)	110	億円	145	131.8%	A
6 中小企業災害復旧資金貸付金	県	事業所等が罹災した中小企業者で罹災証明書の発行を受けた方に対して、長期・低利の貸付を実施	融資額(全業種)	48	億円	49	102.1%	A
7 中小企業災害復旧資金保証料補給事業	県	災害復旧資金を利用する中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	215,253	千円	99,099	46.0%	D
8 中小企業経営安定資金貸付金(災害対策)	県	経営環境が悪化している中小企業者に対して運転資金の貸付を実施 ・経営安定資金融資枠総額:200億円(H24当初)	融資額(全業種)	323	億円	184	57.0%	D
9 岩手県制度融資の特例措置	県	資金繰りに支障を恐れるのある中小企業者に対して岩手県制度融資の条件変更(返済期間を最長3年延長)に関する特例措置を実施	保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		件	3,010	-	-
			保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		億円	409	-	-
10 中小企業東日本大震災復興資金貸付金	県	中小企業者に対して経営の安定に必要な資金の貸付を実施 ・融資枠:500億円	融資額(全業種)	1,531	億円	1,506	98.4%	B
11 中小企業東日本大震災復興資金保証料補給事業	県	東日本大震災復興資金を利用する直接被害を受けた中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	2,049,971	千円	1,914,674	93.4%	B
12 被災地復興支援助成事業	さんりく基金	被災事業者の事業再開に要する経費(営業用設備、備品、什器等の購入費用等)及び被災地の元気回復のための事業に要する経費について助成	被災事業者への直接助成	260,761	千円	129,019	49.5%	D
			商工会・商工会議所が行う事業への助成	365,663	千円	311,138	85.1%	B
			被災地を元気にするソフト事業への助成、スポーツ少年団等を対象とするユニフォーム購入等の助成	72,642	千円	98,495	135.6%	A
13 小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置	国、県、いわて産業復興センター	直接被災した企業を対象に小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置を実施 ・新規導入設備の貸与期間2年間延長 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ	貸付・貸与額	1,019	百万円	921	90.4%	B
14 小規模企業者等設備導入資金貸付事業の償還免除	国、県、いわて産業復興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	16	社	16	100.0%	A
			償還免除	5.9	百万円	6	100.0%	A
15 地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置	県、いわて産業復興センター	直接被災した企業を対象に地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置を実施 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ ・貸付条件の拡大措置を実施 ・据置期間の1年間延長	貸与額	2,397	百万円	1,691	70.5%	C

事業概要及び実績(3-II 商工業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
16	地域産業活性化企業設備貸与事業の償還免除	県、いわて産業振興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除（債権放棄）を実施	償還免除	14	社	14	100.0%	A
				償還免除	11.1	百万円	11	100.0%	A
17	中小企業被災資産修繕事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の現有店舗・工場等の修繕に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		社	427	-	-
				補助金額		千円	762,357	-	-
18	中小企業等復旧・復興支援事業	民間企業	被災した複数の中小企業等が一体となって行う施設・設備の復旧・整備に要する経費に対して補助	補助件数		者	1,244	-	-
				補助金額		百万円	78,127	-	-
19	事業協同組合等共同施設復旧事業	民間企業	被災した事業協同組合等が行う共同施設等の復旧に要する経費に対して補助	補助件数		組合	6	-	-
				補助金額		百万円	409	-	-
20	被災工場再建支援事業	市町村	沿岸地域において被災した、従業員30名以上の工場等の再建に対して行う市町村の補助事業に、その経費の一部を補助	補助事業による工場等再建	1	件	0	0.0%	D
21	企業立地促進資金貸付金	県	県内に工場等を新設・増設する場合、必要な資金を融資 ・貸付限度額：3億円（地域等による加算あり） ・貸付利率：10年以内 年1.8%、10年超15年以内 2.0%	資金貸付による工場再建等	5	件	0	0.0%	D
22	中小企業被災資産復旧事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の店舗・工場等の復旧に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		社	274	-	-
				補助金額		千円	446,776	-	-
23	商工業小規模事業経営支援事業	商工会等	被災中小企業の要望・課題等に応じた専門家を現地に派遣	専門家派遣回数	60	回	147	245.0%	A
24	被災中小企業重層的支援事業	商工会議所・商工会等	商工会議所・商工会、商工会連合会、中小企業団体中央会、いわて産業振興センターが被災企業の経営計画情報を共有し、各団体が連携して支援事業を重層的に実施	補助金交付団体	8	団体	8	100.0%	A
25	国際経済交流推進事業	県	東アジアをターゲットとした県内企業の海外におけるビジネスチャンスの発掘、海外企業とのビジネスマッチングの支援、海外物産展等による県産品の販路拡大を行い、国際的な事業活動の展開による地域経済の復興を支援	商談会・フェアの開催回数	12	回	15	125.0%	A
26	物産販路開拓事業	県	震災により大きな打撃を受けた本県地場産業の復興支援のため、首都圏等での物産展を通して情報発信し、県産品の販路拡大と事後取引の拡大を支援 ・東京、名古屋、大阪	アンテナショップにおける県産品販売額	2,307	百万円	2,386	103.4%	A
27	いわてブランド再生推進事業	県	放射性物質の影響による風評被害を払拭して、消費者の信頼を回復し、いわてブランドを再生するため、県産品の魅力を消費者に直接届ける等、販売機会の拡大を支援	フェア等の実施	4	回	5	125.0%	A
28	原発放射線影響対策事業	県	放射性物質に係る安全対策と風評被害を払拭するための取組を推進 ・輸出品に関する証明書等発行の円滑な処理	産地証明書発行数(加工食品)		件	645	-	-
29	特区制度等の活用による各種優遇税制措置	国、県、市町村等	復興特区制度等による国税・地方税の優遇税制を活用することにより、新規立地の促進や被災企業等の早期復興を支援	新規立地・増設件数	71	件	99	139.4%	A
30	さんりく未来産業起業促進事業	県	被災地に新たな産業を創出し、雇用拡大と魅力ある産業の創造による地域経済の活性化を図るため、被災者等の起業を支援するとともに、専門家によるきめ細やかな経営指導を実施	起業者	50	人	48	96.0%	B
31	沿岸地域食品事業者復興支援事業	県	沿岸地域において、食品事業者等が行う新商品・サービスの開発や販路開拓等の取組を雇用面で支援 ・新規雇用人数：140名	雇用創出人数	70	人	52	74.3%	C
32	いわてフードコミュニケーション推進事業	県	「食の安全・安心」を基本とし、本県の特徴ある食材や資源を活用した新しいビジネス展開や販路開拓の活発化を促進し、本県食産業を高い付加価値生産性を持つ総合産業として育成	商談会開催	11	回	13	118.2%	A
33	いわて農工商連携ファンド事業	県、いわて産業振興センター	いわて農工商連携ファンド等により農林漁業者と中小企業者との連携による新たな事業展開や、農林水産物の加工や流通・販売等に取り組むモデル作りを支援	いわて農工商連携ファンドの採択事業数	23	事業	27	117.4%	A
34	被災商店街にぎわい支援事業	県	被災商店街の賑わいを回復するため、アドバイザーを派遣して、個店の経営力向上や商店街のコンセプトづくりなどの指導を通じて、新たな商店街の構築に向けた取組を支援 ・個店の魅力や経営力の向上を支援する商店街アドバイザーの派遣 ・まちづくりのビジョンや商店街活性化のコンセプトづくりを支援する商業まちづくりアドバイザーの派遣	コーディネーターの派遣	70	人日	17	24.3%	D
				商店街アドバイザーの派遣	15	人日	15	100.0%	A

事業概要及び実績(3-II 商工業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
35	被災地域商業復興支援事業	民間企業等	被災地の中小小売・サービス業者等が、商業集積運営主体を構成し、地域の商業機能回復のニーズに応えた復興事業計画に基づき実施する施設等の整備に要する経費に対して補助	補助件数		件	0	-	-
				補助金額		百万円	0	-	-
36	復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数(全業種)	625	企業	495	79.2%	C
				二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
37	仮施設整備事業	中小企業基盤整備機構、市町村、県	市町村からの要請に基づき中小機構が仮施設(店舗・事務所・工場等)を整備し、市町村を通じて事業者に貸与する制度の利活用を支援	制度の利用促進を図るための周知等	12	市町村	13	108.3%	A
				事業開始決定箇所		箇所	361	-	-
				完成箇所		箇所	358	-	-
38	中小企業高度化資金貸付金(被災中小企業施設・設備整備支援事業)	中小企業基盤整備機構、県、いわて産業復興センター	復興事業計画の認定を受けた被災中小企業等の施設・設備整備に対し、中小企業基盤整備機構と県が協調し、いわて産業復興センターを通じて資金貸付を実施	貸付額(全業種)	110	億円	145	131.8%	A
39	中小企業災害復旧資金貸付金	県	事業所等が罹災した中小企業者で罹災証明書の発行を受けた方に対して、長期・低利の貸付を実施	融資額(全業種)	48	億円	49	102.1%	A
40	中小企業災害復旧資金保証料補給事業	県	災害復旧資金を利用する中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	215,253	千円	99,099	46.0%	D
41	中小企業経営安定資金貸付金(災害対策)	県	経営環境が悪化している中小企業者に対して運転資金の貸付を実施 ・経営安定資金融資枠総額：200億円(H24当初)	融資額(全業種)	323	億円	184	57.0%	D
42	岩手県制度融資の特例措置	県	資金繰りに支障を来す恐れのある中小企業者に対して岩手県制度融資の条件変更(返済期間を最長3年延長)に関する特例措置を実施	保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		件	3,010	-	-
				保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		億円	409	-	-
43	中小企業東日本大震災復興資金貸付金	県	中小企業者に対して経営の安定に必要な資金の貸付を実施 ・融資枠：500億円	融資額(全業種)	1,531	億円	1,506	98.4%	B
44	中小企業東日本大震災復興資金保証料補給事業	県	東日本大震災復興資金を利用する直接被害を受けた中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	2,049,971	千円	1,914,674	93.4%	B
45	小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置	国、県、いわて産業復興センター	直接被災した企業を対象に小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置を実施 ・新規導入設備の貸与期間2年間延長 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ	貸付・貸与額	1,019	百万円	921	90.4%	B
46	小規模企業者等設備導入資金貸付事業の償還免除	国、県、いわて産業復興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	16	社	16	100.0%	A
				償還免除	5.9	百万円	6	100.0%	A
47	地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置	県、いわて産業復興センター	直接被災した企業を対象に地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置を実施 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ ・貸付条件の拡大措置を実施 ・据置期間の1年間延長	貸与額	2,397	百万円	1,691	70.5%	C
48	地域産業活性化企業設備貸与事業の償還免除	県、いわて産業復興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	14	社	14	100.0%	A
				償還免除	11.1	百万円	11	100.0%	A
49	中小企業被災資産修繕事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の現有店舗・工場等の修繕に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		件	427	-	-
				補助金額		千円	759,747	-	-
50	中小企業等復旧・復興支援事業	民間企業	被災した複数の中小企業等が一体となって行う施設・設備の復旧・整備に要する経費に対して補助	補助件数		件	1,244	-	-
				補助金額		百万円	78,127	-	-

事業概要及び実績(3-II 商工業)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
51	事業協同組合等共同施設復旧事業	民間企業	被災した事業協同組合等が行う共同施設等の復旧に要する経費に対して補助	補助件数		組合	6	-	-
				補助金額		百万円	409	-	-
52	被災工場再建支援事業	市町村	沿岸地域において被災した、従業員30名以上の工場等の再建に対して行う市町村の補助事業に、その経費の一部を補助	補助事業による工場等再建	1	件	0	0.0%	D
53	企業立地促進資金貸付金	県	県内に工場等を新設・増設する場合、必要な資金を融資 ・貸付限度額：3億円（地域等による加算あり） ・貸付利率：10年以内 年1.8%、10年超15年以内 2.0%	資金貸付による工場再建等	5	件	0	0.0%	D
54	中小企業被災資産復旧事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の店舗・工場等の復旧に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		社	274	-	-
				補助金額		千円	446,776	-	-
55	原発放射線影響対策事業	県	放射性物質に係る安全対策と風評被害を払拭するための取組を推進 ・食品、工業製品等の放射性物質の測定調査等の実施	工業製品等の測定回数		回	166	-	-
56	特区制度等の活用による各種優遇税制措置	国、県、市町村等	復興特区制度等による国税・地方税の優遇税制を活用することにより、新規立地の促進や被災企業等の早期復興を支援	新規立地・増設件数	71	件	99	139.4%	A
57	被災ものづくり企業支援サポーターを活用した被災企業支援	県	被災したもののづくり企業の早期回復と復興を図るため、自動車・半導体等各種ネットワークを活用して支援サポーターを募り、沿岸地域の被災企業を支援 ・支援サポーター企業数：60社	支援サポーター企業数	54	社・団体	46	85.2%	B
58	自動車関連産業創出推進事業	県、いわて産業振興センター	本県ものづくり産業の牽引役である自動車関連産業の集積促進を図るため、産学官連携による技術高度化、取引拡大、新規参入等を支援 ・取引件数：65件	新規取引件数	37	件	84	227.0%	A
59	半導体関連産業創出推進事業	県	本県ものづくり産業の牽引役である半導体関連産業の集積促進を図るため、産学官連携による新産業開拓、技術高度化、取引拡大、新規参入等を支援 ・取引件数：65件	新規取引件数	16	件	16	100.0%	A
60	いわてものづくり産業人材育成事業	県	内陸地域と沿岸県北地域とのものづくりネットワーク間の連携を強化し、小中学生から企業人まで、多様で厚みのある産業集積を支える高度な産業人材の育成を支援 ・工業高校における技能士数：3,519人	工業高校における技能士数	1,365	人	1,795	131.5%	A
61	医療機器関連産業創出推進事業	県	本県ものづくり産業の牽引役を目指す医療機器関連産業の集積促進を図るため、産学官連携による技術高度化、医工連携、取引拡大、新規参入等を支援 ・医療機器の開発試作件数：76件	開発試作件数	26	件	26	100.0%	A
62	情報関連産業競争力強化事業	県	ものづくり産業の高付加価値化・高効率化に寄与する情報関連産業の競争力強化を図るため、産学官連携による技術高度化、取引拡大、新規参入等に関する取組を支援 ・新規取引件数：80件	新規取引件数	30	件	31	103.3%	A
63	戦略的知財活用支援事業	国、県	ものづくり産業の技術の高度化や製品の高付加価値化等による競争力の確保、新事業の創出につながるよう、知的財産の活用を支援 ・知財支援総合窓口の沿岸地域企業等支援件数：7,000件（うち沿岸：800件）	知財支援総合窓口の沿岸地域企業等支援件数	400	件	525	131.3%	A
64	市町村復旧緊急支援事業	県	市町村及び市町村長が必要と認める団体が行う東日本大震災津波からの復旧・復興に資する取組に対し支援（補助金交付） ・県内33市町村：補助率1/2（沿岸12市町村は2/3に嵩上げ）	広域圏の振興と市町村との連携強化	214,858	千円	214,858	100.0%	A
65	企業立地促進奨励事業	市町村	知事が認定した企業による工場等の新設・増設に対し市町村が補助する場合に、その経費の一部を補助	計画認定事業所数（年）	32	件	32	100.0%	A
66	人材U・Iターン型企業誘致促進事業	市町村	県出身のUターン者等が勤務する企業の開発拠点設置に対して市町村が補助を行う場合に、その経費の一部を補助	実施事業所数	9	件	6	66.7%	C
67	三次元設計開発人材育成事業	県	三次元設計開発者の育成や県内企業の三次元設計開発技術力の向上を図り、設計開発部門の集積と県内企業の競争力強化を支援 ・人材育成数：800人	人材育成数	369	人	437	118.4%	A
68	ものづくり高度技能者育成支援事業	県	県内の中小企業等が岩手大学大学院金型・鋳造工学専攻に技術者を派遣する経費の一部を支援するほか、被災企業等の技術力・競争力の向上に資する企業人材の育成等を支援 ・企業からものづくり大学院等への派遣者数：30人	人材育成数	15	人	14	93.3%	B
69	ものづくり・ソフトウェア融合技術者養成事業	県	地域の産学官が連携し、「高度開発型のものづくり産業集積」の形成を促進するため、ものづくりとソフトウェアの両面の知識を有する技術者の育成を支援 ・人材育成数：800人	人材育成数	336	人	454	135.1%	A

事業概要及び実績(3-II 商工業)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
70	デュアルシステム型被災者等ものづくり技術習得支援事業	県	沿岸被災地の離職者等を県内企業が一時的に雇用し、職場実習や講義等を組み合わせ、被災者等の生活基盤の安定と被災企業の再建を担うものづくり技術者の育成等を支援 ・育成技術者数：20人	育成技術者数	20	人	24	120.0%	A
71	国際的研究拠点構築事業	国、県	海洋生態系等の研究成果の蓄積を生かした国際海洋研究所の国による設置へ向け、調査研究や国内外の大学等研究者ネットワークの形成を促進 ・研究開発拠点の誘致件数：2件	研究開発拠点の誘致件数		件	-	-	-
72	国際リニアコライダー(ILC)推進事業	国際機関、国、県	国際リニアコライダー誘致に向け、本県が構成員となっている東北加速器基礎科学研究会が中心となり、大学や研究機関等とともに受入れ条件整備等の検討や国等への要望活動を実施。また、県内経済団体等と連携した講演会の開催やパンフレットの作成・配付などを行うことにより誘致に向けた気運の醸成を図るための取組を実施	研究会、講演会等の開催回数	11	回	12	109.1%	A
73	三陸復興海洋エネルギー導入調査事業	国、県、市町村	再生可能エネルギーの利用拡大へ向け、本県沿岸地域で有望視される多様なポテンシャルの開発と活用のため、洋上ウィンドファーム及び海洋エネルギー利用実証フィールドの誘致へ向け、調査研究を実施	実証海域立候補地域数	1	件	1	100.0%	A
74	洋上ウィンドファーム事業化促進事業	県	洋野町沖合海域における着床式洋上風力発電の事業化に向け、地域受入体制の構築や環境・漁業への影響調査、関係者とのネットワーク強化等を実施	研究会の開催	3	回	3	100.0%	A
75	海洋研究拠点形成促進事業	国、県	これまで蓄積してきた海洋関連の研究成果の活用により被災地域の産業復興を支援するため、地域の大学等と連携し、水産、水産加工、食品等に関連した実用化研究を推進 ・三陸をフィールドとした研究件数：10件	三陸をフィールドとした研究件数	7	件	7	100.0%	A
76	沿岸研究機関等研究支援事業	県	被災により研究等が休止となっている教育研究機関等の研究再開へ向けた支援 ・被災研究機関の復旧件数：4件	被災研究機関の復旧件数		件	-	-	-
77	コバルト合金新産業クラスター形成促進・展開支援事業	国、県、釜石市、いわて産業振興センター	釜石地域を中心に進めてきた「いわて発」高付加価値コバルト合金の医療機器材料や産業用高耐久材料としての開発成果を活用し、より幅広い製品化開発等を通じ、沿岸地域産業の復興を促進 ・製品化件数：8件	製品化件数	8	件	8	100.0%	A
78	新素材・加工産業集積促進事業	県	「いわて発」高付加価値コバルト合金及びその製造・加工技術を活用した新素材(特殊合金)・加工産業の集積を図るため、材料の規格化や応用製品の事業化に向けた評価、試作及び販路開拓に関する県内企業等の取組を支援	展示会への出展	2	回	2	100.0%	A
79	いわて戦略的研究開発推進事業	県	震災からの着実な復興を目指し、大学等の有望な研究シーズから、実用化まで一貫した支援を行うコーディネート体制の構築、及び、公募競争型の研究開発支援事業を実施 ・国等の研究開発資金の獲得件数：32件	国等の研究開発資金の獲得事業件数	13	件	13	100.0%	A
80	科学技術振興推進事業	県	震災からの着実な復興を目指し、自動車・半導体・医療機器関連産業などに続く新たなものづくり産業の創出に向け、持続的なイノベーションが創出できるよう、産学官金連携を強化 ・沿岸地域企業の参加したプロジェクト実施件数：9件	プロジェクト実施件数	4	件	4	100.0%	A

3-III 観光

38 事業(47 指標)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
1	中小企業高度化資金貸付金(被災中小企業施設・設備整備支援事業)	中小企業基盤整備機構、県、いわて産業振興センター	復興事業計画の認定を受けた被災中小企業等の施設・設備整備に対し、中小企業基盤整備機構と県が協働し、いわて産業振興センターを通じた資金貸付を実施	貸付額(全業種)	110	億円	145	131.8%	A
2	中小企業災害復旧資金貸付金	県	事業所等が罹災した中小企業者で罹災証明書の発行を受けた方に対して、長期・低利の貸付を実施	融資額(全業種)	48	億円	49	102.1%	A
3	中小企業災害復旧資金保証料補給事業	県	災害復旧資金を利用する中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	215,253	千円	99,099	46.0%	D
4	中小企業経営安定資金貸付金(災害対策)	県	経営環境が悪化している中小企業者に対して運転資金の貸付を実施 ・経営安定資金融資枠総額：200億円(H24当初)	融資額(全業種)	323	億円	184	57.0%	D
5	岩手県制度融資の特例措置	県	資金繰りに支障を来すことが懸念される中小企業者に対して岩手県制度融資の条件変更(返済期間を最長3年延長)に関する特例措置を実施	保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		件	-	-	-
				保証協会の条件変更実績(県制度を含む全制度)		億円	-	-	-
6	中小企業東日本大震災復興資金貸付金	県	中小企業者に対して経営の安定に必要な資金の貸付を実施 ・融資枠：500億円	融資額(全業種)	1,531	億円	1,506	98.4%	B
7	中小企業東日本大震災復興資金保証料補給事業	県	東日本大震災復興資金を利用する直接被害を受けた中小企業者に対して、負担を軽減するため保証料補給を実施	保証料補給額(全業種)	2,049,971	千円	1,914,674	93.4%	B
8	小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置	国、県、いわて産業振興センター	直接被災した企業を対象に小規模企業者等設備導入資金貸付事業の特例措置を実施 ・新規導入設備の貸与期間2年間延長 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ	貸付・貸与額	1,019	百万円	921	90.4%	B
9	小規模企業者等設備導入資金貸付事業の償還免除	国、県、いわて産業振興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	16	社	16	100.0%	A
				償還免除	5.9	百万円	6	100.0%	A
10	地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置	県、いわて産業振興センター	直接被災した企業を対象に地域産業活性化企業設備貸与事業の特例措置を実施 ・既存貸付設備の償還期間2年間延長 ・貸与損料率やリース料率を基準より引下げ ・貸付条件の拡大措置を実施 ・据置期間の1年間延長	貸与額	2,397	百万円	1,691	70.5%	C
11	地域産業活性化企業設備貸与事業の償還免除	県、いわて産業振興センター	被災により、貸与した設備が滅失した場合、滅失した設備について償還免除(債権放棄)を実施	償還免除	14	社	14	100.0%	A
				償還免除	11.1	百万円	11	100.0%	A
12	中小企業被災資産修繕事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の現有店舗・工場等の修繕に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		件	-	-	
				補助金額		千円	-	-	
13	中小企業等復旧・復興支援事業	民間企業	被災した複数の中小企業等が一体となって行う施設・設備の復旧・整備に要する経費に対して補助	補助件数		件	1,244	-	-
				補助金額		百万円	78,127	-	-
14	中小企業被災資産復旧事業	市町村	市町村が行う被災した中小企業の店舗・工場等の復旧に対する補助事業に要する経費に対して補助	補助件数		社	274	-	-
				補助金額		千円	446,776	-	-
15	復興支援ファンド設立支援事業	国、県、金融機関等	二重債務問題解消に向けた既存債権の買取を行う復興支援ファンドを設立し、岩手県産業復興相談センターと連携して、事業計画の策定など、被災企業に対する様々な再建支援を実施	岩手県産業復興相談センターの相談受付件数(全業種)	625	企業	495	79.2%	C
				二重債務対策支援件数	625	件	149	23.8%	D
16	特区制度等の活用による各種優遇税制措置	国、県、市町村等	復興特区制度等による国税・地方税の優遇税制を活用することにより、新規立地の促進や被災企業等の早期復興を支援	新規立地・増設件数	71	件	99	139.4%	A

事業概要及び実績(3-III 観光)

No.	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
17	県北沿岸地域観光力強化支援事業	県	県北沿岸部の観光力を強化するため、中核コーディネーターを配置し、観光素材を生かすための人材、仕組、産業間連携を促進	地域と連携して形成した魅力的な観光地のモデル数(累計)	2	箇所	2	100.0%	A
18	いわてデスティネーションキャンペーン推進事業	推進協議会	沿岸の復興支援と内陸観光振興に向けた全国への情報発信、誘客事業の展開、地域主体の観光地づくりを推進 ・宣伝、誘客事業の実施：誘客イベント、情報発信等 ・受入態勢整備事業：歓迎イベント、二次交通対策等 (キャンペーン回数：年1回)	いわてDCプレキャンペーンの実施	1	回	1	100.0%	A
				いわてDCの実施	1	回	1	100.0%	A
19	いわてグリーン・ツーリズム復興応援事業	県	本県での体験型教育旅行実施校数の回復を図るため、県外への体験型教育旅行のPR活動としてモニターツアーの実施と体験型教育旅行誘致のための説明会、戸別訪問の実施、また緊急時の安全対策等の研修会開催による安全・安心な受入態勢を構築 ・モニターツアー 3か所 ・体験型教育旅行誘致説明会 4か所 ・安全対策研修会 2回	体験型教育旅行の誘致活動(誘致説明会、学校訪問の実施)	4	回	4	100.0%	A
				受入農林漁家を対象とした研修会開催	2	回	1	50.0%	D
20	イーハトーブいわて観光振興事業	県、推進協議会	沿岸の復興支援と内陸観光振興に向けた全国への情報発信、誘客事業の展開、地域主体の観光地づくりを推進 ・宣伝、誘客事業の実施：誘客イベント、情報発信等 ・受入態勢整備事業：歓迎イベント、二次交通対策等	観光キャンペーン等の実施	1	回	1	100.0%	A
21	産学官連携観光マネジメント人材育成事業	県、県立大学、岩手県観光協会	魅力的な観光地づくり推進のための人材育成のため、産学官連携によるセミナー研究会を開催しカリキュラム等を検討するとともに、セミナー実行委員会を組織し検討結果に沿ったセミナーを開催 ・研修受講者数 20人/年	研修受講者数	40	人	41	102.5%	A
22	三陸観光再生事業	県、市町村、関係団体	震災学習を中心とした教育旅行の誘致を促進するため、受入態勢の整備や誘客活動を実施 誘致説明会への出席4回/年 AGT等招請3回/年	教育旅行誘致説明会への出席	4	回	4	100.0%	A
				AGT等招請	3	回	0	0.0%	D
23	いわてデスティネーションキャンペーン推進事業	推進協議会	沿岸の復興支援と内陸観光振興に向けた全国への情報発信、誘客事業の展開、地域主体の観光地づくりを推進 ・宣伝、誘客事業の実施：誘客イベント、情報発信等 ・受入態勢整備事業：歓迎イベント、二次交通対策等 (キャンペーン回数：年1回)	いわてDCプレキャンペーンの実施	1	回	1	100.0%	A
				いわてDCの実施	1	回	1	100.0%	A
24	国際観光推進事業	県	東アジア圏(台湾、韓国、中国、香港)をターゲットとし、海外事務所を活用し、震災等による風評被害の払拭や認知度向上、旅行商品の造成・販売促進事業により外国人観光客の誘致を推進 ・海外AGT招請5回/年、旅行商品造成4回/年、海外旅行博出展5回/年	海外AGT招請	29	回	47	162.1%	A
				旅行商品造成支援	12	回	23	191.7%	A
				海外旅行博出展	19	回	26	136.8%	A
25	今こそ岩手へ誘客促進事業	岩手県観光協会	沿岸地域の復興支援と過度な自棄・遠慮ムードの払拭による誘客促進と観光消費の拡大を図るためプレゼントキャンペーンを展開 ・県外観光客を対象としたクーポン券プレゼント(1,000円券×1,000人)	プレゼントキャンペーン	1	回	1	100.0%	A
26	いわて希望の旅誘客促進事業	推進協議会	沿岸の復興支援と内陸観光振興に向けた全国への情報発信、誘客事業の展開、地域主体の観光地づくりを推進 ・宣伝、誘客事業の実施：誘客イベント、情報発信等 ・受入態勢整備事業：観光コーディネーターの設置、二次交通対策等 (キャンペーン回数：年1回)	大型観光キャンペーンの実施	1	回	1	100.0%	A
27	原発放射線影響対策事業	県、岩手県観光協会等	放射性物質に係る安全対策と風評被害を払拭するための取組を推進 ・風評被害防止のための県内外への情報発信	ホームページ更新回数	36	回	36	100.0%	A
28	東北観光推進事業	県	東北観光に係る震災等による風評被害の払拭や認知度向上と国内・海外観光客等の誘致を推進 ・1団体/年	旅行博への参加	8	回	13	162.5%	A
29	北東北三県・北海道ソウル事務所管理運営事業	県	観光分野を中心とした海外交流拠点を韓国に整備し、震災等による風評被害の払拭や観光客の誘致拡大、物産の販路開拓、技術交流、文化交流等を拡大 ・物産共同事業：年1回	各種イベントへの出展	9	回	14	155.6%	A
				観光商談会開催	6	回	6	100.0%	A
30	北東北広域観光推進事業	推進協議会	北東北三県が一体となり、震災復興に向けた国内外への観光振興事業を実施し、北東北三県の広域観光を推進 ・1団体/年	観光セミナーの実施	3	回	3	100.0%	A
				マスコミ・エージェント等の招請	15	回	18	120.0%	A

事業概要及び実績(3-III 観光)

	事業名	事業主体	事業概要	第1期計画期間中の目標			第1期計画期間中の実績		
				項目	数量	単位	累計実績	進捗率	
31	未知の奥・平泉観光振興事業	県	沿岸の復興のシンボルとしての「平泉」を核に、過度な自粛・遠慮ムードの払拭のため情報発信、誘客事業を実施 ・情報発信（7回）：広告媒体の活用、ポスター等 ・誘客事業（3回）：誘客イベント等の開催	JR首都圏主要駅ポスター掲出	1	回	1	100.0%	A
32	いわて花巻空港利用促進事業	県、岩手県空港利用促進協議会	花巻空港の路線の維持・拡充等及び利便性向上を図り、本県経済の幅広い発展に資するため、官民一体となった利用促進を行う岩手県空港利用促進協議会に負担金を支出し、震災後、復興支援で新たに就航した路線等について利用促進を実施	航空機利用者数	940	千人	1,019	108.4%	A
				国際線の運航回数	104	回	134	128.8%	A
33	いわてへの定住・交流促進事業	県	復旧支援やボランティア活動等による他県民との新たな交流、つながりを活かし、本県の魅力である自然や歴史・文化をPRし、本県への定住・交流を推進 ・県内33市町村	イベント等への参加件数	15	回	17	113.3%	A
34	いわて情報発信強化事業	県	開かれた復興を目指し、国内外からの支援に対する感謝を伝え、震災を忘れず応援し続けていただくため、震災から立ち上がる岩手の姿や「黄金の國、いわて。」に表現される岩手の魅力を継続的に発信 ・県外に向けた情報発信 ・希望郷いわて文化大使に対する岩手の魅力情報の発信	広聴広報課twitterのフォロー増加数	15,488	人	18,845	121.7%	A
35	海外向け情報発信事業	県、市町村	本県への注目度を高め、震災の記憶を風化させず継続的な支援を喚起するため、海外との「つながり」等を活かし、支援に対する御礼を伝えるとともに、復興に向けて立ち上がる岩手の姿を情報発信	海外向け情報発信	3	回	4	133.3%	A
36	岩手県観光協会育成事業	県	岩手県観光協会が実施する観光客受入整備及び観光客情報発信に関する事業を実施し、震災等による風評被害の払拭や世界遺産平泉を中心とした本県観光の振興を推進 ・1団体/年	岩手県観光ポータルサイト「いわての旅」アクセス件数	493	万件	586	118.9%	A
				教育旅行誘致説明会開催箇所数	12	箇所	12	100.0%	A
37	みちのく岩手観光案内板整備事業	県	震災により、滅失又は毀損した観光案内板の整備及び修繕を実施 ・観光案内板整備：10基/年	全県観光案内板の整備	10	基	5	50.0%	D
38	みちのくコンベンション等誘致促進事業	県	国が実施するコンベンション等誘致の商談会に参加し、震災関連のコンベンション等の誘致を促進 ・商談会参加：1回/年 ・キーパーソン招請事業：1回/年 ・パンフレット作成：5,000部/年	コンベンション誘致件数	6	件	6	100.0%	A

いわて復興レポート 2014

岩手県東日本大震災津波復興計画の取組状況等に関する報告書
-第1期(平成23年度～平成25年度)の取組-

参 考 資 料

平成 26 年 7 月

岩手県復興局 平成 26 年 7 月 発行

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

TEL: 019-629-6945 FAX: 019-629-6944

E-mail: AJ0002@pref.iwate.jp

HP: <http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>